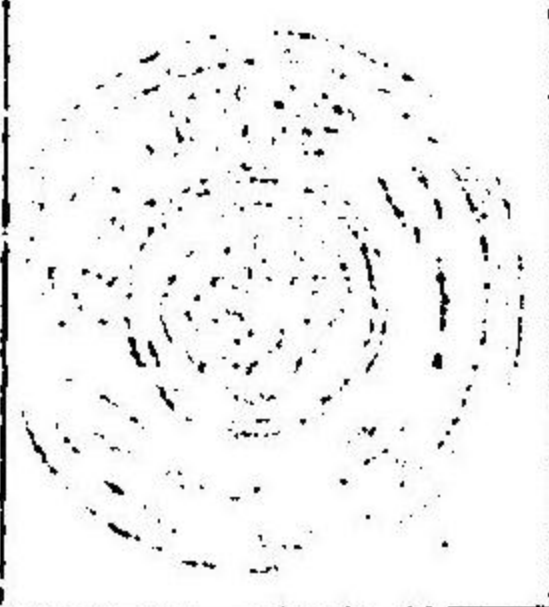


21-149  
No. 10990

東京 富山房發兌

伊曼佛  
英木  
五大國漫遊

米國博士ボスウエル氏原著  
日本 山本憲一譯述



五夫國漫遊序

序  
澎湃鞞鞞タル大河モソノ源ニ遡レバ元ト是レ汎濫ノ  
小泉ノミ現時ニ稱セラレテ文明國ノ名ヲ得ル者ト雖  
モソノ始メヲ尋テ元來如何ナル狀態ニテアリシヤナ  
考ラルトキハ人ヲシテ悚然自省發奮ノ念ヲ起サシム  
ルナラシ蓋シソノ初メ文化未ダ開ケサルニ方リ寂寞  
タル湖村悽慘タル海邊ニ於テ人民各處ニ部落ヲ成シ  
野蠻ノ生涯ヲ送リタルヲ以テ之ヲ今日文明ノ狀況ニ  
比スルニソノ相異ナル地獄ノ天堂ニ於ケルト一般ナ  
文  
(一)

リ然リト雖モソノ憐ムベク悲ムベキ生涯ハユノ五大  
 國ノ曾テ經過セル段階ナルニ相違ナシ去レバユノ篇  
 ナ讀マン人ハ獨リ其ノ文化ノ绚烂タルニ眩惑セラル  
 、ナク退イテ彼モ人ナリ我モ人ナリト信ス可シ社會  
 ノ發達未ダ旺盛ナラザルモ國民ノ心懸ケニ因テハ文  
 明得テ企望ス可シト悟ラレヨ然リト雖モ文明ニ達ス  
 ルニ輦道ナシ蒙茸ヲ鬱テ荆棘ヲ披キ峻坂ヲ踰ヘ大江  
 ナ渡リ世路ノ千險萬艱ヲ經過シ盡シテ始メテ文明ノ  
 境域ニ達シ得ル是レ又覺悟セサル可カラザルナリ舞

蹈會假裝會ハ豈ニ之カ適當ナル方便ナランヤ

明治二十一年六月牟々  
 亭ニ於テ

天野 澁村

五大國漫遊序

序

身ニ家事ノ累ヒナク公務ノ責メナク、財豊カニシテ體  
健ニ、足跡ヲ歐米各國ニ普クシ、腦裡ニ西洋ノ文物粲然  
トシテ可觀モノヲ映シ、親シク歷史上ノ遺蹟ヲ尋テ  
胸臆ヲ廣豁ニシ山河ヲ跋涉シテ風光ヲ掬拾シ、快ケレ  
バ行キ疲ルレバ憩ヒ唯ダ己ガ心ノ儘ニ任シ其探ラシ  
ト欲スルノ諸所ハ飽迄之ヲ見舞フ者アラシカ余ハ之  
ヲ稱シテ眞ノ漫遊トハ云フナリ

文

(一) 凡ソ異邦ノ事物ノ真相ヲ探討シ其核實ヲ得ント欲セ

(二)

バ先ヅ靜寧爽快ノ精神ヲ持シ且ツ歸期ノ目前ニ迫ル  
ナキヲ要スルナリ其間事物ノ見ルベキ無ク記ス可キ  
無キ場所ハ瀛船ノ便瀛車ノ利ニ依リテ匆匆ニ之ヲ經  
過スルモ獨リ風物人情ノ異同甚ダシク要用ナル記錄  
ノ材料ヲ供フルモノハ水村山郭ト雖モ親シク爰ニ步  
ヲ寄セテ叮嚀ニ之ヲ目撃セザルベカラズ

遊漫國大五

當時我國紳士豪商ノ陸續洋行漫遊ヲナス日又一日ヨ  
リ其數ヲ加フ然レモ家事ノ累ヒナク公務ノ責メナキ  
ト財豐ニシテ體健ナルトノ四者ヲ兼ヌル者ハ蓋シ少

序

ナカラシ且ツヤ文明日新ニ進マントスル日本ノ社會  
ハ百事頻繁ナレバ如何ニ其四者ヲ併有スル者ニテモ  
優々閑々海外ニ數多ノ星霜ヲ經過スルヲ能ハザルベ  
シ況ンヤ四者ノ其一ヲ欠キ其二ヲ損セルモノニ於テ  
ナヤ

文

余措大ノ身ニシテ未ダ其重任ノ歸スルモノナキモ不  
幸其他ノ二ヲ欠ケリ故ニ嘗テ講學ノ餘暇米國博士ボ  
スウエル氏ノ著セル各國漫遊ノ冊子ヲ繕キ親ラ其憂  
ヲ遣レリ顧フニ世間ニハ財豐ニシテ體健ナルモ身ニ

(三)

五大國漫遊

(四) 家事ノ累ヒアリ公務ノ纏フノ士蓋シ多カラシ漫遊ヲ  
遂ゲ能ハザルモノ何ゾ獨リ余ノミナラン哉試ミニ其  
中五大國ヲ擇ビ譯述シテ以テ同患ノ友ニ示メス

明治廿一年七月

山本繁山識

五大國漫遊目錄

卷之一

以太利

地勢並物産

諸都府

歴史

文學

美術

政治

宗教

漫遊之摘要

卷之二

(一) 目錄

一 二 六 一三 一八 二三 二六 二九 三一

(二)

目錄

日耳曼

伯林

地勢

都府

歷史

附ピスマルッ公

文學

政治

宗教

卷之三

佛蘭西

巴里

三七

三七

四〇

四二

四五

五七

五八

六五

六九

七三

七三

目

錄

(三)

地勢並物産

歷史

佛人ノ特性

文學

政治

宗教

佛國將來如何

卷之四

英吉利

倫頓

歷史

英人ノ特性

七八

八〇

九八

一〇一

一〇四

一〇七

一一〇

一二三

一二三

一二六

一三二

(四)

目

錄

卷之五

合衆國

都府

地勢

歷史

民情

政治

國語

文學

美術及發明

宗教

英國之現狀

一三五

一三七

一四〇

一四四

一四六

一四九

一五〇

一五三

一五五

一七四

一七六

目

錄

(五)

文學

宗教

社會之氣運

一八〇

一八三

一八七

五大國漫遊目錄終





(二)

ノ如ク旅行券規則亦タ廢セラル是ニ於テカ名山勝水ノ蹤ヲ以國ニ尋  
ヌルノ騷客漸ク多キヲ加ヘリ蓋シ世界ノ廣キ邦國ノ多キ勝概ニ富ミ  
舊蹟ニ乏シカラザル者アリト雖ヒ其ノ史家美術家ヲシテ無數ノ材料  
ヲ資ラシメ遊歴ノ徒ヲシテ無限ノ快樂ヲ得セシムル者以國ヲ措キテ  
他アラザル可シ

地勢并物産

試ニ地圖ヲ繙ケバ一見シテ以國地勢ノ一種異様ナルト其ノ隣邦ニ對  
スル關係如何ヲ曉知スルヲ得ヘシ全國遠ク海中ニ突出シテ一大半島  
ヲナシ北ノカタ纒ニ歐州ニ接スル所ぼるふす山屹然天外ニ聳エテ自  
ラ強隣ヲ禦クノ城壁タリ其ノ山脈遠ク南ニ走り中央平原ノ所ニ至リ  
テ伏ス河ノ大ナル者ヲば一河トス沃野ノ間ヲ駛セ屈曲シテ海ニ朝ス  
舟楫迦ルヘシ其他ハ皆小河多クハあはん、ちは一、二川ノ如キ者舟楫ノ

五 大 國 漫 遊

伊

太

利

(三)

利ナシト雖ヒ歴史ニ散見シ詩題ニ入ラサル者殆ント罕ナリ以國ハ又  
タ江湖ニ乏シカラズ北方あるふすノ山麓ニアル者多クハ皆風景ニ富  
ム其最美ナルヲこも湖トス長サ三十英里属自スレハ兩岸多クハ葡萄  
園ニシテ間々花園別荘ノ介スルアリ又タ烟露模糊ノ間ニ小村落ノ散  
布スルヲ見ル天朗カニ風靜カナレバ斜陽映水ノ景宛然掬スベシ遙カ  
ニ水涯ヲ隔テ、あるふす山アリ樹木鬱蒼別ニ又タ一壯觀ヲナセリ  
以國ノ氣候ハ地位一樣ナラザルノ故ヲ以テ到ル處其ノ寒暖ヲ同フセ  
ズあべにん山以北ハ三冬極メテ寒烈羅馬地方ハ始春ニアリテ北風而  
チ撲チ肌ヲ裂クノ寒動モスレバ人身ヲ惱マシムルコアルモ積雪脛ヲ  
没シ一家舉グテ爐畔ニ圍樂スルガ如キハ盛冬ニアリテモ絶テ之レヲ  
見ルコナシ全國概シテ乾燥唯々羅馬近傍ノ平地及ビたれんたむ沿海  
ノ地ハ卑濕ニシテ時々人ノ健康ヲ害スル少ナカラズ此二地ハ羅馬驕

(四)

遊漫國大五

レルノ昔ハ人口稠密ノ地タリシガ物換リ星移ルノ今ハ閑圃人ナク唯  
 鷓鴣ノ飛ブチ見ルノミナリ蓋シ以國ヲ遊歴スルノ好時節ハ四五月ノ  
 交ト十一月ノ間トス尤モ江山ノ風景ハ炎天身ヲ煌クノ三伏ニ在リ  
 テモ更ニ其奇觀ヲ損セザルベキハ勿論ナレヒ日中ノ苦熱ハ旅客ノ快  
 樂ヲ妨グルコナラン

物産ハ其種類亦一樣ナラズト雖ヒ到ル處葡萄圃ヲ見ザルナク就中石  
 灰質ノ岡丘ニシテ日光能ク照ス處ハ其耕作最モ多シ又森林ハ多クハ  
 柏、榲桲、橄欖ノ類ニシテ米小麥ニ適スル田畑亦少ナカラズ世の近傍  
 海岸ノ地ニ至リテハ橙、檸檬、ノ耕作多シトス

魚類ハ以國人普通ノ食料ニシテ鳥類肉ハ一般人民ノ多ク用フル處ニ  
 アラズ又タ養蠶製絲ノ業ハ到ル處ニ行ハルサレバ生絲ハ輸出品ノ主  
 部ヲ占ムルモノニシテ肝油之ニ亞ク

伊

太

利

(五)

鑛物ハ之ヲ農産物ニ比スレバ其類甚ダ少シ銅ハたすかに一地方ヨリ  
 生シ鐵ハえるば地方ヨリ産ス大理石ノ精良ナル者ハからら地方ノ石  
 山ニアリ以人ノ常ニ彫刻ニ用ル者即チ是ナリト云フ但シ炭鑛ハ國中  
 ニ存スル者アルヲ見ズ

以國ハ三面皆海ニ瀕シ大船巨舶ノ碇泊スルヲ得ヘキノ良港少ナカラ  
 ザルヲ以テ世界此國ヲ稱シテ商業國ト呼ビナス者蓋シ原因ナキニア  
 ラズ羅馬盛大ヲ極メタル中世ニアリテハ各國ノ商船常ニ輻湊シテ各  
 にそげんなノ諸府一時之レガ爲ニ富饒ヲ致セシガ其後政治其方針ヲ  
 誤リ統御其中正ヲ失ヒシテ以テ商業ヲ舉テ萎靡不振ノ域ニ墮レ夫ノ  
 閣龍ヲ出セル良水夫ノ種類ヲシテ今ヤ其遺族ダモ存セザルニ至ラシ  
 メタリ然リト雖ヒ輒近ニ至リ以國復タ新タニ一成國ヲナシテ商業亦  
 タ漸ク振作シ蘇士運河ノ工事成ルニ及ビテ東ノ方亞細亞ニ對スル貿

易開ケタレバ後來昔時ノ商況ヲ再現スルコトナラン  
 鐵道ノ架設ハ千八百四十年ヲ以テ始メ歐州ノ首府ニ通達シ國內都會  
 ノ地ヲ連絡スルノ鐵路已ニ落成ヲ告ケタレバ其國利ヲ起スコト尠少ニ  
 アラザルベシト雖ヒ架設未ダ普ネカラズシテ他ノ歐州諸國ノ盛大ナ  
 ルト同視スルヲ得ズ

以國風景ノ絶美ナルハ世人ノ能ク記スル所ニシテ今更ラ茲ニ云フニ  
 及バザレハあるぶす山ヲ踰へるんば一で平原ニ達スルノ山路ハ其  
 景或ハ幽濠或ハ奇絶ニシテ筆紙モ其義務ヲ盡ス能ハザル者アリ又タ  
 美觀佳景ノ目ヲ娛シメ心ヲ慰ムル者ハ湖水アリ葡萄園アリ田畑アリ  
 而シテ其最モ美チ極ムルモノハ麥穗浪ヲナシ斜陽之ニ映ズルノ瞬間ト  
 ス世人以國ヲ呼ンデ美術家ノ寶山ト云フ所以ノモノ良ニ宜ナル哉

諸都府

以國ノ風景ニ富ムコト略々前段ニ述ベタルガ如シト雖ヒ旅客ヲシテ無  
 上ノ快ヲ博セシムル者ハ寧ロ諸都府ヲ歴覽スルコトナラン歟みらん府  
 ぶらにを府ふるれんす府羅馬府及ヒねーぶる府ノ如キハ以國ニ遊ブ者  
 一見ノ機ヲ失フベカラズ就中せいのわ府ハ勝概ノ地多ク又タ古代貴族  
 ノ宮殿ニ乏シカラザレバ旅客數日ヲ此地ニ費ヤスノ價値アラソ  
 くらん府ハ以國ノ一繁榮地ナリ輓近技工ノ多ク集合スル所ロナリ其  
 寺院ハ此府ヲシテ世ニ其名ヲ高カラシメタルノ媒介物ニシテ都人之  
 レヲ呼ンデ世界八不思議ノ一トナス大サ羅馬府聖ばーる寺院ノ如ク  
 ナラズト雖ヒ大理石ノ肖像二千余个ヲ藏スル等美觀ノ點ニ至リテハ  
 天下更ニ其比ナシトス

ぶらにす府 ハ以國都府中ノ第一勝地ト稱シ畫工ノ好ンデ尋ヌルノ地  
 其詳細ノ事ニ至リテハばいろん氏せいくすびーわ氏ノ著作ニ明カナレ

伊太利羅馬古時集議院殘柱



エニエス市府街ノ景



五 大 國 漫 遊 (八)

六余ハ蛇足ヲ書クノ愚ヲ傲ハザルベシ市街ハ堀割ノ兩岸ニアリ橋梁  
 ナ架シテ車馬往來ノ便ヲ謀ルヲナサズ却リテ小舟ヲ以テ往來ヲナス  
 亦佳ナラズマ<sup>聖</sup>マ<sup>一</sup>ク寺院ハ工事一百年余ノ久シキニ亘リ十一世紀  
 ニ至リテ始メテ成ル皆大理石ノ符細工ニシテ鐵釘ノ痕ヲモ留メズ  
 正門ノ兩側ニハ黃銅ヲ以テ鑄タル四個ノ牡馬アリ纒カニ門ニ入レハ  
 傍ヲニ一宮ヲ見ル昔シ政務官ノ數百年間人民ヲ統御セル官舎ナリト  
 云フ其外觀極メテ壯麗漸ク内部ニ入レバ室相連ナリ一線狀ヲナシテ  
 遠ク走ルモノ數棟アリ殊ニ其壁間掛ルニ當府古來ノ沿革及ヒ歴代政  
 務官ノ畫像ヲ以テセルガ故ニ旅客ヲシテ坐ロニ懷古ノ情ニ耐ヘザラ  
 シム  
 又タ當府ノ歴史ハ一種奇異ト云フベシ上古ハ世襲貴族ノ統御スル所  
 ロニシテ高等參議院ハ其主權ヲ掌握セシガ降りテ十五世紀ニ至リ商



ろすト稱スル墓所アリ以國ノ名家ヲ埋葬セルノ地タリ余ハ茲ニ天文  
 學者ガリレを氏ノ墓ヲモ訪フヲ得タリ  
 羅馬府 ハ名勝ニ富ミ舊蹟ニ乏シカラザレハ旅客ノ以國ニ遊ブモノ  
 、常ニ慕フ所口見物ハ冬期ヲ最モ良シトス是レ十月ノ始メヨリ天氣  
 次第ニ晴朗ニシテ寒冷甚ダシカラザレバナリ當府ノ來歴ハ遠ク二千  
 載以上ノ往古ニ溯ルベク或ヒハ帝王ノ座トナリ或ハ共和政治ノ中心  
 トナリ或ヒハ又法王政治ノ源トナル而シテ今ヤ王國中央政府ノ所在ト  
 ナリ又旅客市中ヲ徘徊シテ耳目ニ感觸スルモノ甚タ多カルベシト雖  
 且敬天塔(上古羅馬人民ノ太陽ヲ敬スル爲メニ建テタル者)ハ羅馬上古  
 ノ感觸ヲ慝キ聖キばーる寺院ハ中世ノ情狀ヲ呈シ車馬絡繹セル車停車場  
 ハ更ニ又タ現時文明ノ趣キヲ表ハシ人ヲシテ懷ヲ令古幾千年ノ間ニ  
 往來セシメリ事蹟ヲ探ラント欲スル旅客ハ或ハ政堂(古ヘ政事ヲ司ト

リシ所)ニ詣リテ雜草瓦礫ノ間ニ彷徨シ或ハ法王ノ書籍館ヲ訪フ杯ヲ  
 以テ無上ノ樂ミトナシ知ラズ識ラズ數日ヲ費ヤスベク美術ヲ學バン  
 ト欲スル者ハ寺院墓地ノ間ニ寢食ヲ忘ル、コナラン  
 又タ上古羅馬ノ建築ニ係リ今日ニ至リテ毫モ其脩繕ヲ怠ラザルモノ  
 ハ佛堂ナリ余ハ書祖らべるノ墓以國祖王ノ廟ヲ茲ニ拜スルヲ得タ  
 リ  
 ねーぶる府 ハ以國都府中ノ大ナル者ニシテ市街ハ人民群集シ雜沓  
 晝夜ヲ分タズ港口ハ帆檣林立シテ寒暑ニ論ナシ街衢半ハ海濱ニアリ  
 テ半ハ山腹ニアリ岡頭ヨリ眺ムルノ風景ト船上ヨリ望ムノ摸樣ハ  
 共ニ天下絶無ト稱ス諺ニ曰ク「一タビ寧府ヲ見テ死セヨ」ト余ハ寧口言  
 ハントス「永ク寧府ヲ眺メテ暮セ」ト蓋シ斯カル奇景ノ勝地ニ住居シテ  
 朝夕其山水ノ間ニ呼吸スルヲ得バ人生ノ娛樂ヲ増進スルコナラン

(二一)

五 大 國 漫 遊

又々當府博物館ハ大理石及ビ黃銅ノ器物舊都ぼんべノ地中ヨリ採掘シタル蔭畫ヲ藏スルヲ以テ多ク人ノ稱スル處上古羅馬人公私ノ生計法ト其需用物ノ如キハ此一場ヲ一見スルニ於テ略々一斑ヲ伺フヲ得ベシ已ニ場内ヲ觀覽シ了ラバ去リテぼんべ府ニ行ケ也タ新タニ一快ヲ博スルニ足ラン當府ハ羅馬ヲ距ル一三十英里ウービ山斷ハズ噴火シテ灰ヲ降ラスノ間ニ埋没スル者即チ是レナリ徐歩二三時ニシテ略々市上ノ摸樣ヲ探ルニ足リ古戰場佛堂住家ノ建方公浴場等古代遺物ノ稍々見ルヘキ者ハ今仍ホ雨露漏リ瓦礫壞ル、ノ間ニ在リ當府又タ一博物館アリ室内豁如トシテ空氣流通ノ點ニ至リテハ廣キ世界ニ更ニ比ナシト云フ

歷史

以國ハ古ヨリ一成國ヲナサズ無數ノ小社會四方ニ割據セルヲ以テ事

伊

太

利

(三一)

實錯雜條理多岐ニシテ之ヲ概括シテ一小冊中ノ一小部ニ記セントスルガ如キハ余ノ甚々難シトスル處ナリ紀元四百七十年以降大凡六百年間歐洲北方ノ強種族ゴス、フランク、日耳曼等相續テ干戈ヲ以テ以國ヲ征服セリ之レヲ正史ノ始メトス尋デ日耳曼族内國多事ノ故ヲ以テ以國ヲ棄テ、本國ニ歸リ復タ威力ヲ以國ニ施スニ遑アラズ日人ノ權稍々衰フニ及ンデ以國分裂シ都府各々其城壘ヲ固フシ其甲兵ヲ練リテ獨立ヲ計レリ日帝へんり一四世赫怒シ親ラ羅馬ニ入ル(日耳曼ノ部ニ明カナリ)法王ぐれごり其横恣ヲ憤リ帝ト相阻ム之ヲ歐洲ノ一大地震トナス是ヨリ先キ數百年間帝王法王ノ間ニ一大爭論アリ日ク世ノ主權ハ精神上ニ在ルヤ將タ肉體上ニ在ルヤ之レヲ反言スレバ主權ナルモノハ法王之レヲ握ルヘキ乎帝王之レヲ掌ルヘキ乎ト云フニ在リ今ヤ二王ノ爭フ所亦此點ニ外ナラズ其後日帝法王ノ門前ニ佇立シテ



憐ミテ乞フコト三晝夜積雪脛ヲ没シ堅氷手足ヲ傷ルニ至リテ始メテ其容ルス所トナル法王ぐれをりハ法王中ノ俊傑教門拔群ノ政治家ナリ不幸ニシテ國歩艱難ノ秋ニ生レ世俗紊亂ノ衝ニ當リ遂ニ衆人ノ怨ム所トナリ簡セラル其死眞ニ憐ムベシ

法王已ニ權ヲ得日帝空シク故國ニ歸ル是ニ於テ以國ノ都府皆忽焉トシテ興リ人口次第ニ繁殖シ財貨又タ集ル其一例ヲ舉レバびざー府ハ寺院ヲ建築シミらん府ハ疏水ノ工事ヲ起シテろんばーでーノ荒原ヲ拓ケリサレハ以國此機ニ乘ジテ一大強國ヲナスニ至ルヤ素ヨリ難事ニアラズ然レモ諸府相互ニ權柄ノ漸ク大ナルヲ妬ミ百方之レヲ挫折シテ以テ各自ノ境土ヲ廣メ其財貨ヲ増サンコトヲ力メ干戈歇ムナク商業亦タ頽レ他ヲ殺キ己ヲ利スルノ野心却リテ自家ノ禍ヲ速キ以國文明ノ歩武ヲ退クルニ至レリ

後チ又タげらるふぎべれんニ黨ノ爭擾アリ法王ヲ羅馬以外ニ放逐スルコト七十余年此間記スベキコトナキニ非レモ詳略宜シキヲ失スルノ恐アレバ姑ク擱クコトナシヌ

尋イテ當路者政ヲ失シ民塗炭ニ苦ミ上下分裂シテ互ニ相攻メ接戰久シキニ亘リ多ク雇兵ヲ用ヘリ然レモ雇兵素ヨリ彼ヲ怨ミ我ヲ愛スル者ニアラザルヲ以テ之ニ食マシムルニ利ヲ以テセバ昨日ノ敵モ今日ハ味方トナリ與フルニ薄給ヲ以テセバ乃チ戈ヲ倒ニシテ來リ撃ツ畢竟スル所其爭唯以國ノ發達ヲ妨ケタルノミ

千四百九十二年埃斯太利西班牙ノ二國兵ヲ舉テ内地ヲ侵シ土地ヲ荒シ人民ヲ損スルコト延テ數百年ノ久シキニ至レリ此間以國既ニ國體ナク又タ國史ナシ然レモ國ヲ愛シ家ヲ憶フハ人ノ天性ナレハ以國人民其獨立ヲ企ツルノ念須臾モ止マズさばい公ペどもんと州ニ王タルニ

及ビ執政宜キヲ得テ二國ノ敵ヲ境外ニ放逐シテ遂ニ以國ノ王位ヲ踐  
 ミ全國一統ノ政治始メテ行ハル  
 其後又タ佛國ニ革命起リ千七百九十七年第一世奈破烈翁一舉シテ以  
 國ヲ奪ヒ土地ヲ割キテ其將校ヲ勞フ以人ノ悲境甚メ吊スベキニ似タ  
 レ其其實大ニ然ラズ何トナレバ土地分裂シ敵將政ヲ恣ニシタル結果  
 ハ直チニ國人ヲシテ國力一致ノ至要ヲ感ゼシメタレバナリ千八百十  
 五年奈破烈翁一敗地ニ塗ルニ及ビテ佛將乃チ國外ニ走り前ノ侯伯舊  
 位ニ復シ而シ民ヲ虐スル昔ニ異ナラシ然レモ社會ノ氣運一變シテ國  
 民曲サニ彈丸白刃ノ難ニ慣レ亦タ昔日ノ阿蒙ヲ以テ稱スベカラズ或  
 ハ徒黨ヲ結ビテ暗ニ政令ニ抗シ或ハ各處ニ密會ヲ開キテ陰ニ民心ヲ  
 煽動セリまらずに氏千八百八年ヲ以テ生レ新以國黨ト稱スル者ノ袖領  
 トナル此黨當時ノ藩政ニ反對スル人々ヲ以テ組織セル者ナリ氏口辨

極メテ妙過激極端ノ説多キヲ以テ識者ノ議スル所トナリシモ國民ヲ  
 シテ自由ノ眞味ヲ知ラシメタルハ氏ノ力多キニ居ルト云フベシかり  
 ばるで氏嶄然亦タ起リ勳功拔群國人皆之ニ依頼スルノ意アリ氏ハ主  
 トシテ賢主ヲ撰ビテ以國全土ノ王タラシムルヲ力メリ然レモかぶ  
 る氏ガ政治家タルノ美質ト謹慎果斷ノ性トヲ以テ輿論ヲ喚起シ國力  
 ノ一致ヲ勉メ堅牢ノ基礎ニ自由ヲ安置セシニ非サレハ前二氏ノ勞全  
 ク水泡ニ属セシナラン氏ハ千八百六十一年ヲ以テ卒ス其瞑スルニ臨  
 ミ叫ンテ曰ク「一國ノ獨立宗教ノ自由ト蓋シ此二事ハ氏ノ自ラナセル  
 大事業ナリ男子ノ本懐亦タ快ナラズ哉  
 當時以國未タ全ク佛ノ版圖ヲ脱セリト云フヘカラス千八百七十年普  
 佛戰端ヲ開クニ及ビ佛兵伊國ヲ去リテ普ニ徼フ茲ニ於テ將軍之まぬ  
 ーる羅馬ニ入り王位ニ即キ民万歳ヲ唱フ同年法王びあす九世亦タ古

宮ニ復ル然レ法王政治ニ干ラズ政府モ亦タ教門ニ與ラス二者并ヒ  
 立チテ民始メテ堵ニ安ンセリ王七十八年ヲ以テ崩シ其子ばんばると  
 位ヲ襲フ今上是ナリ同年法王亦薨シれをな十三世其後ヲ襲ク今ヤ全  
 國一致ノ勢已ニ成リ政教二者互ヒニ權ヲ弄セズ茲ニ於テ地利人和ニ  
 ツナカラ備ハリテ隣國之レヲ侮ラサルニ至レリ今後以國ノ復タ聲名  
 ヲ世ニ轟カス蓋シ遠キニアラサルベシ

文學

上古ニアリテ以國上等社會ノ間ニ行ハル、者ハ羅旬語ニシテ其根本  
 甚タ固カリシモ人民談笑ノ間ニ行ハル、ノ俗語次第ニ勢ヲ得ルニ從  
 ヒテ文藝亦其語ヲ用ユルニ到レリ其始メハ端謳ヤ普通ノ昔物語ニ起  
 リ尋イテ佛國ノ譯書行ハレざるくはる氏ノ旅行記ノ如キ人ノ稱スル  
 處トナルニ及テ文學ノ思想稍々人民ノ腦裏ニ存スルニ至レリ然リト

雖此等ハ申サバ文學ノ廢物ニシテ以國眞成ノ文學ト稱スヘキ者ハ  
 千二百六十五年ヲ以テ始メテ世ニ發セリト云フヘシ當時三大詩家ト  
 稱スル者アリ就中だんて氏ヲ以テ最トス氏ハ千二百六十五年ヲ以テ  
 ふろれんす府ニ生レ戲作ニ長ス今人尊ヒテ世界四大詩家ト稱スル者  
 ノ一人ナリ氏又タ極樂淨土ニ遊ブノ記行アリ其美ニシテ愛スヘク其  
 嚴ニシテ敬スヘキノ景ヲ描キ得テ甚タ妙絶往々人ノ能クセサル所ヲ  
 言顯シ更ニ詰屈澁滯ノ句ナシ殊ニ文中別ニ又一個ノ譬喩ヲ設ケ誦讀  
 ノ間ニ讀者ヲ諷刺シ而ノ絶ヘテ原題ノ本旨ヲ失ハサルナリ以テ氏ノ  
 意匠運筆共ニ遠ク群ヲ絶スルヲ證スヘシ又氏ハ人類ノ生前死後二ツ  
 ナカラ幸福ヲ享クヘキヲ主張セリ當時世ノ學者ハ生前肉体ノ幸福ヲ  
 享クル者ハ死後精神上ノ快樂ヲ得ル能ハス死後幸福ヲ享ケント欲セ  
 ハ生前ノ幸福ヲ弄ツヘシト論セシモ氏ノ所說ハ之レト異ナル前段ノ

如キヲ以テ其詩賦ノ材料ヲ神學無形ノ事ニ採リ歴史考証ノ實ヲ拔キ之レヲ采色スルニ胸裡燃ル所ノ詩煙ヲ以テセリ

ペドら一ち氏ハ千三百四年ヲ以テ生レ同七十四年ヲ以テ卒シ戀歌ニ長ケ竹枝ノ詞ニ巧ミナリ乃一ら夫人ヲ追頌スル文辭ノ如キハ行文極メテ秀麗氏カ名ヲシテ天地ト滅セサラシム又タ羅<sub>ン</sub>稀代ノ著作ヲ敗紙ノ裏ニ擇ミテ世ニ公ニセルカ如キハ大ニ氏カ古代學術ノ原義ニ曉通セルヲ証スルニ足ラン氏壯ニシテ夙ニ人ノ尊フ所トナリ當時操觚ノ巨臂ト稱セラル又タ富巨万ヲ累ネ歐州諸國ヲ遊歴シテ其胸臆ヲ富マセシモ年老ユルニ及ヒ故アリテ怨ミテ世ニ結ンテ人ノ齒セサル處トナリ悲嘆ノ間ニ死セリ

ぼツカ一を氏ハ千三百十三年ヲ以テ生レ以國散文体ノ大家ニシテ兼テテ古代ノ學術ニ通セリ其著ス所ノ書一部十冊ハ人ノ最モ稱スル處

ナリ千三百四十八年ニ當リ以國疫疾大ニ行ハレ凶歎兼テ至リ餓孚途ニ滿チ老少盡ク斃ル是時ニ當リ富豪ノ壯年貴紳ノ少艾ノ一群アリ避テ閑靜ノ一村落ニ棲息セリ此書ハ即チ其情戀ヲ描キ寫セル者ニシテ奇想百出一々人ヲ驚カス意匠半バ口碑傳フル所ニ採リ半バ其想像ニ出ツ采色較々不徳ニ失シ往々猥褻ノ嫌ナキニアラサレハ世人ノ普ク誦スル處トナレリ後世此書ヲ祖述セル文士甚タ少カラスト云フ

史家ノ大ナル者ヲるれんぞ氏トス其ノ歴史ノ著作ニ長セルノ始終ハ英<sub>ノ</sub>史家まこれ一卿ノ叢書中ニ詳カナレバ英<sub>ノ</sub>米<sub>ノ</sub>讀者ハ能ク之レヲ知ランきくさるじに氏ハ以國史ノ著述ヲ以テ名アリ記事錦繡行交流麗人稱シテ史中ノ畫ト云フ

近時ニ至リテモ以國詩人文士ニ乏シカラズ戯作小説ノ類甚タ多シト雖ヒ余ハ一々之レヲ縷述スルノ煩ヲ取ラサルベシ蓋シ以國ハ水鮮カ

ニ山秀テ天然ノ風景世ニ類ナキヲ以テ古ヨリ詩人騷客ヲ生セルヲ少カラサレハ今後モ亦タ其然ルヘキハ疑ナシト雖ニ審カニ以人ノ嗜好スル所ヲ諦視スルニ現時ニ至リテハ鏡花水月ヲ事トスルヨリ寧ロ歴史實事ノ著作ヲ專ニナス者多キカ如シト云フ

美術

以國ハ世ニ所謂ル美術ノ寶山ナレバ旅客之レカ爲メニ非常ノ快樂ヲ感スルヲナラン寺院ハ各府到ル處之レアレヒ其建築法ヲ觀察シテ美術ノ研究ニ供セントセハ羅馬府ニ如ク者ナシ府中ニば一りカト稱スル寺院アリ其建築ハ古代羅馬ノ政堂ニ模造セル者ニシテ結構甚タ美ナリ墳墓多クハびざんたいんノ建築法ニ及ヒ希臘ノ建築法ニ倣ヘシ者ニシテ宛然大古ノ建築ニ接スルノ思アリ聖ペーとる寺院ハ世界第一ノ大伽藍ニテシ建築家ぶらまんと氏ノ規矩スル所口千六百二

十六年ヲ以テ功ヲ竣ヘ落成式ノ費ヲ省キテ五千万弗ヲ費セシト云フ以上ハ以國中世以前ノ建築法ニシテ美術ノ一斑ヲ示セル者ナレヒ現時以國ノ眞美術ト稱スル者ハ十四世紀ヲ以テ起リきをと氏ニ始マル氏カ描キタル繪畫ハ氏ガ美術全体ニ注キタル熱心ニ對スル程ノ巧ミナラサレハ後人ヲシテ盡ク其ノ流レヲ汲マシムル能ハサルモ蓋シ美術世界ニ一大燈光ヲ照シテ後人ノ進路ヲ誘導セルノ一點ハ歴然蔽フ可ラス夫ノ大理石ノ彫刻及ヒ繪畫ノ如キ者翕然各處ニ起リテ美術ノ度遙カニ進歩シタルハ氏ノ賜ト云フヘシ爾後三大畫工輩出シ就中二人ハ兼テ彫刻建築ノ二法ニ明カナリト云フ三人皆同時ニ生レ同業ニ從ヒ嫉妬相傷ラズ能ク其ノ交際ヲ深クシテ始終其得失ヲ討究セルカ如キハ特ニ世人ノ羨慕スル所口ト云フ

其一人ヲれをなると氏トス千四百五十二年ヲ以テ生レ美術學ノ著者

ニシテ兼テ書ヲ善クセリ其天然ノ奇才ニ富ムト勤勉ノ度ニ至テハ多ク其人ヲ見ズト云フ氏ノ畫幅ハ其所在今多ク審カナラサレモ「最期ノ晚餐」ヲ畫キタル一幅ハ久シク「みらん」府庵寺ノ壁間ニ掛レリ人之ヲ模寫スルノ多キト如何ナル名畫モ更ラニ其比ナシト云フ千五百十九年卒ス

其一人ヲあんげる氏トナス千四百七十四年ヲ以テ生ル畫ニ長ク建築ニ明カニ又タ彫刻ニ巧ミナリ世舉テ美術家ノ王ト稱ス其建築ノ技ハ「聖ばーる」寺院ニ觀ツベシ彫彫刻ノ妙ハもせずノ肖像ヲ見テ知ベシ而シテ其畫キタル終局裁判(聖書ニアリ)ノ圖ハ夙ニ人口ニ膾炙セリ氏ノ技能已ニ此ノ如ク群ヲ絶セリト雖モ試ミニ余ヲツ氏ノ美術ヲ批評セシメハ之レヲみるどん氏ノ詩ニ比スベシ何ントナレバ其ノ全体ニ於テハ毫モ非難スベキナシト雖モ細少ノ事ニ至リテハ事實ト反スヘキ者

アレバナリ所謂大匠ハ小工ヲ顧ミサル者歟死スル時千五百六十二年ナリキ

らペーる氏亦其一人ナリ千四百八十三年ヲ以テ生レ其ノ畫ノ微妙ナル空前絶後ト稱セラル天此人ニ年ヲ假サズ不幸ニ短折ス享年三八性質極メテ温良曾テ神ニ謝シテ曰ク余カ美術家あんげる氏ト生テ同フスルヲ得シハ余カ無上ノ幸福ナリト其ノ毫モ嫉妬ノ念ナキヲ見ルニ足ル其畫世ニ行ハル、者素ヨリ多シト雖モ「耶蘇」ノ生母及ヒ法王「れを」十世ノ二肖像コソ精ノ精ナルモノニシテ又タ法王ノ宮殿ニ藏セル數幅ハ亦タ氏ノ精神ヲ凝セル者ナリト云フ

「ふえに」す府ハ畫學校ヲ以テ世ニ開ヘ名士ヲ出セルト甚タ多シト雖モ「就中ち」あん氏ヲ推シテ第一トス氏ハ千四百四十七年ヲ以テ生レ仙骨閑雅ノ風采ナク却テ世俗ノ事ニ長セシヲ以テ府廳ニ往來シテ官吏ノ

愛顧スル所トナレリ氏ハ人物ヲ善クシ最モ采色ニ妙ナリト云  
 フ享年九十九ノ長壽ヲ得タリ  
 輓近ニ至リテハ又タけりん氏アリ金銀ノ彫刻ニ長シ子弟甚タ多ク私  
 カニ其流ヲ汲ム者亦タ鮮ナカラズ旅中往々其作ヲ見ルふろれんす府  
 羅馬府等ノ微細工、水晶及ヒ貝類ノ細工物ハ皆多ク氏ノ流義ニ基キシ  
 者ニシテ美術上見ルヘキ者少カラズ

政治

以國ハ立憲王國ニシテ天惠ト民望トニ從リ施政ノ方針ヲ定ムヘシト  
 ハ歴代諸王ノ執ル所ロニシテ内閣ハ九人ヨリ成リ國會ノ同意ヲ得テ  
 始メテ政務ヲ行フヲ得國會ハ元老代議ノ二院ヨリ組織シ議員ノ改撰  
 期ハ各五ケ年トス  
 租税ノ程度極メテ高ク財政亦タ甚タ豊カナラス歲月ヲ經漸ク國家和

平ニ至テハ之ヲ整頓スル事蓋シ難キニアラザラソノ氣候温和米穀廉價  
 ナルカ故ニ幾多ノ小民生活ノ困難ヲ免レシムルニ似レヒ以國ノ一大  
 弊害ハ仍ホ貧民ノ巨夥ナルコナリ又タ罪名ノ判然セサル者多ケレヒ  
 概シテ罪人ノ多キハ兎モ角モ以國ノ爲メニハ不幸ノ事ト云フヘシ近  
 時ニ至リテ陪審裁判ノ舉アリテ人民大ニ安堵ノ姿アレヒ識者ハ陪審  
 官ノ果シテ之ニ適フノ能力アルヤ否ヤヲ恐ルカ如シ又伊國ハ刃三味  
 押借強盜或ハ暗夜陋巷ニ小女ノ帶ヲ引ク等苟モ事ノ腕力暴行ニ涉リ  
 テ遂ニ法ニ觸ル、者甚タ多シ蓋シ以人ノ此不徳アル一ハ其神經質ニ  
 シテ感情ノ甚タ鋭キト一ハ性時アリテ惡事醜行ノ深ク世ノ排撃スル  
 所タラサリシニヨルト云フ

輓近ニ至ル迄普通教育ハ多ク人ノ留意セサル所ニシテ往々學術群ヲ  
 絶シ事物ノ興義ヲ極メシ者ナキニ非サレヒ一般人民ノ無智文盲ハ之

ニテ其欠漏ヲ償ヒ得タリト云フ可ラス羅馬ハ以國ノ首府法王ノ住處ナリト云ヘキ都人ノ書籍ヲ解セザル者甚タ多シ千八百六十一年統計ニ據ルニ伊國二千万人中いろはヲ解セサル者千六百万ノ多キアリ蓋シ舊教僧侶ノ其信者ヲ教導スルノ不信切ナルヲ徴スヘシ然ルニ近年ニ至リ政府深ク茲ニ留意スルヲ以テ小學中學ノ數次第ニ増加シ今日ニ至リテハ十七個ノ大學校ヲ設ケタリ殊ニねーぶる大學ノ如キハ三千ノ學生アリト以テ

美術學校ハ政府ノ最モ意ヲ注キテ獎勵保護シ學生次第ニ其數ヲ加ヘリ又タ音樂學校ノ設置アル者五府アリ殊ニ政府ハ委員ヲ派出シテたいば河邊ニ埋没セル古代ノ美術品ヲ採掘セシムルヲ以テ美術ノ益々隆盛ニ赴クハ疑ナカラシ

美術書籍館及ヒ美術博物館ハ政府ノ管理スル處ニシテ万事甚タ整頓

宗教

セリ羅馬ノ如キハ一私人ニ屬スル博物館モ其官立ニ係ルモノト同シク自由ニ旅人ノ觀覽ヲ許スヲ以テ遠ク名ヲ海外ニ轟カセシ者少ナカラズ而シテ府人モ私有ノ博物場ヲ視ル其官立公立ニ係ル者ニ於ケルト大ナル徑庭ナシト云フ是レ共同シク旅客ヲ内國ニ引キテ其ノ財囊ヲ散セシメ以テ以國ヲ富マスノ幫助ヲ爲スガ故ナリ

羅馬教ハ以國多數人民ノ宗旨トスル所ナレキ其大半ハ信仰ノ度甚タ厚カラザルニ似タリ是レ蓋シ僧侶ノ紊リニ人文ノ自由出版ノ自由及ヒ學校ノ獨立等ニ干涉シテ其發達ヲ妨害セシニ歸因スル者多カラシカレバふろれんす府ノ如キハ以國智識ノ中心ト稱セラレ、ノ地ナレキ宗教ノ勢力ハ甚タ微弱ナリトス又國會ノ法王ト毀隙ヲ開キ其教律ヲ蹂躪セルコト少ナカラズ千八百五十五年寺院ノ財產ハ政府ノ沒收ス



ル所トナリタルガ如キハ即チ其一例ナリカク教門ノ勢力次第ニ減少シ千八百六十六年僧侶ハ概シテ官吏ノ資格ヲ奪ハル、ニ至リテ一層ノ衰頹ヲ致セリ然レハ僻陬田舎ノ地ニアリテハ尙ホ重大ノ信仰ヲ施スノ權力ヲ有シ特ニ羅馬ハ今仍ホ法王ノ住地羅馬教諸務ノ中心ナルヲ以テ其權柄微ナリトハ云ヒナカラ以國ノ政治ニ影響ヲ及ホス少ナラスト云フ

歴史ニ據レハ以國新教徒ヲ出セルノ始メハわるでんーやん派ナル者ニシテ數百年ノ間險山激水自ラ城壁ヲナス者ノ間ニ棲息シテ其信仰スル處ヲ固守セシカ今ヤ其教會ナル者亦タ大ニ起リテ大都到ル處其寺院アリ加之ナラス歐米ノ僧侶モ教會ヲ此地ニ設ケテ其布教ヲ謀リ尋イテ宗教自由ノ令行ハレシヲ以テ今ヤ法王宮殿ノ比隣ニ新教ノ寺院ヲ見喃々トシテ舊教ヲ駁スルノ聲ヲ聞ク亦タ奇ナラス哉願フニ十

八世紀ハ歐州各國何レモ幾多ノ變化アリテ其局面ヲ新タニセシト雖以國ノ如キ其甚太シキモノハ他ニ之レアラサルベシ今ヤ國力一致ノ勢已ニ成リ復々土地分裂ノ惡弊ナク人民自由ノ權ヲ得テ諸侯之レヲ虐待スルノ舊様アラザレハ以國ノ今後長足ノ進歩ヲナシ往古ノ聲名ヲ恢復スル蓋シ難キニアラサルベシ

漫遊ノ摘要

旅客ノ以國ニ遊ブ者二三年前ヨリ遽カニ其數ヲ増セリ蓋シ旅行券規則廢セラレテ關門見張ノ備ナク鐵道ノ線路ハ縱横シテ網ヲ張ルカ如ク又割引切符ノ法大ニ行ハル、等苟モ事ノ運輸通行ニ關スルコト大ニ進歩ト便利ノ徵ヲ現ハセリ以人ノ生計ハ之ヲ歐州他國ニ比スレハ較々劣ルノ姿アレハ去リトテ之ヲ其往時ニ較レハ著シキ改良ヲナセシヲ以テ旅客ヲシテ不如意ノ狀態ヲ感セシムルコト少カラシ以國ニ遊ブ

遊漫國大五

ノ期ハ春秋ヲ好シトス。夏令ヒ大陽威力ヲ逞フスル盛夏ト雖ヒ養生ヲ怠タラサレハ身体ヲ害スル等ノコナケレハ夏分ノ遊歴ハ一切無用ナリト云フニアラズ。又羅馬ハ瘴氣地ヲ掩フ平原ノ間ニアルヲ以テ昔ハ其人身ヲ傷フコト多カリシガ今ハ衛生掃除ノ法甚タ人ノ留意スル處トナリタレハ邪氣ニ侵サル、等ハ更ニ心配ナクシテ可ナリサテ遊歴者ノ以國有名ノ勝地宏大ノ建築ヲ一見セント欲セバ略々一ヶ月ヲ費セハ一順見物ヲ爲シ得ヘキモ一々名處舊蹟ヲ探ラント欲セハ大凡數ヶ月ヲ費ヤスナラン去レ他ニ公私ノ用ヲ帶ヒテ事ノ序ニ見物ヲナサント欲スル者ノ如キ苟モ時日ニ制限アルモノハ單ニ大都府ヲ見舞フコトナスヘシ餘リニ瑣細ノ事物ニ目ヲ掛レハ遂ニ歸國ノ後チ名處ノ模様ヲ問ハレテ答フルヲ得ズシテ旅行ノ甲斐ナキ耻辱ヲ親類故舊ノ間ニ暴サンサレハふるれんす府ねふる府及ヒ羅馬ノ如キ有名ノ地

伊

太

利

ノミチ見物スルハ多忙ノ人ニ取リテ恰好ノ見物ト云フヘシ。美術上ノ穿鑿ヲナサントスルモノ極メテ便利ナルハ以國ノ特有ニシテ今更贅辭ヲ用ズシテ可ナリ。公立博物館ハ勿論私立ノ博物場ノ如キモ異客ノ縦マニ覽觀スルヲ得殊ニ其繪畫ノ古雅タルハ客愁ヲ散スルノ資料トナルコトナランサレヒ親シク斯ル興味ヲ知ラントセハ略々美術ノ理ニ通シ美術家生前ノ來歴ヲ知ルコト肝要ナリトス。以國ノ寺院ハ奇觀中ノ奇觀ニシテ晝間ハ門扉ヲ開キテ縱覽拜禮等自由ニセリ就中ぶに府羅馬府ノ寺院ノ如キハ畜タニ建築家ニ益アルノミナラズ歴史家ノ參考ニハ欠ヘカラサル者トス其微細工繪畫墓碑ノ如キハ其美麗比ナシト云フサレハ以國ノカ、ル寺院ノ建築ニ巨万ノ富ヲ費セシハ勿論風雨ノ間ニ幾百年ヲ經過セシコトナレハ其脩繕費モ恐クハ建築費ト同額ニ達セルナラン。

以國ノ湖水ニ富ムト其他天然ノ風景ヲ以テ世ニ鳴ルトハ略々已ニ記シタルヲナレハ今更縷述ヲ要セズ英人ノ如キハ故郷ニ在リテハ炭煙水霧ノ間ニ呼吸シ雲霞咫尺ヲ鎖スノ地ニ住スル者ナレハ以國ノ風景ヲ見テ嘆美ノ外他ニアラサルベシト雖也米人ノ如キハ生國ニアリテハ麗湖到ル處之レアリテ斜陽水ヲ照ラスノ景ニ熟目スルヲ以テ都府ノ見物人工物ノ覽觀ハ却リテ其ノ旅愁ヲ散スヘシカク旅客ニヨリ快樂ノ點同シカラサレト總テ旅客ヲ娛マシムルモノハばれんちん岡丘ニ登リ塞撒古宮瓦礫ノ間ヲ徘徊シテ羅馬全市ヲ一目ノ裡ニ瞰ルト是ナリ蓋シ羅馬ノ古ニ在リテハ世界全土ヲ統下セル主領ノ住地ニシテ其歴史一千年ノ久シキニ亘リシヲナレバ旅客ヲシテ無限ノ感慨ヲ惹起スルナラン

蓋シ以國ニ遊歴シテ得ヘキ利益ノ多少ト享クヘキ娛樂ノ深淺ハ一ニ

旅客ノ準備如何ニ存スル者トス若シ遊歴者ニシテ幾多ノ學識ヲ有スル者ナランカ其ノ見聞スル處永ク胸裡ニ存シテ其娛ミ亦タ多カラン唯旅行中偶々不如意ヲ感スル等之レアルベシト雖也所謂ル旅ノ憂ハ暫時ニテ其ノ得タル利益ハ永ク老後ニ滅セサルベシ

卷之二

日耳曼國

ハンブルク府ハエルベ河ノ上リニ在リテ日耳曼國商業ノ中心ト稱ス  
 其廣大ナル無數ノ船渠ハ世界各國ノ船舶ヲ以テ常ニ充滿セサルナシ  
 當府ノ今日ニ至ル沿革ハ大ニ利ス可キ者ナキニアラズト雖ヒ去リト  
 テ又強ヒテ旅客ノ足ヲ留ムルニ足ル者ナケレハ寧ロ去リテ伯林ニ遊  
 バン乎

伯林府

伯林ハ歐州大都府ノ一ニシテ日耳曼帝國ノ首府ナリスプリー河其中  
 央ヲ貫通ス街衢ハ五百二十條アリ人口無慮百万ト稱ス當時ハ官舎公  
 堂ノ見ルヘキ者及ヒ名勝ノ地甚タ多シ就中舊新ノ兩博物館ハ最大美

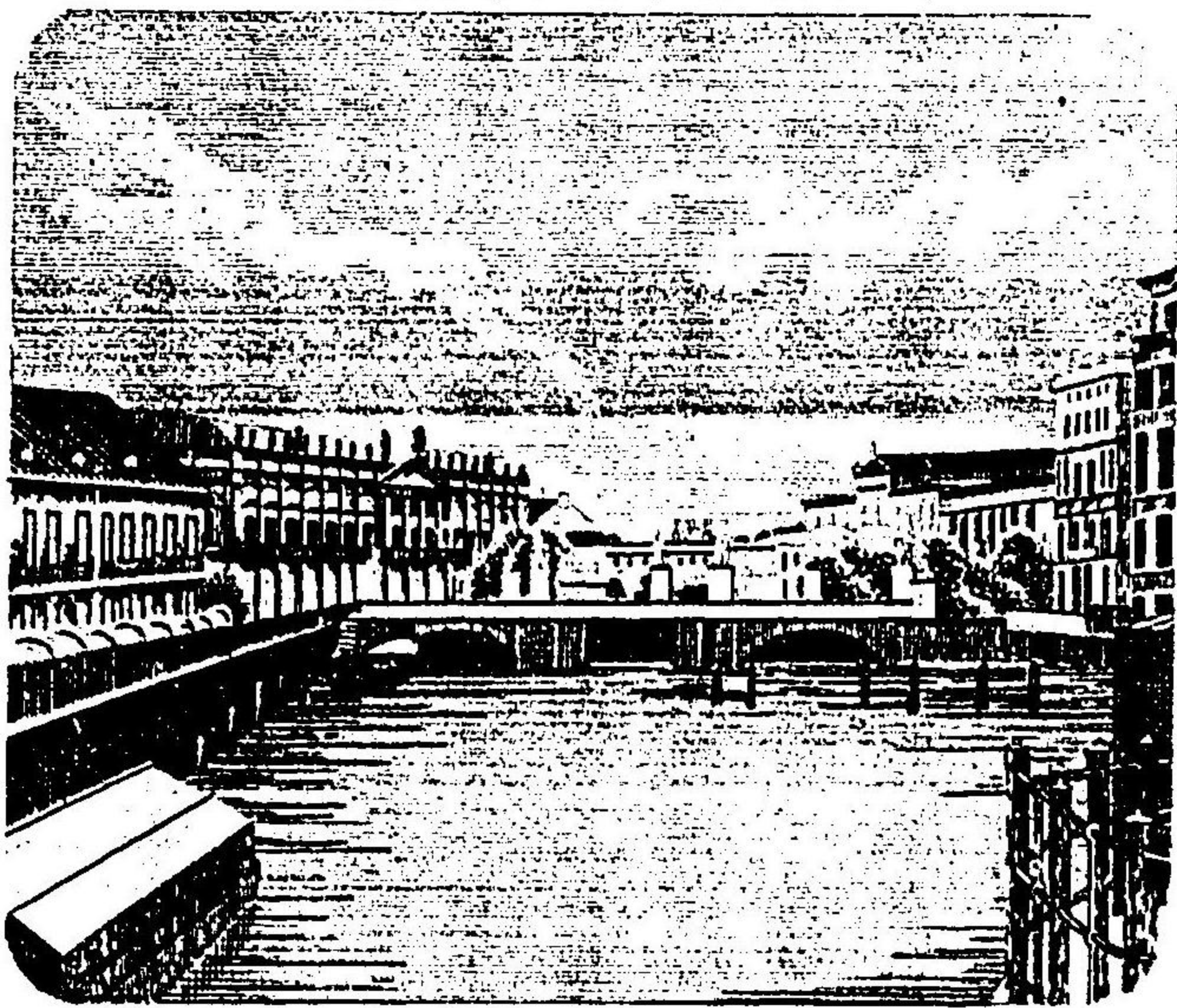
觀ニシテ多ク繪畫肖像及ヒ古代ノ器物ヲ藏ス又記念碑多シ是レ皆希  
代ノ人傑ノ爲メニ建立セル者ニシテ郭外ニ一碑ヲ見ルハ現帝自ラ其  
當代ノ戰勝ヲ後世ニ傳ヘンガ爲メニ建設セル者ナリ府中到ル所公園  
アリ

當府今日ノ盛大アルハ蓋シ輒近ノ事ニシテ其進步ノ迅速ナル驚クニ  
堪タリ抑モフリデツリク大王ノ王位ニ即クヤ人口僅カニ九万人ニ過キ  
ズ王兵端ヲ四境ニ開キテ大ニ民力ヲ消耗シ尋イテ佛帝奈烈翁トノ戰  
爭アルニ及ンテ其ノ民命ト財貨トヲ消失スル一更ニ甚太シク伯林市  
中モ一時雀羅ヲ張ルヘキ姿トナリシガ今ヤ遽カニ人口多キヲ加ヘ富  
財増殖シテ長足ノ進步ヲナシ全ク舊樣チ一新スルニ至レリ世界ノ都  
府其數素ヨリ多シト雖モ大厦巨館ノ櫛比相連ナルモノハ先ツ指テ伯  
林ニ屈スベク巴里倫頓モ一步ヲ讓ルベシ況ンヤ其家屋ハ皆現世紀ノ

(五五) 校學大林伯



(四六) 校學築建同



建築ニ係ルニ於テチヤ

又タ他ノ點ヨリ觀察スルニ日耳曼帝國ハ近時著シキ進歩ヲナセシチ  
以テ其首府伯林モ亦同様ノ進歩ニ達ス可キハ勢ノ然ラシムル所ニシ  
テ理ノ當然ナリ例令ハ國會開設ノ令一タセ出テ、伯林其會議ノ地ト  
ナリ諸州聯合ノ亦タ中央政務ノ座トナル又タ公衆會合ノ多キニ隨ヒ  
道德脩身ノ程度モ自ラ國內ノ他府ニ勝ル者アリ人民四方ヨリ輻湊群  
集スル中ニハ學士アリ書生アリ醫師アリ農工アリテ一々其ノ職業ヲ  
類別シ易カラサルモ製造及ヒ商業ニ従事スル者十中ノ七ト見受ケタ  
リ大學校ハ千八百十年ヲ以テ始メテ當府ニ建設セラレ開校日淺ク未  
タ百年ニ滿タザレモ學生ノ數次第ニ多キヲ加ヘ今ヤ連年碩儒博士ヲ  
輩出シ殊ニ畫學校音樂學校ノ二者ハ組織甚タ完全ナリト云フ又タ公  
立博物館九個アリ就中皇族書籍館ハ其ノ最大ナル者ニシテ書冊ハ十

五 大 國 漫 遊

地勢

万寫本一万五千ヲ藏スト云フ

日耳曼帝國ハ中央歐羅巴ノ過半ヲ占有スル一大國ナリ其ノ海ニ瀕スルノ地全國境ノ二分一ニ足ラサルヲ以テ大船巨舶ヲ容ル、ノ良港少キハ地勢ノ然ラシムル所素ヨリ怪ムヲ要セズ北方ハ土地平坦ニシテ耕作多クハ疏水ニヨル南ハ山脈遠ク連リ地味肥沃ニシテ又々勝概ト稱ス大河國內ヲ貫流スルモノ五らゐん川ヲ以テ第一トナシ水源遠ク瑞西國ニ出デ、國內ヲ貫流スルノ四百七十英里北向シテ海ニ入ル舟楫遊リテ遠ク瑞西國ノ境ニ至ルヘシ殊ニ其風景ノ絶佳ナルハ普ク人ノ知ル所ロびんげん地方ヨリぼんニ到ルノ間ハ葡萄樹ヲ培養スル岡丘ノ間ヲ曲流ス間々斷巖絶壁ノ河岸ニ聳ユルアリ水觸レハ則チ碎ケテ數万ノ雪花トナリ激スレハ則チ鳴リテ百雷ノ聲ヲナス中世戰國ノ秋ニ

當リ落魄頼ルナキノ浪士及ヒ強奪民ヲ苦ムルノ賊徒逃レテ此岡上ニ棲息シ久シク山下ノ人屋ヲ脅セリト云フ此地ノ風景已ニ此ノ如ク宏壯ニシテ又々古蹟ニ富ム是ヲ以テ談話ノ柄トナルヲ往々之レアリテ詩歌ノ題ニ入ルヲ亦タ甚タ多シ歐洲諸國ノ此勝流ヲ慕フテ一見ヲ渴望スル所以ノモノ亦タ宜ナラスヤ

日耳曼ハ森林ニ富ミ隨ヒテ官民共ニ銳意其保護ト培養トヲ怠ラサルガ如シ又々五穀ハ到ル所皆豐熟セリ就中葎莫麥酒ニ混用スル者ニシテ原名ホップト云フヲ以テ最上ノ輸出品トナシ葡萄ノ耕作ハ多クハラゐん河近傍ノ地ニアレハ其他諸處ノ岡丘ヲ耕シテ其半腹ニ之レヲ培養セル者ヲ見ル是ニヨリ之ヲ觀レハ日國ノ地味ハ元來葡萄耕作ニ適スル者タル今更論ナシト雖ハ獨リ自然ノ利ニ頼ラス勞働ヲ愛マシテ其培養ニ從事スル者タルヲ知ルニ足ル

日國ハ又タ鑛山ニ富ミ炭鑛ノ大ナル者六アリ若シ單ニ自國ノ需用ニ供スルニ止マリ絶ヘテ他國ノ求メニ應セサル者ト假定セバ其供給今ヨリ後尙ホ能ク二十歳ヲ支フ可シト云フ又鑛鑛ハ到ル處之レアリ多クハ夫ノ有名ナル之<sup>レ</sup>せん府くれ<sup>ッ</sup>製造場ノ所有ニ係ルト云フ

道路改良ノ事ハ現時官民ノ共ニ銳意盡カスル所ナリ而シテ改造修繕ハ共ニ地方税ノ經費ニ係レリ又タ鐵道架設ノ舉ハ千八百三十五年ヲ以テ始リ現時ノ鐵道條例ハ六十五年ニ至リ始メテ實施スル所トナレリ

都府

日耳曼ノ都府ハ名所舊蹟乏シキニ非サレハ遊歴者ノ耳目ヲ娛マシムル<sup>ル</sup>亦多カラシ中ニ就キ

ころくね府ハ其建立最モ舊時ニアリ大伽藍アルヲ以テ夙ニ世人ノ能ク知ル所ナリ<sup>ニ</sup>る風<sup>ニ</sup>る種族ハ建築ノ祖ナリノ建築ハ世界ニ乏

シカラサレ<sup>レ</sup>當寺ハ其最モ精美ナル者ナリ建築ニ志アル者一見スヘキナリ

ふらんくふほると府ハらん河上ニアリ<sup>リ</sup>や<sup>リ</sup>れまん大王即位ノ當時ニアリテ早ク已ニ一都會ヲナセリ府分レテ二區トナレリ一ハ昔時ノ市區一ハ現今ノ建築ニ係ル者是ナリ事々其趣キヲ異ニシテ古風今様並ヒ立ツノ有様ハ大ニ旅懷ヲ消散スルノ媒トナラン殊ニ當府ハ豪商富家多キ所ナレバ其市外ニ散見スル公園地ノ如キハ美ヲ極メシ者ナリ又當府ハ有名ナル<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>て氏誕生ノ地ニシテ氏カ爲メニ建立セル一大美碑アリ

はんでるべるひ府　ハ其近傍ニ名山麗水多ク勝概第一ト稱ス當府大學校ハ其設立國內ニ在テハ最モ古ク世人能ク其名ヲ知レリ府中又タ一古堡アリ山頭尖リテ針狀ヲナス者ノ頂上ニアリ瓦礫雜草ノ間ニ



埋没セル墳墓涸地ハ皆古兵攻フルノ材料トナル溪水遙カニ千尋ノ下  
 ナ流レ群峯亦夕眼下ニアリ此地ニ遊ブ者諸事ヲ擲チテ先ツ快ク此岡  
 上ニ博セント欲スルモノ亦理ヲキニアラズ  
 ちらるむす府　ハ中世ニ在テ國中大都會ノ一ニ位シ一タヒ國會ノ地  
 タリシガ今ヤ漸ク退歩ノ色ヲ呈セリ又當府ハ千五百二十一年ニ當リ  
 改宗ノ祖ル一テる氏國王ちやれす第五世ノ面前咫尺ノ間ニ直立シ  
 テ新教ノ宗義ヲ主張セル地ナリ其記念碑ハ今仍ホ府ノ中央ニアリ其  
 傍ラニ氏及ヒ其他改宗者ノ肖像アリ皆青銅ヲ以テ刻セルモノ其建立  
 ノ間通算シテ九年ニ亘レリト云フ  
 せれすでん府ハさくそに州ノ首府ニシテ世呼テ日耳曼國ノふろれ  
 んす府ふろれんす府ハ以太利ノ名都ナリ職テ以國ノ部ニアリトナス  
 者ナリ繪畫博物館アリ番祖らふえーる氏ノ描ケルすらん夫人ノ肖

像ハ絶世ノ希寶ニシテ當府ノ聲名ハ特ニ此ノ肖像アルニ由ルト云フ  
 此國ニ遊ブ者一見セズノ可ナランヤ當府ヲ距ル一六十五英里ニシテ  
 らいぶじく府　アリ千四百九十六年ノ設立ニ係レル大學校及ヒ數  
 個ノ音樂校アルヲ以テ其ノ名特ニ高シ當府又タ書籍賣買ノ中心ニシ  
 テ一ケ年取引ノ總額ハ遠ク倫頓巴里ノ上ニアリト云フ  
 みにーえ府　ハ美術學校アルト及ヒ美術品ノ豊カナルヲ以テ名ア  
 リ

歴史

附言漫遊記ハ素ト耳目ノ見聞スル所ヲ記載スル者氣候ナリ風俗ナ  
 リ人情ナリ地勢ナリ商業ノ盛衰農事ノ進否皆記スヘク政度宗教文  
 學美術ノ類都府ノ情勢山河ノ風景又タ盡ク載スヘシ是ニ於テ手旅  
 客ヲノ參考ノ利便ヲ得セシメ又坐ナガラ海外ノ事物ニ接セシム唯

歴史ニ至リテハ諸國ヲ漫遊スル者之レヲ探究スル者ナシ蓋シ之ヲ  
 欲セサルニ非ス之ヲナスノ違者キニ由ルカ然レモ略ホ一國ノ古今  
 ニ涉リ概テ興廢ノ蹟ニ通セサレハ人情風俗ノ厚薄文學技術ノ起源  
 商農ノ沿革宗教政度ノ變遷都府ノ來歴等吾人之ヲ知ルニ由ナク諸  
 國ヲ遊歴スルノ利益快樂モ甚タ多ラサラン之レ余カ歴史ノ概要ヲ  
 記スル所以ニシテ以國ノ部ニ於テ已ニ之ヲ實行セリ唯日佛英三國  
 ハ建國ノ年久シク變遷亦タ多シ之ヲ縮メテ一小冊中ノ一小部ニ撰  
 メントス余ノ勞蓋シ少々ニアラス讀者輕々看過スルナクンハ余ノ  
 本懐ナリ

日耳曼國ノ歴史ハ數十百年ノ久シキニ亘ル之レヲ分チテ三トナス可  
 シ上古中世近代是ナリ

上古 自紀元前四百年至紀元四百五年

日耳曼人ハちうとん種族ノ一ナリ紀元前四百年諸國ニ横行スルニ及  
 ヒテ初メテ世ノ知ル所トナル羅馬ニ史家たゝたす氏ナル者アリ此種  
 族ノ狀態ヲ記シテ曰ちうとん人ハ体幹長クシテ筋骨逞シク毛髮甚タ  
 麗シクノ眼采綠ナリ常ニ草屋ニ住居シ争鬪ニアラサレハ快トセス狩  
 獵ニアラサレハ娛トセス苟モ寸暇ヲ得レハ飲ミ且ツ賭ス多クハ不羈  
 自由ノ民ニシテ使役スル所ノ奴隸ハ皆軍虜ヲ以テ之レニ充ツ眷族甚  
 タ親密和合シテ婦女ノ位地亦タ卑シカラス政体ハ地方政治ニ類スル  
 者ニシテ各村皆ナ酋長アリ兵隊ハ自由ノ民(奴隸ニ非サル者)ヨリ組織シ  
 一旦事アレハ楯鎗戟ノ類ヲ提ケ一同大聲ヲ發シテ直チニ敵陣ニ亂入  
 シ更ニ謀計ヲ須ヒズト

其性已ニ如此ク慍悍ナルガ故ニ羅馬ノ日國ヲ襲フヤ塞撒大王ノ智勇  
 ヲ以テストラ之レヲ征服スルヲ得ス唯狼リニ其國土ヲ荒壞シ其民財ヲ

強奪ノ南ニ還ルニ過キス其後かゝがすと大王亦タ之ヲ征服センコト  
 カノ大ニ兵ヲ起シ襲ヒ來ル其勢酷ク猛烈徹ヒ撃ツ可カラス然レモ其  
 將一朝軍破レテ全軍爲メニ勇ヲ喪ヒ大王兵ヲ率テ羅馬ニ入ル但タ羅  
 馬ノ人民僅カニ其土ニ留リテ殖民セシ者アリ現今都府ノ一二ハ當時  
 羅馬人民ノ開創ニ由ル者アリト云フ  
 蓋シ羅馬人ノ日耳曼ヲ襲撃スルヤ諸族之レガ爲メニ協同一致ノ勢ヲ  
 致セルヲ以テ却リテ日國ハ僥倖ト云フヘシ其強大ナル者ヲビテ族ト  
 ス第四世紀ノ時ニ當リ北海ヨリ黒海ニ至ルノ間ニ一大土ヲ占有セシ  
 ガ亞細亞ノ強族はんすノ逐フ所トナリテ西ノカタ日耳曼ニ入ル後チ  
 わらりつくを將トシ南ノカタ以太利ニ入り羅馬ヲ陷レシ者是ナリ  
 らんく族ハ亦其一強族ナリ剛チ以テ其間ニ立ツ向フ所前ナシ後久シ  
 ク佛普ニ土ノ間ニ横行セル者是ナリ

中世

紀元四百八十年ニ至リふらんく族ノ王くるびす一舉テシ羅馬ノ戊ヲ  
 ビル(今ノ普佛)ノ外ニ逐フ王勇悍ニシ且ツ基督教ヲ信スルノ篤キニ  
 由リ民皆命ヲ致シ大ニ土地ヲ廣ルヲ得タリ此時ニ當リさくそん族尙  
 ホ外宗ヲ奉シテふらんく族ノ日國ニアル者ト相戦フ然レモふらんく  
 其勢甚ク強大加フルニ其將まるとる智勇兼備スさくそん族全ク敗ル  
 、ニ至リテ邪教其力ヲ歐洲ニ恣ニスルヲ得ス  
 紀元七百年英人ばにふゑすナル者アリ基督教會ヲ茲地ニ設置シ日  
 國亦タ之ヲ獎勵シテ人民漸ク歸依ス日國大ニ其徳化ヲ進ムルヲ得タ  
 リ  
 尙此時獨りさくそん族外宗ヲ奉シテ飽マテ基督教ヲ敵視セルモ七百  
 七十一年イヤーれまん大王武威ヲ揚ルニ及ヒテさくそん族ヲ一撃ノ

下ニ服從シ諸族ヲ合シテ歐州ノ中央ニ一大帝國ヲ造出セリ王唯々一  
 人ノ武夫ニアラズ政務ニ長ケ學術ニ通シ自ラ身ヲ以テ塞撒大王ニ比  
 シ世界ヲ以テ一帝國トセントス後チ羅馬ニ入ルニ及ヒテ法王親ヲ王  
 ノ即位式ヲ行フ王ノ宿志空シカラスト云フヘシ實ニ紀元八百年ナリ  
 キ

然レ大王其性專横政治ノ方嚮一ニ定ラス戰爭屢々起ル終ニへるでん  
 ノ條約アリ之レヲ八百四十三年トナス其後をつと第一世及其子孫相  
 繼キテ大王ノ舊土ヲ復シ并セテ以太利ヲ占取センヲ力メあるふす  
 山ヲ踰ヘテ南ニ入ル是チ日帝法王間ノ爭擾ノ始トスひるでふらん  
 氏法王ノ位ニ登リテぐれむ七世ト稱シ諸國ヲ合シテ一大國ヲ造リ  
 獨リ宗教ニ止ラス政治ヲ并セテ己レ之ガ主權ヲ握ラントス日帝へん  
 り四世痛ク之ヲ阻ム法王帝ヲ宗教外ニ黜ケテ其民ニ帝命ヲ奉ス可ラ

サルヲ公布セリ法王其權甚ク大ニシテ日帝爲メニナス所ヲ知ラス嚴  
 冬罪服ヲ着ケかのさ城門ニ憐ヲ法王ニ乞フ一三晝夜始メテ其容ル、  
 所トナル然レ日帝膽ヲ嘗メ薪ニ坐シ常ニ此怨ヲ報ヒントス戰爭復  
 起ル官職與奪ノ戰ト稱シ人口ニ膾炙スル者是ナリ二百年ノ久シキニ  
 亘リテ局ヲ結バズ二者疲弊各々兵ヲ引キ去リ漸ク腥風始メテ収ル  
 ふりでありつくばるるさ帝ハ日國ノ英主ナリ千百五十二年ヲ以テ位  
 ニ即ク四敵ヲ破リテ邊境ヲ安シ法律ヲ編ミテ人民ノ財産ヲ鞏固ナラ  
 シム獨リ貴族ノ幕フ所タルノミナラス民皆呼テ國父ト云フふりであり  
 つく第二世亦タ明主ト稱ス文學ヲ獎勵セル等治蹟大ニ見ルヘキ者ア  
 リ夫ノ義俠ヲ尊ヒ詩賦ヲ好ムカ如キ競走驅馳ノ遊嬉行ハレタルガ如  
 キ將タ十字軍ノ如キハ皆當代ニ在リ寺院諸所ニ起リテ信仰普及シ富  
 財次第ニ増加シテ生計其程度ヲ改進セシ如キハ又當代ニアリ日史ノ

中當代アルノ故ニ別ニ一光輝ヲ放テリト云フ可シ然レハ自主ノ權人  
民ニ存セス貴族大ニ專恣ヲ極メシト云フ  
ちや一れす五世ノ時ニ至リ「黒疫病」大ニ流行シ感スル者輟チ斃ル民謂

ラク猶太人ノ傳染ニ係ルト乃チ大ニ之ヲ虐殺ス又タ當代ニ「ゴルデン  
ブル」ト稱スル法律成ル帝王撰擧ノ通義ヲ載セル者ナリまさりみりや  
ん帝ハ性極メテ剛膽最モ義俠ニ富ム帝士官ノ漸ク衰ヒ義俠ノ勢將ニ  
絶ヘントスルヲ見奮テ世局ヲ一變シテ義俠盛時ノ舊天地ヲ再出セン  
トテ務メリ而シテ敢テ社會當時ノ風潮ヲ顧ミサリシ悲哉

近代

自千五百十七年至現時

十五世紀ノ後半ハ世界大發明ノ一大期ニシテ亞米利加ハ歐州ノ發見  
スル所トナレリ印刷器械世ニ出テ、希臘羅馬ノ學亦世人ノ講究スル  
所トナレルカ如キハ皆人心ヲ發揚セシ者ナリ而シテ法王ノ歐州諸國ノ

政權ニ干與スルハ非理ナリトノ論駁轟然各處ニ起リタル如キハ亦以  
テ人心發達ノ一徵トスヘシ

然レハ僧侶惡ニシテ將ニ來ル可キ亂潮ニ備フルコトナサズ當時ノ法  
王レを十世ハ徒ラニ時流ヲ好ミ其風采毫モ尊嚴ヲ具ヘズ而シテ衆僧ノ  
言行ニ至リテハ俗人マモ唾シテ之ヲ晉ルニ至レリ千五百十七年  
一  
てる氏身微賤ヨリ起リ法王赦免ノ特許ヲ賣ルノ措置ニ對シ一大駁論  
書ヲうつてんべるく府某寺院ノ門扉ニ釘ウチスルニ至リテ新教勃然  
トシ起ル歐洲之カ爲ニ幾多ノ文明ヲ來セシナラシ

る一てる氏ハ日耳曼人中ノ逸物ニシテ蓋シ亦世界ノ一豪傑ト云フ可シ  
氏聖書ヲ講スルコト極メテ周到其志ス所皆理ニ背カズ事ヲ處スルコト謹  
慎ナレハ斷手トシテ毫モ恐怖ノ色ナシ若シ夫レ人ト抗論スルハ則チ過  
激租暴ヲ免レズ故ニ其宗教ノ爭ヲ於テモ壁ヘハ大ニ一筆鉞ヲ舉ケタル

三外ナラズト雖平居極メテ音曲ヲ愛シ憚々乎トソ兒童ヲ教導セルノ點ヨリ見レハ蓋シ温厚慈善ノ人ト評スルモ可ナランカ此時ニ當リ  
 ちや一れす五世位ニ在リ酷ク改宗ヲ好ムニ非サルモ政略上ヨリ敢テ  
 新教ノ普及ヲ妨ガリシ茲ニ於テ貴族貧民交々起リテ帝ニ抗ス既ニソ  
 皆平キ是ヨリ後新教ノ化力次第ニ其勢ヲ増シ羅馬法王モ亦其忽諸ニ  
 附シ去ルヘカラサルヲ察シ僧徒ヲ派出シテ撲滅ヲ力メシム此間兩教  
 僧徒ノ爭論アリムあじなんど第二世帝位ニ即クニ及ヒテ大ニ羅馬教  
 ノ保護ヲカム世ニ所謂ル三十年戰爭ナル者其胚胎茲ニ在リふりでり  
 りつく帝世ニ出ルニ及ヒテ其將わるれんすたいんニ命シテ復々新教  
 徒ヲ攻ム瑞典ノ王ありるふ驍勇大ニ舊教徒ヲ破リ新教保護ノ盟主ト  
 ナル

其後紀元千六百四十八年ヲ起すとふありやノ條約成ルニ及ヒテ爭擾

茲ニ全ク止ミ乃チ信仰ノ自由行ハレリ然レモ日國之カ爲メニ失フ所  
 甚タ少カラズ土地荒レテ都府又廢レ民殺サレテ商業又衰フ寺院久シ  
 ク門扉ヲ鎖シテ墓前香花ノ捧クルナク學校業ヲ休ミテ兒童徒ヲニ戲  
 遊ニ長セリ加之ナラズ佛ノ路易十四世日國ノ虛ナルニ乘シ兵ヲ卒ヒ  
 テ内地ニ入り其田畑ヲ荒ラシ其財貨ヲ奪ヒ去ル信仰自由ノ價值ハ日  
 國ニ取リテ甚タ廉ナラサルナリ  
 次ニ普墺二州(當時ニアリテハ二州ノ爭權アリ)ふりてつく大王位ニ即  
 キ七年戰爭ニ勝テ得ルニ至リテ日耳曼ノ主權全ク普ニ歸セリ大王勉  
 メテ國民ノ元氣ヲ養成シ又タ能ク文學ヲ獎勵セリ是ヨリ先キ佛ノ文  
 學普ク日國內ニ行ハレシカ是ニ於テカ稍々其勢力ヲ失ヒ日國別ニ一  
 個ノ新文學ヲ現ハシ國力一致ノ勢始メテ成レリ  
 佛民ノ一大革命ヲ起シテ其主ヲ弑スルヤ歐洲諸國皆震動ス蓋シ自國

人民ノ佛國人民ノ爲ス所ニ倣ハシテ恐ルレハナリ是ノ故ニ諸國會徒佛ヲ伐テ其罪ヲ鳴ラシ其惡ヲ懲ラシテ後來臣民ノ復タ之ニ倣フ可カラサルヲ示セリ日國亦其一ニ加リ佛ノ北境ヲ攻ム既ニソ奈破烈翁世ニ出テ、專ラ兵馬ヲ事トシ戰ヘハ則チ勝チ攻レハ則チ取ル日國危キヲ累卵ノ如シ是ニ於テ遠カニ其内政ヲ革ノ民乃チ必死ヲ誓ヒ千八百十三年逐ニらいぶーつくノ勝アリ是ヨリ佛復タ邊境ヲ窺ハズ佛國革命ノ顛末ハ大ニ日國人ノ注意ヲ喚起セル者アリ何ソヤ國力一致及ヒ民權擴張ノ至要ニシテ一日モ忽ニスヘカラサルコト是ナリ既ニソ商業同盟ノ舉成リ茲ニ始メテ國力一致ノ萌芽ヲ顯出セリ然レモ民權ノ擴張ト云ヒ國力ノ一致ト云ヒ共ニ諸侯伯ノ以テ己レニ不利ナリトナス者ナレハ百方之ヲ挫折センコト計リ是ニ於テカ人心洵々動モスレバ輾チ反色アリキ千八百四十八年帝遂ニ國會開設ヲ公市シ輿論ニ

山リ施政ヲ定ムルノ已ムヲ得サルニ至レリ後チ又たくれミヤ戰爭ニ與カリ以太利ト相戰フニ及ヒテ國力一致ノ勢愈々固キヲ加フ千八百六十一年うゐりやむ一世新タニ日耳曼國ヲ組織シ聯邦帝ノ位ニ佛ノ

附 比斯馬克公

比斯馬克公ハ千八百六十二年ヲ以テ日國宰相トナル其ノ活劇ヲ歐洲ノ大舞臺ニ演シタルコト少ナカラス公ハ日國ニアリテ絶世ノ名相タルハ勿論古今世界ノ一大政治家ト稱ス可シ性極メテ火急然レモ先見甚タ明カニソ又タ意ヲ小事ニ介セス膽甚タ大ニソ更ニ白刃鼎鑊ヲモ怖ル、コトナシ一旦機ヲ見レハ則チ一刀兩斷ノ處置ヲ行ヒ毫モ疑ハス之ヲ驚鳥空ヲ衝クニ譬フ可シ其壞ト戰フヤ僅カニ五旬ニソ之ヲ破リ五郡ヲ奪ヒ以テ普國ヲノ威チ國外ニ逞シクセシム南隣佛普ノ國力大ニ

シテ聲名ノ甚タ喧シキヲ嫉ミ之ヲ挫折セントスルヲ茲ニ年アリ奈破翁第三世世ニ出ツルニ及ヒ名ヲ瑣細ノ口實ニ籍リ一舉シテ日ニ入ル日亦常ニ之ニ備ヘ却リテ日兵ノ爲ニ逆撃セラレ既ニ日兵セだん城ヲ圍ミ奈破烈翁ヲ擒ニシ佛兵八万ヲ虜ニシ勢ニ乘シ佛京巴里ニ入り城下ノ盟ヲナサシメリふらんくふほるとノ條約之ナリ此戰ニヨリ佛巨万ノ償金ヲ拂フノミナラズ二州ヲ普ニ讓ルニ至ル日耳曼諸州舉ケテ此勝ヲ祝クシ遂ニ合シテ一トナル日耳曼聯邦是レナリ皆是レ宰相比斯馬克公ノカト云フヘシ前段うゐりやむ帝ハ日耳曼皇帝ノ位ニ佛ニ即クト云ヒシモノ即チ是ナリ

文學

上古ニアリテ日耳曼ノ文學ト稱ス可キ者ハ獨リ戀歌戰歌ノ類アルノミニノ當時詩人騷客ハ彈琴以テ之ヲ口吟セシカ唯僅カニ口碑ニ依リ

後世ニ傳ハルニスギス第十二紀ニ至リ義俠ノ行世ニ尊ハル、ニ及ヒ此類ノ詩風殊ニ流行セシト云フ其後チーブルンゲンリトト題スル一歌集アリ其何者ノ手ニ出シヤ知ラズト雖ヒ慷慨悲憤ノ情一々紙外ニ溢レ讀者ヲ興起セシムル者アリ日人ノ舉テ頌スル所ナリ尋テ古琴歌ナルモノアリ或ハ陽春ノ天工ヲ頌シ或ハ佳人ノ真情ヲ寫セル者ナリ  
 戯曲ハ其出ル處亦遠シ其初脚色多クハ宗教上ノ事ニ成リ晝間寺院ニ於テ之ヲ演セシガ其後又街上ニ於テモ之ヲ演セリト云フ  
 學術ノ競争諸國ノ間ニ顯出スルニ及ヒテ博文強記ノ學士輩出シ詩作大ニ行ハル、ニ至リヌ去レヒ其書多クハ羅旬語ヲ用ヒシヲ以テ之ヲ愛讀玩味スルモノ極メテ少カリシト云フ但シ當時人々ノ講究スル所多クハ社會的若クハ實際的ノ問題ニシテ或ハ諸侯民ヲ虐スルノ非理



ナルヲ怨ミ又ハ僧侶酒色ヲ嬉シノ非行ヲ責ムル等ナリシヲ以テ發シテハ則チ慷慨ノ詩トナリ溢レテハ則チ悲憤ノ歌トナリ青山綠水ノ景ヲ寫シ濃花膩月ノ情ヲ描ケル詩歌ノ如キハ絶テ之ヲ見サリシナリ宗教改革起ルニ及ヒテ論辨百出著者輩出セリ而シテ其其泰斗ト稱セラルル氏ノ駁論ハ過激ニシテ往々他ヲ罵詈譏謗スルカ如キ瓊瑤ナキニアラサレハ行文頗ル簡易人能ク之ヲ解ス其最善ナルヲ聖書ノ反譯トス此書世ニ出ツルニ於テ人民天神ヲ敬テ道德ヲ脩ムルニ至リシハ勿論國語之カ爲ニ一定シテ人民亦之ニ依リテ其思想ヲ發表スルノ便ヲ得タリ尋テ神歌行ハルげらる迄氏其最モ著名ノ作者ナリ

理學者ハらいふにツク氏ヲ以テ祖トス(千六百四十六年ヲ以テ生レ同七百十六年死ス)氏ハ天下大ニ亂レ文學衰頽ノ秋ニ生レシガ自ラ奮テ之ヲ再興セシメテ計リ專ラ著述ヲ業トセリ其書多クハ佛語羅旬語ニ成

リ説ク所口深淵後進ノ徒之ガ爲ニ益セル者多シト云フ

十七世紀ノ末ニ至リテ佛國ノ學術大ニ國內ニ行ハレ又タ羅旬希臘ノ學問ヲ講究スル者稍ク多ク爲メニ人心ヲ喚起セル者アリ然レハ其所説多クハ佛人ノ論議ヲ模倣スル者ニシテ自ラ新タニ學理ヲ創造スル等ノ一ハ絶テ之アルヲ見ズふりてり<sup>リ</sup>大王即位スルニ際ヒ其國權ヲ獨立セシメタルヲ以テ文學亦獨立ノ姿トナリ佛國ノ餘流ヲ汲ム者ナキニ至レリ但シ博學審問ノ點ヨリ英書ノ如キモ普ク國內ニ行ハレセいくすび<sup>ハ</sup>詩集ノ如キハ日國ニアリテ其詩權ヲ恣ニセシメ本國タル英ニ於ルト毫モ異ナルナシト云フ十八世紀ノ始ニ至リ三大家アリくろ<sup>ハ</sup>ぶすどく氏<sup>ハ</sup>ふいらんと氏<sup>ハ</sup>れすんく氏トス共ニ日耳曼國古典學ノ元祖ト稱セラルク氏ハ詩ヲ以テ聞へぶ氏ハ文章ヲ以テ鳴ル然レハ皆れ氏ノ多能ナルニ如カズ就中戯曲ヲ著作ハ氏ノ最モ長スル所口ニシテ又タ

批評ニ巧ナリ其著書、ルークント題スル者ハ美術及ヒ詩賦ニ關スル法則ヲ載スル者トス

ごゐて氏ハ(千七百四十九年ヲ以テ生レ八百三十二年死ス)世界五大詩家ノ一ト稱セラル生來極メテ強壯享年八十三曾テ病ムコナキガ如キ幼ニソ已ニ高尙ノ思想ニ富メルカ如キ將タ俗事ノ身邊ヲ纏フナク終身ヲ舉テ文學ノ研究ニ委テタルカ如キ皆維レ氏ノ大家ヲナス所以ニシテ蓋シ天氏ヲ慈ムコ厚シト云フ可シ其著書多クハ院本、詩歌及ヒ小説ノ類トス

此時ニ當リ又ターゐれる氏アリ年甫メテ二十二ニソ已ニ文學家ノ名アリ後深ク交チごゐて氏ニ結ヒ居テ同スル五年其間著述上互ニ相補翼セルコ少カラズト云フ蓋シ世ノ學士ト稱スル者ハ互ニ睥睨シテ之ヲ尊ブコチナサズ動モスレハ輟チ嫉妬罵詈訾モ長者ノ風ナキ者ナル

ニ二氏ニ至リテハ乃チ然ラス却リテ水魚齋ナラサルノ交アルヲ見ル是レ世人舉ケテ其美質タルヲ賞セシ所以ナル乎著書中うりやむてト題スル院本ハ自由ノ愛ス可キヲ綴レル一戯作ニシテ悲壯慷慨往々讀了シ得サル者アリ又タ瑞西國ノ勝景記アリ衆人ノ稱スル所ナリ

ぼゐる、れひてる氏(千七百六十年ヲ以テ生レ千八百二十五ニ死ス)ハ著者中ノ奇ナル者ニテ文体其法ヲ得サル者多ケレヒ筆力極メテ壯勁ナリ又タ生來滑稽諧謔ノ事ニ長ケシヲ以テ行文中往々讀者ノ臆ヲ解ク者アリ然レヒ敢テ情ニ戻リ理ニ逆フコナシ

へんれいひね氏ハ近代ニ在テ最モ想像ニ富メル記者ニソ其名漸ク將ニ世ニ喧シカラントス其詩多クハ絶句ニシテ諧謔ノ意ヲ含ミ又タ悲壯ノ情ヲ帶フ而シテ其詩体ノ流暢ニソ温雅ナル者乃チ普チ乘テ佛チ學ブニ由ル無ランヤ

現時ニ至リテハ日人ノ文學社會ニ籍々タル者甚タ多シ其最モ精ナル者ヲ舉レハ歴史家ニ在リテハらんげのいんてるノ二氏理學家ニ在リテハおれささんてる氏ヲ推スヘシかんど、ヘーげるノ二氏ハ絶世ノ哲學家ニソラうりやむふりでりくノ兄弟ハ批評家ノ巨擘ト稱セラル然レハ日耳曼ノ著述家ヲ概論總評スルハ大凡皆其思想ヲ發表スルノ法ト術トニ精ナラズトス故ニ讀者ヲシテ徒ラニ能力ヲ章句ノ間ニ費ヤサシム殊ニ理學書及ヒ神學書ノ如キニ至リテハ仮令ヒ其書ノ名家ノ手ニ成ル者ニモセヨ學ヲ好ムヲ衆人ニ勝リタル者ニ非サルヨリハ到底其義理ヲ釋スヘカラスサレハ日人ノ著述深妙ノ理ニ富メルハ世ニ冠タリト云ヘ世教ヲ利スルコト多シト云フヲ得サル可シ著述家其信スル所ノ説ヲ世ニ普カラシメント欲セハ巧ミニ思想ヲ發表スルノ術ヲ學フ可キナリ

政体

日耳曼ハ二十五州公領侯領伯領并ヒニ獨立都府ノ聯合帝國ニシテ普國王(聯合州ノ一)ハ其實又タ聯合國ノ帝ト稱セラレ立法ノ大權ハ帝室聯邦議院及ヒ國會ノ共有スル所ナリ聯邦議院ハ各州ヲ代表スル者ニシテ五十九名ヨリ成リ國會議員ハ四百名ニシテ普通撰舉ニ係ル者ナリ行政ノ權ハ帝親ヲ之レテ有ス聯邦議院及ヒ國會ハ毎歲開設セラレ二者共ニ多數ノ同意ヲ得タル者ニアラサレハ帝王モ之ヲ一國ノ公法トナス能ハス但シ聯邦議院ノ議長ハ宰相其任ニ當リ權柄甚タ大ナリ歲出ノ最大費目ハ常備軍費トス蓋シ日耳曼人ハ其何人タルヲ問ハス七年間兵役ニ就クノ義務(三年ハ常備兵四年ハ後備兵)アリテ且ツ其員數モ夥多ナルガ故ニ其ノ之カ爲ニ要スル費用ノ莫大ナルハ論ヲ竣タズ又タ城堡ノ修繕等ニ費ヤス所亦少ナカラスサレハ租税ノ歩合甚タ

高ク人民其負擔ニ耐ヘサル者アリ將タ其商業ノ進歩ヲ妨ケ工業ノ振作ヲ傷ルコト少クニ非サラン

教育ハ嚴然タル干涉主義ニシテ五般ノ事皆ナ中央政府之ヲ管理セリ小學教育ハ當路者ノ最モ意ヲ注射スル所ニシテ高等ノ學校ニシテ其種類性質ヲ異ニスル者亦タ少カラズ羅匈希臘ノ語ヲ用ヒテ古代ノ學術ヲ教ユル學校アリ現時ノ國語ヲ用ヒテ方今ノ學術ヲ教ユル學校アリ一々其種類ヲ記スルニ煩シ但シ大學校ハ世界中日國ヲ推シ第一トナス殊ニ伯林大學ノ如キハ今日ニ於テ非常ノ盛隆ヲ極メ學生ノ數四千ノ多キニ至リ又タ其教師タル者ハ皆國中有名ノ碩儒ヲ以テ之ニ充テリ神學校ハぼん、はんね、二府ニアリ就中後者ヲ良トス理學校ノ著名ナル者一二ニ止マラサレハ別ニ一々其名ヲ記セサル可シ音樂學校ノ最良ナル者ハらいぶ、く府ニアリ又タ美術ヲ研脩セント欲スル者ハ伯林若

クハみにハ府ニ行クヘキナリ

千八百七十一年普佛ノ戰歇ミ已ニシテ日國復タ國事多端ノ世トナリ新奇過激ノ說四方ニ起リ政府之レカ爲ニ警備ヲ怠ラサリキ其最モ恐ル可キヲ社會黨主義トス其曼延甚タ迅速ニシテ後來如何ナル奇禍ヲ演出スルヤモ測リ難キヲ以テ政府モ專ラ力ヲ其撲滅ニ致シ屢々果斷人ヲ驚スノ處置ヲナシ時ニ人ヲシテ其暴戾苛刻ナルヲ感セシメタリ然レヒ此等ノ社會黨ニシテ其主義能ク貧者ヲ移シテ富人トナスヲ得ヘシト信スルハ所謂ル吉夢ヲ信スルノ類ニシテ愚者ノ評ヲ免レサラン且ツ商業漸ク衰頽シ勞役者其職ヲ失ヒテ怨望四方ニ起ル唯殖民移住ノ事アリテ給金少シク騰貴ノ勢ヲ呈シ生計ノ困難稍々其程度ヲ輕減セリト雖ヒ日人ハ之ヲ以テ満足セサルヘキハ甚タ明ケシ民人皆曰ク宰相北斯馬克公ハ國權ヲ世上ニ輝セリト又異口同音ニ揚言シテ曰

ク然レモ民權ヲ削奪セリト而メ又曰ク公ハ諸州ヲ聯合シテ政務官ノ  
 權力ヲ鞏固ナラシメシモ人民ノ苦情ニ對シテハ其耳ヲ聳ニシ少シモ  
 聞カサル爲子セリト  
 サレハ日後來ノ形勢ハ如何ナル者ニ成リ行クヘキカハ今日ニ於テ豫  
 シメ測リ難シトス租稅重クシテ其負擔ニ耐ヘ能ハサレハ農工ノ徒ハ  
 移住策ノ寧ロ其生計ニ便ナルヲ覺リ生來摠ミ慣レシ故園ヲ打チ棄テ  
 親戚故舊ノ親ミヲ割キテ遠ク海外ニ航スル者多シ但シ其米國ニ至ル  
 者ハ十中ノ八九ニシテ其數三百萬アリト云フ蓋シ生計ノ困難ハ人間苦  
 中ノ苦タルハ勿論ナレモ怒濤万里ヲ渡リ食ヲ異域ニ求ムル念ヲ起サ  
 シメ將タ骨肉ノ愛情ヲ割カシムル者ハ衣食生計ノ苦日國ニ在リテ少  
 クニアラサルヲ徴スヘシ  
 日國今日ノ情勢如此シト雖モ退キテ其民性ヲ見レハ甚タ治シ難キ者

ニアラサルナリ概シテ職業ヲ勵ミ貯蓄ノ念厚クシテ且ツ家族親和ス  
 ルノ有様ハ羅馬史家タリタス前段歴史ノ部ニアリガ其當時ニアリテ  
 日人ヲ評セルニ毫モ異ナル所ナシ唯道德ノ程度ニ至リテハ智識ノ程  
 度ト徑庭スル者アリサレバ日人ノ麥圃ヲ敬スルヲ其ノ寺院ヲ尊ブヨ  
 リ甚タシク寺院ニ詣ルモ僅カニ拜禮ノ儀式ヲ行フニ止マリ眞意ニ上  
 帝ニ祈ルガ如キハ多ク之ヲ見ズ斯ク宗教ノ感化力甚タ薄クシテ人心  
 ナ治スルヲ厚カラサレハ普通教育ノ效驗モ亦從ヒテ著シカラズト  
 ス無數ノ兵士ハ皆無學ニシテ唯能ク政務官ノ威權ヲ大ナラシムルノ媒  
 トナルモ毫モ民人自由ノ權ヲ鞏固ナラシムルナキ亦宜ナラスヤ

宗教

日人三分ノ二ハ新宗ノ信徒ニシテ其一ハ羅馬教派ニ屬ス大凡羅馬教  
 ハ南ノカタ以太利ニ接近スルノ地ニ盛ニシテ新教ハ北羅馬ヲ遠カル

ノ地ニ行ハル而ノ今ヤ人心次第ニ北方ニ増加スルノ傾嚮アルヲ以テ  
新教徒次第ニ其數ヲ加フヘキハ蓋シ自然ノ勢ナリト云フ可シ然レモ  
人民ノ真情ヲ總評スレハ其宗旨ニ於ル甚タ淡泊ナリト云フ可シ其寺  
院ニ詣リテ敬神ノ意ヲ表スルト云フ者ハ唯々邊幅ヲ裝フ名義上ノ事  
ニシテ内心實ニ此事アルニ非サルナリ特ニ夫ノ疑神說ハ大ニ人ノ採  
ル所トナレリ到ル處ロ余ハ宗教ニ於テハ無關係ナリトノ言ヲ聞ク是  
等ハ所謂ル基督教ノ一大強敵ニシテ僧侶ニ取リテハ氣ノ毒ナル事共  
ナリ

羅馬教門ノ組織ハ稍々見ル可キ者アリ然レモ法王其權ノ無限ニシ  
ツ不朽タルヘキヲ主張セシヨリ教徒ノ之ニ叛ク者多シト云フ千八百  
七十二年宰相比斯馬克公法王ノ單ニ宗教上ニ止マラス亂リニ政權ニ  
干與スルノ勢アルヲ以テ斷然之ヲ挫折スルノ所置ヲナセリ公乃チ教

會ヲ解散シ寺院ヲ脅壓シ其僧侶ヲ政令ノ配下ニ立タシメ其財產ヲ  
シテ民人ノ手裡ニ歸セシメタリ法王是ニ於テ公カ措置ノ非ヲ鳴ラシ  
テ之ヲ其舊ニ恢復セントセリ然レモ其事遂ニ成ラズ』  
猶太人ハ多ク大都ニ集リ其數五十万ト稱ス概シテ金貨ヲ以テ職トス  
巨万ノ富ヲ蓄フル者甚タ少ナカラズト云フ今ヤ猶太人國內ニ在リテ  
法律上自山ヲ有スル一平人ニ異ナラサレハ敢テ非人同様ノ取扱ヲナ  
ス者モ無ケレモ往時ハ久シク世人ノ共ニ齒スルヲ屑トセサル所ナリ  
シテ以テ今尙此念心裡ニ存シテ往々之ヲ虐待スル者ナキニアラズ然  
レモ猶太人素ヨリ人間タラザルニ非ズ殊ニ財產ニ富ミ其刊行スル所  
ノ新聞紙亦論辨ニ巧ミナルヲ以テ其位地漸ク進メリト云フ

卷之三

佛蘭西

佛 煥車忽チ運轉チ止メ驛夫來リテ巴里ト連呼ス乃チ行李ノ點檢ヲ了リ  
直チニ乗合馬車ニ駕シテ旅舎ニ投シ以テ長途ノ旅勞ヲ慰ス可シ世界  
蘭 華美ノ燒點ト稱スル佛國ノ首府ヲ一覽スルハ宜シク翌朝ヲ以テ始ム  
可キ也

巴里

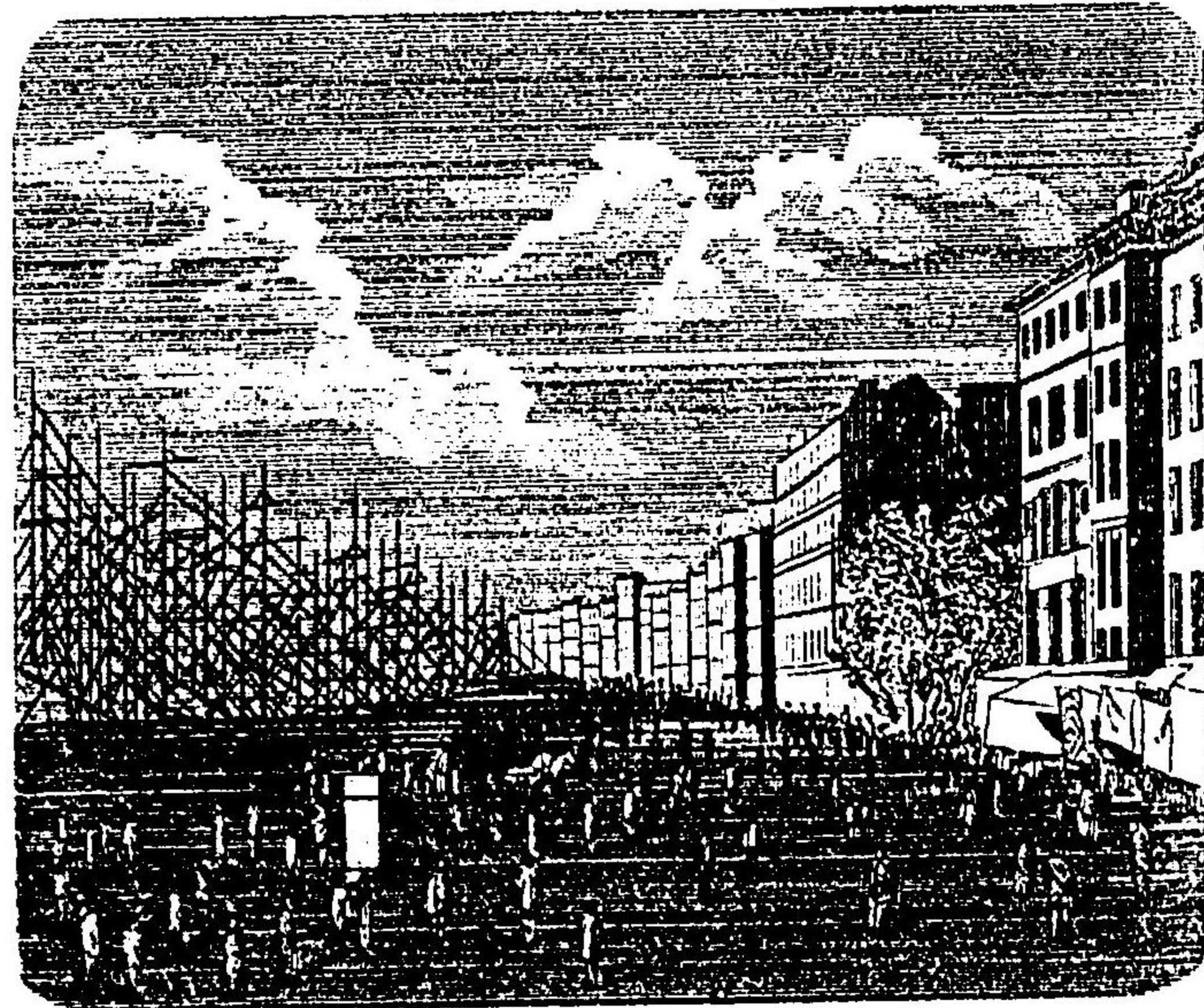
西 佛京巴里ヲ觀覽セシニハ瞬時ヲ愛ミ目ヲ瑣末ノ事ニ注カサルモ猶且  
三 旬余日ヲ要ス可シ街市ハせんぬ河ノ兩岸ニアリ河ニ架スルニ橋梁  
稱ス府中ノ大街ハ之ヲふゝるヲあるト云フ綠樹鬱蒼トシ道ノ兩傍ニ  
(三七)

繁茂シ商店櫛比シテ品物粲然タル景光ハ皆旅客ノ目ヲ驚サマルナク  
 初見物ノ外人ハ多クハ爲メニ魂ヲ飛シ魄ヲ消ス可シ又タ府ノ中心ニ  
 一高地アリ近傍自ラ谿如トシ喧嘩熱鬧ノ累ナク大氣亦新鮮ニ汚穢  
 ノ嫌ナシ構内ニ一塔ヲ見ル埃及古代ノ建築法ニ係ル者ナリ又處々ニ  
 池泉アリ大魚躍リ噴水天ヲ突クノ壯觀ハ人ヲシテ仙境ニ遊ブノ思ア  
 ラシム若シ夫レ人アリ巴里全市ヲ一日ノ下ニ瞰ント欲セハ來リテ此  
 地ニ遊ベ官舎公堂一々指示ス可ク諸公園ノ風致亦タ宛然掬ス可シ此  
 處ヨリ凱歌門ニ達スル一條ノ大路アリ長サ大凡一英里兩側ニハ多ク  
 花園アリ四期ノ樹木各々華ヲ競ヒ研テ圃ハス一英里ノ路夢寐ノ間ニ  
 歩ミ了リ俄然眼光ヲ遮ル者ハ及チ凱歌門ナリ  
 官舎公堂中ノ最モ有名ナル者ハるゝる宮ナリ該宮ハ昔シ帝王ノ宮  
 殿タリシヲ以テ美觀見ル可キ者多ク今ハ則チ巴里博物館トナリタレ

(一若第巴) 通大ルウルーナ黎巴



港塞耳馬西蘭佛





佛

ハ古昔ノ珍器重寶ヲ藏スルコト甚タ夥シラキせんばるく宮中ニハ多ク  
繪畫ヲ藏ス皆ナ稀世ノ名畫ニシテ幾百万畫幅中一幅タモ名聲今日ニ  
傳ハラサル畫手ニ成レル者ナキハ特ニ其名ノ世上ニ喧シキ所以ナリ  
ト云フ

蘭

又クベトルさいゆ宮ニハ佛國古代ヨリ今日ニ至ル迄ノ沿革ヲ描ケル一  
大畫幅アリ仮令ハ佛國ノ歴史ヲ記セサルノ旅客若クハ兒童婦女子ノ  
末ニ至ル迄一見シテ佛國ノ全史ヲ五色ノ間ニ學ブヲ得ヘシ亦奇ナラ  
ズヤ

西

(五七)

巴里府中ノ最大奇觀ハ街市ノ情況ニシテ初夏三四月ノ交ヲ以テ最佳  
トナス肥馬ニ鞭ツ紳士アレハ輕車ニ駕スルノ佳人アリ商家ハ務メテ  
店頭ヲ裝フテ群客ヲ引キ又タ茶店ノ注意至ラサルナク能ク花客ヲ遇  
セリ花ニ戯ル、者ハ粹客ニシテ酒ニ歌フ者ハ通人乎箇ハ是レ巴里陽春

ノ情況ニシテ其往來織ルカ如キノ熱鬧ハふんやん氏ノ筆ヲシテ之ヲ描カシムルモ此實景ヲ目撃スルノ勝レルニ如カサルヘシ  
 蓋シ巴里府ハ數百年ノ昔ニ在リテ歐洲諸國已ニ其世界第一位ノ都府タルヲ認メリ今其然ル所以ヲ考フルニ遂ク中世ニ當リ當府ニ一大學校アリテ諸國學生ノ笈ヲ負ヒ來リテ茲地ニ學フ者多キト毎年一向大市ノ開設アリテ諸外人ノ群集スル者極メテ夥シカリシトニ由ルナラシ其後路易十四世大ニ民力ヲ盡クシテ施政中心ノ巴里街市ヲ改造シ家屋ヲ新築シ人ヲシテ巴里ハ乃チ佛國ナリトノ感ヲ抱カシメタリ尋イテ佛國革命アリテ一場ノ脩羅ヲ演出シ又タ第一世奈破烈翁ノ血劇等アリテ巴里ノ都モ頓ニ其情態ヲ變シ危激腕力ヲ奪ブノ暴書生現ハレ風流ヲ樂ムノ才士モナク道壞レ家破レテ野草血ヲ帶ブルノ光景トハナリ又然ルニ第三世奈破烈翁位ニ即クニ及ヒテ市區改正ノ令ヲ發

シ舊路存スルニ足ル者ハ之レヲ改メテ廣坦ノ車馬道トナシ狹隘不便ノ小街ハ之ヲ毀チテ以テ公園ヲ設ケ公官ヲ建ツルニ餘地ヲ與ヘタレハ巴里ハ路易十四世驕レル當時ノ舊様ニ復シ再ヒ花ノ都ト呼ハルニ至レリサレハ千八百七十年普佛戰爭起ルノ前ハ巴里ノ財貨ニ當ミ美麗ヲ致セルハ世界ノ廣キ更ニ其比ナカリシガ千八百七十年日耳曼國ト兵端ヲ開クニ及ヒテ連戰皆利アラズ多ク人命ヲ傷ケ痛ク財貨ヲ費ヤセルノ後遂ニ日軍ノ重圍ノ内ニ落チ進退維レ谷マルノ秋ニ際シ社會黨ノ一揆又タ府中ニ鋒起シ公私ノ家屋ニ火ヲ放チシヲ以テ全市ハ一朝灰燼ニ化シ去リ又タ世人ノ巴里ヲ説ク者ナカリキ但シ此大火ハ一周間ノ久シキニ亘リ社會黨ヲ市外ニ逐フノ後チ始メテ鎮火セリト云フ是ヨリ後チ數旬ニメ普佛和議成リ府民再ヒ白日ヲ見ルニ至リテ財貨次第ニ増殖シ復タ今日ノ巴里府ヲ現出セリ巴里ノ一盛一衰ハ

地勢並物産

吾人更ニ他ニ之レヲ見サルナリ

五 大 國 漫 遊

佛蘭西ハ長サ六百英里幅五百英里ニシテ面積二十万方英里ト稱ス其東北境ハ山脈相連リテ端西全國及ヒ日耳曼ノ一部ヲ盡リ西北ハ英吉利海峡ヲ隔テ、英國ト相對ス河ノ最大ナル者之ヲ有ルル者ニアルトナス舟楫五百十二英里ヲ溯ル運輸交通ノ便蓋シ大ナリト云フ可シ氣候概シテ温和ニシテ、まんとぬー等南部ノ諸都府ニ至レハ三冬モ猶陽春ニ異ナラサレハ英人ノ羸弱ナル者冬期痼ヲ養フカ爲メ寒ヲ避ケテ此地ニ遊フ者多シ鐵道ハ到ル處國中ノ大都會ヲ連接シ且ツ普通ノ道路モ坦トシテ又タ良港ノ巨船大舶ヲ容ル可キ者少ナシト雖モ近年數多ク廣大ナル船渠ヲハハル府ニ構造セリ產スル所ノ鑛物ハ石炭及ヒ鐵ヲ以テ

佛

蘭

西

最トナセハ佛國財貨ノ源ハ主トシテ農産物ニアリ就中穀類チ多シトス又タ佛國ハ財産相續ノ法英國ト異ニシテ數子ニ配分スルヲ以テ土地所有者ノ數次第ニ増加シ各々有スル所ノ地所從ツテ廣大ナラス故ニ農夫ハ概シテ勤勉ニシテ且ツ貯蓄ノ念ニ富メリ政府國債ヲ募ルニ當リテハ人々好シテ之レニ應スルノ風アリ製糸ノ業ハ其源遠ク紀元三百五十年ニ起リ方今ニ在テハ里昂府此業ノ中央互市場トナレリ又タ巴里ハ金銀青銅等ノ細工場ニシテ世界ノ裝飾品ハ多ク當府ノ製造ニ係リ其他硝子柱時斗ノ如キモ亦佛國ノ名産中ニ數フルヲ得可シセムル府ハ官立製造處アリテ陶器製造ノ業甚ク盛ナリ之ヲ要スルニ佛國概シテ商業甚ク繁榮ニシテ區域亦大ナリト云フ可シ唯々少シク英國ニ劣ルノ形アルノミ其要港ハまるとぬーニシテ許多ノ船渠アリ港頭數百ノ船舶ハ皆是レ以太利若クハ亞弗利加ニ赴ク者ニシテ否ラサレハ則

チ亞細亞ニ航スル者トス

歴史

佛國ノ歴史ハ數百年ノ久シキニ亘レヒ之ヲ別チテ二トナス可シ一ハ則チ革命前ニシテ一ハ則チ革命後ナリ紀元一千七百八十九年ハ第一紀ノ終ニシテ乃チ第二紀ノ始ナリ

革命前自紀元前五十八年至紀元千七百八十九年

紀元前五十八年羅馬ノ帝塞撒セザールノセザールヲ征討セルヤ此國ニ三種族ノ人民アルヲ發見シタリ而今ノ佛人ハセザール及ヒセザールト稱スルニ種族ヨリ出ツル者ニシテ是年ヲ以テセザールノ名始メテ世上ニ現ルセザールハ今ノ佛國ナリ塞撒セザールノ討平セシヨリ以テ凡ソ四百年ノ間佛國羅馬政府ノ管轄ニ屬シ其法律ノ下ニ棲息セルヲ以テ野卑ノ風漸ク去リテ文明ノ民ニ化スルヲ得タリ

五大國漫遊

佛

蘭

西

紀元四百年ニ至リ日耳曼ノ諸種族ゲルマンハ河ヲ涉リ次第ニ南ニ侵入シ四百八十一年ニ及ヒテ其一族フランクノ酋長クロビウスナル者佛國ヲ征服押領セリ

クロビウス王ハ佛國ニ封建ノ制度ヲ創始シ其系統永ク茲土ニ君臨セリ夫ノ紀元八百年法王ヨリ羅馬大王ノ法爵ヲ得タル古今ノ俊傑カールハカールニ大王ノ如キモ亦其末葉ナリ當時佛國ノ形勢タル甚々微弱ナル者ニシテ二三ノ貴族及ヒ僧正漫リニ威權ヲ恣ニシテ下民ノ膏血ヲ絞リ國民ノ大半ハ舉テ殆ド奴隸ト一般ノ位地ニ居レリ後チ八百六十年ニ至リちやルれす大王諸侯ヲ召集シ勅命ヲ下シテ曰ク卿等各々其城塞ヲ固フシテ以テ自ラ其市民ヲ保護スルヲ是レ努ム可シト此勅語ハ實ニ封建ノ政度其極度ニ達セルヲ徵スルニ足ル者ニシテ當時ノ民皆諸侯ノ依ル可ク知リテ帝王ノ尊ブベキヲ知ラサルニ至レリ

遊漫國大五

紀元九百八十七年ニ至リヒューカベ氏前朝ニ代リテ新クニ王位ニ就  
 キ佛國一大王朝ノ祖ヲ開キタリ王都ヲ巴里ニ城キ大ニ市街家屋ヲ脩  
 築セシヲ以テ巴里ハ當時ニ在リテ己ニ歐洲ノ最大都府タルノ兆ヲ顯  
 シ又是ヨリ後チ一百年ニシテ十字軍アリ抑モ十字軍ノ起源ヲ尋ヌル  
 ニ回々教徒ノ聖地せるされむヲ蹂躪シテ神威ヲ瀆ガス一茲ニ年アリ  
 法王アルバン大ニ之ヲ憤リくらるもんと府ニ於テ耶教徒所爲ノ假借  
 ス可ラサルヲ演說シピ一た一氏其討代セサル可カラサルヲ主唱セル  
 ヨリ歐洲諸國ノ人心爲メニ大ニ興起憤激シテ遂ニ世ニ名モ高キ此戰  
 爭ヲ生スルニ至レリ而シテ歐洲諸國ノ遠ク聖地せるされむニ向フヤ佛  
 兵先ツ獨リ敵地ニ進入シテ高名ヲ現ハセリ且ツ當時ハラむりやむ公  
 ノあんぐるさくそん人ヲ征服シテ英國ノ王位ニ即キシ後ナレハ佛國  
 ノ威名ハ赫然トシ四隣皆之ヲ怖レサル者ナカリキ

佛

蘭

西

紀元千二百四十五年ヨリ七十年ニ至ルニ二十五年間ハ路易九世ノ治世  
 ナリトス王ノ位ニ即クヤ十字軍仍ホ未タ其局ヲ結ハス王亦タ之レニ  
 與リシカ幾許モナクシテ戰亂全ク収マレリ是ヨリ後チ王ハ肝衣宵食  
 法度ヲ改良シテ治國ノ要ヲ計リざるばんぬ大學ヲ新設シテ文學ヲ獎  
 勵スル等國民ノ福利ヲ増進セシ一甚タ妙少ニアラス且ツ天神ヲ信ス  
 ル一深切ナリシヲ以テ後世ノ史家之レヲ呼ヒテ路易大聖ト云ヘリ  
 紀元一千三百六十四年ちやれす五世巴里府ニ一大圖書館ヲ創造シ  
 又タ流通貨幣ヲ改造セリ其治蹟見ル可キ者アルヲ以テ後世ノ史家又  
 タ明主ト稱セリ  
 尋イテ英佛ノ間ニ不和ヲ生シテ連年干戈ヲ動サザルナシ一千四百十  
 五年ニ至リ英ノ明主顯利第五世あぎんく一ノ一戰ニ大ニ佛軍ヲ破ル  
 是ニ於テ佛國危キ一累卵ノ如ク將ニ祀ヲ絶タントス偶々一農夫ノ女

遊漫國大五

トやーンナル者アリ自ラ神術アリト唱シ殘兵ヲ卒ヒテ英兵ヲ破リを  
 るれやんの重圍ヲ解ケリ佛國之レガ爲メニ全キヲ得タリヒやーンハ  
 寔ニ佛國ノ國母ニシテ民人皆其指揮ニ從ヒシカ悼イ哉後チ英兵ノ囚ト  
 ナリ妖巫ト認メラレ空シク其焚殺スル所トナレリ此義婦ノ紀念ノタ  
 メ設立シタル肖像ハ今仍ホ舊府るゝるんノ市中ニアリト云フ  
 英ト和ヲ締スルノ後幾モナクシテ又タ以太利ト隙ヲ生シ再ヒ干戈ヲ  
 事トセリ斯ノ如ク佛國ハ腥風慘雨ノ間ニ經過ノ交戰連年止ムイナカ  
 リシヲ以テ其兵力及ヒ民力モ次第ニ消耗シテ人心洶々動モスレハ輾  
 チ離反ノ色アリ是ヨリ後チ佛國ニ内亂ヲ醸シ既ニ又タ路易十四世  
 ノ專政ヲ生シタル原因ハ共ニ此時ニアリトス  
 路易十二世ハ千四百九十八年ヲ以テ登祚シ在位十八年其間治蹟ノ大  
 ニ見ルヘキ者ナシト雖ヒ精勵刻苦治ヲ圖リ民ヲ恤ムイ甚タ信切ナリ

佛

蘭

西

シヲ以テ民之ヲ稱シテ國父ト云フ  
 尋テふらんす一世位ヲ襲ケリ王ハ舊教ノ信者ナリ然ルニ當時ハ恰  
 モ是レ新教興起ノ時ニ際會セシヲ以テ王ハ務メテ之ヲ壓抑撲滅セン  
 一ヲ計レリ既ニ新教ひゆげのと派ト舊教羅馬加持力教トノ間ニ宗  
 論ヲ釀シ屢々爭鬪ヲ開キシカ千五百七十二年故ばいとろみう一僧正  
 ノ祝夜ニ乘シ無殘ニモ巴里新教徒幾万人ヲ塵殺セリ蓋シ此暴行ハ天  
 神地祇ノ共ニ假サマル所ノ大罪ニシテ且ツ又タ政治上ノ一大汚點ト謂  
 フ可シ  
 紀元千五百八十九年新徒ばいるばん朝ノ祖顯利第四世位ニ即ケリ王  
 屢々戰場ヲ踐ミ武勳最モ多シ智勇兼備ノ良將ト稱セラル加之ナラズ  
 老練ノ政治家されい氏又能ク之ヲ輔佐セシヲ以テ政蹟考フ可キ者少  
 ナカラズ其えちくとをふなんと信仰ノ自由ヲ承認シタル有名ノ條例

ナリテ公布シテ宗教信仰ノ自由ヲ公認シタル如キハ其最モ著シキ者ナリ而シテ王猶銳意拮据佛國ヲシテ歐洲諸國ニ覇タラシメンコトヲ講セシカ惜哉中道ニシテ刺客ノ殲ス所トナレリ

若シ夫レ顯利第四世ハぼるぼん王朝ノ諸王中ニ在リテ賢明ノ主ト稱セン歟路易十四世ハ則チ又其豪邁ナル者ト謂フ可キ也路易ノ位ニ即キ政ヲ攬ルヤリセリゆーノ輔翼ニ出ツル者寔ニ妙ナカラズリセリ

ゆーハ佛國古今政治家中第一位ノ人物ナリ故ニ王ノ在位五十年ノ久シキ政蹟皆舉リ後世ノ龜鑑タル可キ者多シ殊ニ兵事ヤ文學ヤ理財ヤ枝術ヤ各其粹ヲ拔キ精ヲ得タルノ名士賢人ヲ登用シテ政治ヲ顧問スルノ器械トナセシヲ以テ佛大ニ其財貨ヲ増殖シ威名ヲ四隣ニ播カスヲ得タリ唯措イ哉晩年ニ至リテ王深ク舊教ニ迷執シテ新教ハゆーげのト派ヲ虐待シ又大ニ民力ヲ盡シテ私慾ヲ逞セシヲ以テ遂ニ其怨ヲ

買ヘリ嗚呼王即位ノ初ハ稀世ノ名主ト呼ハレ國父ト頌セラレシモ終ニハ則チ暴戾専恣ノ誅ヲ免レズ人間一世ノ事棺ヲ蓋フニ非サレハ遽カニ判ス可ラサル者アリ夫ノ大革命ト共和政治トハ起ルノ日ニ起ルニアラス其萌芽ハ既ニ路易第十四世ノ代ニ顯出セリト云フヘシ

路易第十五世及ヒ第十六世兩王施政ノ時ニ至リ佛國ノ狀勢次第ニ微運ニ向ヒ人心漸ク靜穩ナラス殊ニ財政ノ秩序紊亂シテ國帑全ク虛シキヲ告ク此時ニ當リヒよんろー氏ナル者アリ紙幣發行ノ新法ヲ論著シ佛政府此法ニ從ヒ無數ノ紙幣ヲ發行シテ却テ國民ノ困弊一層ノ甚太シキヲ加フルニ至レリ

尋テ凶歉和續キ家ヲ破リ產ヲ失フノ窮民政ヲ誅リ世ヲ憤ルノ壯士巴里府中ニ充溢シ佛國ノ一大不幸ヲ現出スルノ秋方ニ目下ニ迫レリ是ニ於テ乎王狼狽更ニナス所ヲ知ラス遂ニ國會スーてとせねらるヲ召

集シ將ニ墜落セントスル禍機ヲ救済スルノ措置如何ヲ諮詢スルノ已ムヲ得ザルニ際會セリ是レ實ニ紀元一千七百八十九年三月一日ナリ此日ハ佛蘭西王政ノ最期ニシテ佛國及ヒ歐洲ノ歴史ニ新天地ヲ現出スルノ初日ナリ嗚呼當時佛國ノ形勢其危キヲ豈啻ニ一髮ノ千鈞ヲ牽クニ異ラザラン哉

革命後

此日召集セラレタル會合ハ高僧貴族及ヒ代議士ノ三種ヨリ成レリ蓋シ佛國從來ノ習慣ハ獨リ高僧貴族ノミ威權ヲ恣マニシ平民ヲ奴隸視セシヲ以テ今ヤ代議士ハ此好機會ニ際シ衆意一決斷然其大ニ力アルヲ示サントシ用心尤モ堅固ナリキ是故ニ其討議スル所毫モ和合一致スルナク忽チ一場ノ紛議ヲ生シ代議士ハ此會合ヲ去リテ別ニ一會ヲ組織シ自ラ之ヲ民會（な）トよなる（あ）せんと（ふ）りト稱セリ其勢甚々猛烈

王威ノ善ク制スル所ニアラズ遂ニ不平ノ市民及ビ半騒ノ暴客ヲ煽動シテ有名ノ牢獄バすち（い）るヲ破壊シ寺領ヲ沒收シ又幾モナクシテ王家ヲ廢シ路易十六世ヲ斷頭場裡ニ殺シテ共和新政ヲ布告シタリ實ニ一千七百九十二年九月ナリ是レテ歴史家ノ所謂暗黒時代ノ始トス抑モ佛國ノ革命ハ世界未曾有ノ大亂ニシテ當時ニ在リテハ歐洲諸國モ佛民ガ如何ナル理由アリテ一天万乘ノ君ヲ殺セシヤチ解スルニ苦メリ英人（い）ばるく（い）氏ノ如キハ極メテ眞理ヲ尊信スルノ人ニシテ呼ヒテ自由ノ親友トナス者ナレトモ佛民行爲ノ過激ニシテ非道ノ甚太シキヲ忌ミ斷シテ佛民ト同感ヲ表スルヲ拒メリ但シ後世史家ノ佛國革命ヲ記スル者唯其一二ノ首領ヲ非難スルニ止マリ革命ノ事ニ至リテハ其實ニ已ムヲ得ザルヲ唱道セリ抑モ此革命ノ原因ヲ釋ヌルニ當時ノ佛民ハ實ニ忍フ可カラサル慘狀ヲ蒙レルヤ明ケシ一方ニハ貴族僧侶ノ專



横ニ小民之レガ爲メニ久シク苦楚ヲ嘗メタルカ如キ凶歎歳ヲ連テ庶民恒ノ産ヲ失ヒタルカ如キ將タ有司ニ不徳ノ行ヒ多クノ毫モ民ノ疾苦ヲ恤マサルガ如キ時ニ際シ又タ一方ニテハ恰モ自由獨立ノ思想漸ク發達シ人々權利ノ何物タルヲ解シ衆口同音ニ自由也四海同胞也四民同權也ト叫呼スルニ至レリ蓋シ權利自由ノ思想タル專制家久シク之ヲ抑壓スルヲ得ルコト或ハ之レ有ル可シト雖モ終ニ能ク之ヲ撲滅スルヲ得サル者トス以上ハ皆維レ夫ノ慘憺タル革命ヲ演出セルノ諸原因ナリトス然レモ佛民永ク民主政治ヲ維持セシメテ希圖スルハ頗ブル難事ニシテ若シ果シテ之レヲ成就セント欲セハ全民舉ケテ其生命ヲ賭シテ四境ノ敵ト相戰ハサルヲ得ス其故他ナシ歐洲諸國ハ皆共ニ佛國ヲ敵視シ就中英兩國ノ如キハ宰相びつと氏アリテ諸國ニ卒先シテ共和黨ヲ排拆シタルヲ以テナリ蓋シ當時各國ノ政治家ハ皆謂ラク

冒ス可カラサル神權ヲ有シテ其國土ニ君臨セラル、帝王ニ對シ奉リ反旗ヲ樹ツルハ其原因ノ如何ヲ問ハス臣民タル者ノ最大罪惡ナリ若シ何レノ國ヲ問ハス此非道ナル反逆ヲナス者アラソカ吾人ハ速カニ之レガ撲滅ヲ努メサル可ラズト然レモ他國ノ内政ニ兵力ヲ以テ干涉スルノ主義ハ當時ニ在テモ猶ホ今日ノ如ク勢力甚タ廣大ナラサリシヲ以テ諸國未タ容易ニ佛ニ向ツテ兵ヲ動カスニ至ラズ筋力ニ投ス可キ機ヲ候ツ者ノ如シ但タ内國ニ民主政治ニ反對スル徒黨アリテ常ニ敵愾ノ姿アリト雖モ佛國ノ兵權ハ猶ホ共和黨ノ手裡ニ存セリ此秋ニ際シ壯年ノ一將孤島ヨリ起リテ佛國ヲシテ再ヒ其威名ヲ四隣ニ轟カシム奈破烈翁是也奈破烈翁壯ニシテ已ニ武名アリ諸戰ノ勳功早ク氏ヲ古今武將ノ第一位ヲ占メシム氏ノ兵ヲ用ユルヤ兵學上二三ノ簡單ナル原則ヲ應用シテ千變万化ノ軍術ヲ演出スル者ニシテ深ク其機變ノ

智ニ長セリ又タ常ニ軍用地圖ヲ諳シ好ンテ意ヲ大砲術ニ注ケリ其ノ敵ト相對スルヤ吾兵ノ全力ヲ盡クシテ敵軍ノ最モ破レ易キ者ヲ撃ツニアリト氏已ニ此術アリ故ニ攻レハ取り戰ヘハ勝ツ魯西亞ノ北ヨリ以太利ノ南ニ至ル迄奈破烈翁ヲ忌避シテ且ツ之ヲ敵視セサル者ナキ亦宜ナラスヤ千八百四年新タニ佛國ノ王位ニ即ク共和政治是ニ於テカ滅セリト云フ可シ

奈破烈翁ハ政治家トシハ其所長ナル軍師兵學家タルガ如キ絶倫ノ奇才アルニアラスト雖モ國家諸般ノ業ヲ創始スルノ智アルヲ表ハセルノミナラズ其經營スル處寬大ナル者アリ唯氏カ良心ハ自ラ其慾望ヲ制抑スルニ足ラス佛國ヲシテ盛大ナラシメ以テ其威名ヲ海外ニ鳴ス

トノミニ汲々トシ其民ヲシテ自由ノ民タラシムルヲ務メサリシハ氏

カ一世ノ大欠點ト云フ可シ若シ夫レ世ニ人アリ大丈夫ノ眼中豈一國アラシヤト云ハ、余ハ亦何ヲカ言ハシ

既ニ佛國ハ外事多端ノ世トナリ屢々諸外國ト劇戰シ漸ク微運ニ向フ其魯西亞ト戰フヤ水軍ハとらふるかるニ敗レ其陸軍ハ魯ノ内地ニ苦メラレテ殘兵僅カニ涼霜積雪ノ間ヲ遁レテ歸ル後千八百十三年佛兵らいぶくノ一戰ニ敗北シ其聲名全ク地ニ墜チ奈破烈翁亦難チゑるバ島ニ避ケリ是ニ於テカ歐洲同盟ノ諸國佛京巴里ニ侵入ス

自是後十月ニシテ奈破烈翁佛國ニ上陸シ再ヒ佛兵ノ歡心ヲ得テ巴里ニ入り帝位ニ復スルヲ得タリ然レモ諸國同盟合從シテ之ヲウをたるるニ破リ遠クヘレナ島ニ謫セリ奈破烈翁ノ英邁ヲ以テスラ遂ニ其志ヲ伸ス能ハス空シク恨ヲ吞ミテ大西洋中烟波ノ間ニ餘命ヲ送レリ千八百二十一年ヲ以テ死セリ享年五十三

奈破烈翁已ニ請セラレ路易十八世代リテ王位ニ即ク然レ王ハ素ト夫ノ暴戻ナルば一るばん家ノ一族ナルヲ以テ國人毫モ安堵ノ思ナク動モスレハ輟チ反色アリ抑モ佛國往時ニ在リテハ貴族高僧ノ二種族獨リ政權ヲ恣ニシ尋イテ七百八十九年ニ至リ代議士亦政權ニ參與シテ其第三種族ヲ組成セシカ此時ニ至リテ又タ第四種族ノ政權參與者ヲ出タセリ國事ヲ是非シテ大ニ力ヲ政治上ニ有セル新聞雜誌是ナリ殊ニ青年ノ著書家ちゝる氏ノ如キハ健筆ヲ揮ヒ暴政ニ向テ道理ノ戰爭ヲ挑ミ其言フ所皆正議讜論毫モ假借スル所ナシ影響ヲ社會ニ與ヘタル其レ果ノ如何ソヤ尋テ史家ノ所謂七月革命ナル者アリ血戰三日ニ亘リテ始メテ収リ路易ひりふ新タニ位ニ即ク然レ佛國ハ久シク戰亂ノ間ニ經過シ來リシヲ以テ人心洵々トノ殺氣未タ収マラス遂ニ又タ千八百四十八年ノ革命アリ王乃チ位ヲ虛ウシテ禍ヲ英國ニ避ク第

三世奈破烈翁撰ハレテ大統領ト爲リ後チ四年自立シテ帝ト稱ス在位六年

第三世奈破烈翁ハ第一世奈破烈翁ノ猶子ナリ是ヲ以テ世人之ヲ敬信スル者多ク從ツテ其成功ヲ容易ナラシメタル者多シ帝元來威嚴ナリ又盛徳ナク所謂一个ノ冒險者ニメ其下ニ臨ムト頗ル苛ナリシト雖ヒ然レヒ又タ佛國商業上ノ制限ヲ解除シ巴里ヲ修築シテ華美ヲ極メ且ツ健全ニ適スル一大都會ヲ造出セルガ如キハ一ニ帝ノ力ニノ前代未曾有ノ盛事ナリトス

帝即位ノ始ニ當リ揚言メ曰ク「吾ガ帝國ハ平和ニ歸セリ復タ戰爭ノ虞ナシト會テ帝ハ「帝國トハ平和ト云フ事ナリ」ト揚言シ以テ務メテ人心ヲ収攬セシメノヲ計ル其後僅カニ二年一千八百五十四年ニ至リテくらゐミヤ戰爭アリ後五年ニシテ又タ埃斯土利亞ト不和ヲ生シテ以太利

ノ原野ニ合戦シ千八百七十年ニ至リ又タ日耳曼ニ向テ開戦ヲ公布セリ當時佛人ハ舉ケテ普國威名ノ日ニ益々盛大ナルヲ嫉ムヲ甚太シカリシヲ以テ此宣戦ヲ歡喜シテ殆ント狂スルノ狀アリシモ能ク佛國ノ内實ヲ諦視スレハ却リテ佛國危機ニ迫マレリ是ヨリ先キ數年前普國ノ明相比斯馬克侯早ク已ニ佛國ノ此舉アルヘキヲ察シ兵備ヲ嚴ニシテ邊境ヲ守ルコト茲ニ年アリシカ之ニ反シ佛國ハ堅甲利兵ノ備ナク唯々一時ノ客氣ニ乘シテ戰端ヲ開キシ者ナレハ數月ヲ閱セサルニ大ニ普軍ノ逆撃スル所トナリセたん城又タ破レテ王及ヒ佛兵八万其擒トナル

此報一タヒ巴里ニ達スルヤ巴里府民復タ共和政治ヲ宣告シ大ニ人心ヲ糾合シテ普兵ニ抗敵スルノ準備ヲナセリ然レモ主客勢ヒ己ニ異ニシ普兵到ル處前ナシ遂ニ巴里ニ入りテ城下ノ盟ヲナセリ佛國其二州

ヲ割キ巨万ノ價金ヲ普ニ納レテ始メテ平和ノ條約ヲ結ブヲ得タリ嗚呼帝泰平ヲ説キテ其舌未タ乾カサルニ已ニ此敗劔アリ英雄ノ爲ス所信ス可ラサル者アリ佛國之レカ爲メニ失フ所夫レ果シテ幾許ソヤ但シ此條約ノ談判中ニ社會黨府中ニ蜂起シテ火ヲ公堂官舎ニ放チ延焼一周間ニ亘レリ後チ多ク該黨ヲ殺害シテ始メテ鎮火セリト云フ巴里毫モ舊時ノ壯觀ヲ存セサルナリ

第三世奈破烈翁已ニ囚レテ佛國第三次ノ共和政治ヲ組織スルニ當リ自ラ秩序黨ト稱シ帝政ノ恢復ヲ企圖セル一黨アリシカ共和黨ノ勢甚タ強大ニシテ遂ニ其壓服スル所トナリ尋テち一氏其職ヲ辭シまくまほん氏代リテ大統領ニ撰マル氏職ニアルコト四年亦タ輿論ノ攻撃スル所トナリ千八百七十七年ニ至リ其職ヲ辭セリ蓋シ佛國共和政体ノ命數ハ其天壽今日ニ於テ判斷シ易カラサルモ現時ノ勢ヲ以テ徵スレ

ハ略々鞏固ノ地位ニ在リト云可シ

千八百七十三年第三世奈破烈翁英國ニ崩シ尋イテ其子亦夭折セルヲ以テ帝政黨ノ希望ハ今ヤ水泡ニ属スルコトハナリヌ又一方ニテハ共和黨ノ袖領ちゝる。がんべったノ徒相續キテ世ヲ辭セシテ以テ一般人民ノ悲嘆ハ亦尠少ニアラサラン若シ夫レ佛國今後永ク共和政治ヲ維持シ歐洲各國ト脩好ヲ失ハサレハ寔ニ其民無上ノ幸福ト言フ可キナリ

佛人ノ特有性

英國及ヒ米國ノ生民ニシテ佛人ノ眞性ヲ會得スルコト甚タ難シトス或ハ曰ク佛人ハ毎ニ街市ノ名稱ヲ變更スル等兒戯ニ均シキ所爲ヲナシテ以テ革命ノ分子ヲ腦裏ニ養生シ無辜ヲ殺スカ如キ暴行ヲナシテ一生ヲ終ル等佛國人民ノ性質ハ輕躁刻薄毫モ取ルニ足ラズト然レヒ箇ハ蓋シ公明無私ノ評ニ非サルナリ抑モ佛人ノ血脈中ニハ南方歐洲ノ

温和ナル血液ノ存スルアレハ毎ニ之ニ伴フ所ノ弱ミモアリ強ミモアラシク強チ前評ノ如キ惡分子ノミアルニアラス、技術ノ功妙ハ中世ノ以太利人ニ亞キ繪畫青銅工及ヒ陶器ノ類ハ世界ノ第一ト稱セラ

ル又タ佛人ハ苟モ五官觸ル、所ノ事物ヲ裝飾スルノ特性アルヲ以テ衣服ノ裁縫模様等世界皆其嗜好ニ從ハサルナク普ク巴里風ト稱スルニ至レリ其ノ飲食調理法ハ極メテ精良ナルヲ以テ世人之ヲ美術ノ一ニ加ヘタリサレハ佛人ハ人目ヲ娛マシメ又タ其嗜好ヲ制スルノ術ニ長セル一事ハ毫モ疑ヒテ要セス

佛人ハ極メテ兵術ニ巧ニシテ將校ノ聲名世ニ著シキ者多シ故ニ兵學上ノ學語ハ諸外國ノ採取スル所ナリ

佛人ハ清潔ト整頓トヲ愛シ財貨ヲ費ヤスコ寡フシテ而モ快樂ナル生計ヲ營ムノ術ニ巧ミナリ常ニ交友ヲ愛シ散步ヲ街上ニ試ムルニモ專

馬雜沓ノ間ニ逍遙スルヲ好ムノ性アリ又タ佛人ハ皆快活ナル說話者ニシテ懸河ノ辨アル者亦少カラス佛國ノ會話堂ハ話法ヲ學ブノ一教場ニシテ之ヲ他國ニ移スモ亦タ其益少ナカラサラン  
佛人ハ治國ノ術ニ明カナルヨリハ寧ロ政治ノ講談ニ長セリト評スヘシ其說ク所ノ大体皆正理ニ適ヒ又タ好シテ常ニ權理義務ノ關係ヲ明ニスヘキヲ唱道ス唯數百年ノ間王家ノ壓制ニ遭ヒシヲ以テ過激急進ノ所爲多ク英人ノ如ク穩當ニシテ鞏固ナル憲法ヲ愛スルノ念ヲ失ヘリ  
佛人ノ欠點トナスハ其思想中ニ宗教ヲ輕蔑スルト是ナリ政談ト娛樂ハ其最モ好ム所ニシテ亦タ古代希臘人ノ如ク其天然ナルト人工トヲ問ハス凡ソ浮世ノ奢侈物ハ皆之ヲ愛セサルナシ故ニ佛人ハ義務ト良心ノ二句ヨリハ寧ロ名譽ト浮華トヲ以テ其正鵠トナス者ニ似タリ嗜慾甚タ過キタリト云フ可シ

文學

佛國ノ文學ハ第十一世紀ニ於テ始メテ其萌芽ヲ現ハセリ當時ハ唯歌曲ノ体ニシテ風流人ノ城郭内ニ住スル者樂器ニ合奏メ之ヲ唱歌セリ其最モ有名ナル者ハろらん曲ニシテ今ヨリ五十年前英國ハくすぶる迄大學ノ文庫中ニ之ヲ得タリ尋テ稗史小説大ニ行レ英國古代ノ稗史家ちよーさ氏がらひおる氏ノ如キモ之レヲ採テ其著述ノ材料トナセリ其小説中ノ最モ有名ナル者チレーノルド、ゼ、フックスト題シ帝王僧侶平民等ノ通弊ヲ諷刺セル者ナリ又戯曲ノ起元ハ頗ル古ク當初演戲ハ單ニ宗教弘普ノ器械タルニ過キサリシガ幾モナク大ニ其面目ヲ改メリ

次ニ國誌興ル其最良ナル者ハふろさる氏ノ佛國誌ニシテ勇士ノ美談佳人ノ真情競戲盛宴ノ摸樣及ヒ鬪戰ノ狀態等歷然トシテ面ノアタリ之ニ

接スルノ思アリ

後チ十五世紀ニ至リ佛國一般ノ文學ハ始メテ興隆ノ世トナリ詩歌國誌ノ外ニ敎文短話技術理學ニ關スル論文及ヒ家事生計ニ係ハル論集等現ハル然レモ萬古ニ亘リ滅セサル佛國眞成ノ文學ト稱スル者蓋シ十六世紀ニ在リト云フ可シ

十六世紀ニ至リ古代學術(羅馬希臘ノ)流行及ヒ宗教ノ革命アリテ大ニ佛國ノ人心ヲ攪起シ學士輩出シテ國語及ヒ文學ノ隆盛ヲ致セリカ  
ルバン氏年二十七歳ニシテ羅馬法ヲ編纂セシカ是レ實ニ論理ニ關スル佛國論文ノ始ニシテ佛國ノ法律ヲ以テ世ニ鳴ルモ基ク所實ニ茲ニ外ナラスもんですきゆ氏亦論集アリ自負ノ思想紙外ニ溢ル英國ノベ  
ーこん、あぢそん二氏ノ如キハ其譽ニ倣ヒシ者ナリらべれー氏ハ佛國ノ一大戯作者ナリ其著述ハ能ク佛國ノ情勢ヲ照スノ明鏡ニシテ當代ノ

學術詩歌及ヒ好尙特弊ニ至ル迄歴然反照セサルナシ唯氏ノ章句モ佛文ノ通弊ヲ免レズノ張大ノ跡アルハ深ク惜ムベシ尋テ傳紀興リ幾ナ  
ラスノ其体格完備セリ佛國ノ翻譯家ハ名聲甚タ高キ者ナシ唯タわみ  
よ氏アリぶるたーく氏ノ著書ヲ翻譯シテ大ニ聲名ヲ得タリ蓋シ此書  
ヤ希臘羅馬ノ名家三十餘名ノ傳記及ヒ其當代ヲ詳記セシ者ナレハ佛  
國ノカ爲ニ益スル所甚タ多シト云フ(千五百十三年ヲ以テ生レ同九十  
一年卒ス)戯曲ハ亦當時佛人ノ大ニ愛讀スル所口まるねーゆ氏初メテ  
近代ノ所謂ル悲曲ヲ編シらーん氏聖書ニ基キテ院本ヲ作り共ニ世人  
ノ好評ヲ博セリ諧曲記者ニハ則チもりーる氏アリ今日ニ至リテ猶ホ  
其比ナカラシ

其他今日ニ至ル迄著述家ノ輩出セル屈指ス可ラス前世紀ニハ即チ蘆  
騷せーちノ徒すてー婦人ノ如キアリ近代ニ至リ批評家ニハばーぶ氏

アリ稗官ニハびくどるひびごいじよるぢさん及ヒばるざつくノ輩アリ  
 然レモ佛國ノ文人ニソセーくすびーわほーまる或ハだんてト比スル  
 ニ足ル者ナク又日耳曼人がていて氏ヲ稱賛スルカ如ク佛國ノ文人ニ  
 ノ其國人一般ノ尊崇ヲ得ル者嘗テ一モ是アルコトナシ唯々說話ノ快活  
 ナル傳紀ノ流暢ナル詩歌ノ眞ニ逼ルガ如キハ佛人ノ長スル所ニシテ  
 稗史小説ノ類亦頗ル多シ然レモ此等ノ文字ハ所謂虛文ニ屬スル者ニ  
 ノ往々不徳猥褻ニ陥ルノ弊アルヲ免レズ佛國ノ文學恐ラクハコレヨ  
 リ衰運ニ向ハン

政治

第三次民主政體即チ現時ノ政體ハ千八百七十年ヲ以テ其設立ヲ布告  
 シ同七十五年ニ至リ憲法ヲ制定シテ大權ヲ分立シ大統領元老議院及  
 ヒ代議院ハ俱ニ國民ノ意見ヲ代表シテ法律ヲ制定スルノ權アリ而シテ

大統領ハ行政ノ首長ニシテ代議院元老議院ノ總會議ヲ以テ之ヲ撰舉シ  
 其在職期限ハ七ケ年ニシテ内閣之ヲ補佐ス内閣ハ大統領自ラ撰任シタ  
 ル九省ノ長官ヨリ組織セル者ニシテ學務兼美術卿ノ如キモ亦其一ナリ  
 司法上ノ最上權ヲ有スル者ハ參議院ニシテ上告訴件ヲ處理スル所ナリ  
 又該院ハ法律上ノ意見ヲ政府ニ建稟シテ其是非ヲ論議スルノ權ヲ有  
 ス

佛國政府官員ノ數甚多ク百般ノ事務皆其管與セサル者ナキガ如シカ  
 レハ其權力ノ重大ナルコト王政強盛ノ昔時ニ讓ラズカノ米國ガ成ル可  
 ク民間ノ事業ニ干與セスシテ其爲ス所ニ放任スル者ト同日ノ論ニア  
 ラサルナリ然レモ共和政府ノ要スル費額ハ曾テ帝王政府タリシ時ヨ  
 リ減スルコト甚タ多ク例ヘハ千八百二十四年ヲ以テ即位シタルル  
 第十世ハ年々自ラ五百萬弗ヲ費シ別ニ皇族費一百万弗以上ヲ糜



シタリシカ目今大統領ノ俸給ハ一ケ年僅ニ十二万弗ニシテ外ニ家計手當三万四千弗ヲ給與スルニ過キス又廉ナラスマ嗚呼王室ハ佛國ニ在リテハ高價ノ奢侈品ナリシ哉

然リト雖モ佛國政府ノ歳出ハ甚タ巨額ニシテ殆ンド其比ヲ見ズ是レ一八千八百七十年ニ普國ト無謀ノ戰爭ヲ開キテ大ニ國債ヲ増加シタルニ因ル且ツ之レガ爲メニ國力ヲ消耗シ財源ヲ涸散シタルヲ以テ税目頗ル多ク貨物一トシテ殆ンド課税セラレザル者ナシ今後幸ニシテ泰平無事ナルコトヲ得ハ人民資財ニ富ムニ隨テ此重税モ次第ニ輕キテ覺ユベキナリ

常備軍ハ佛國ノ財源ヲ涸散スル一大溝渠ナリ身體羸弱ナルカ或ハ他ニ特別ノ故障アル者ノ外ハ凡ソ國民タル者必ス兵役ニ就クノ義務アリ其服役年限ハ七ケ年ナリトス

佛國現時ノ教育制度ハ革命時代中ニ民會ノ制定スル所ニシテ國內ヲ分チテ十六ノ大學區トナシ學區毎ニ師範學校ヲ設置シテ以テ教師ヲ養成シ又專門學校ヲ設ケテ雅典羅馬ノ古代技術等ヲ學ハシム又政府ノ保護ニ係ル佛國學士院ナル者アリ高名秀才ノ文學家博識家藝術家ヨリ成立スル者ニ分チテ五部トナシ一部凡ソ四十員アリ其佛語部トスル一部ハ國語ヲ改良シ字典ヲ編纂シ又諸種文學ノ著書ヲ評定スルヲ以テ其任トナス故ニ國學者ノ最大志望ハ則チ斯ノ光榮不朽ノ學士院會員トナルコト是也

宗教

佛蘭西ハ歐洲中最モ早ク耶蘇教ニ化シタルノ國ニシテ往古ビテ稱セシ頃ニ在ッテ既ニ耶蘇宣教師ノ小亞細亞ヨリ此地ニ來リテ布教ニ從事シタル者アリ而シテ當國諸王中斯教ヲ奉セシハくろびす王ヲ以テ

始トス上ノ爲ス所下之ニ倣フ者甚ク多ク未タ幾モナラズ佛國ハ歐  
 州中羅馬加特力教國ノ第一トナリ今ニ至ツテ尙此教ヲ改メス依然之  
 ナ信奉セリ蓋シ羅馬法王ハ獨リ人心ノ上ノミナラズ政治上ニモ特權  
 權ヲ有スト云ヘルハ從來加特力教徒ノ主張スル所ナレハ佛人ハ特リ  
 之ヲ肯セス千二百六十九年政府ハ一大令ヲ發シテ法王ノ國政ニ干渉  
 スルヲ拒ミ以テ其國權ヲ鞏固ニシタリシカ後又千六百八十二年ニ至  
 リテ宗教大會議ヲ開キ益々此議ヲ確定セリ當國高名ノ宗教家ばつ  
 ーノ如キ之ニ與リテ大ニ力アリタリト云フ  
 右ノ如ク佛國ハ殊ニ法王關政ノ權ヲ拒ムト雖モ尙ホ純然タル加特力  
 教國タルヲ以テ新教徒ヲ虐待スルコト酷シク殊ニ新教ハゆーげのト派ノ  
 信者チ一夜ノ間ニ鑿殺シ亦カノ寛仁ナルエザクト、オフ、ナント」ヲ廢止  
 シタルカ如キハ佛國史上ハ二個ノ汚點ヲ遺シテ永ク此國ノ耻タルベ

キナリ

爾來哲學ノ進步スルニ隨テ學者ノ羅馬教ヲ非議スル者漸ク多ク遂ニ  
 カノ革命ニ際シ王政ヲ廢スルト同時ニ羅馬教モ稍々其勢ヲ減シタリ  
 蓋シ斯ノ道理ノ時勢ハ迷信時代ノ反動ニシテ又免ルベカラサルノ數  
 ナル手後チ奈破烈翁第一世帝位ニ即クニ及ヒ政略上ヨリ再ヒ之ヲ興  
 シテ國教トナシテヨリ頼ニ其勢ヲ復シ當時ハ又頗ル盛ニシテ其大教  
 正及ヒ教正ノ如キハ政府其人ヲ推薦シ法王ノ允可ヲ得テ初メテ之ヲ  
 任命スルヲ得ル者ナリ  
 此他新教諸派ノ中改良及ヒる一さるノ二派モ亦佛國ノ國教ニシテ加  
 持力教ト同シク年々政府ヨリ若干金ヲ補助セラル、ト云フ  
 右ノ三國教中特ニ加特力教ハ諸種ノ財產ニ富ミ就中る一ゑん及ヒ巴  
 里ノ兩大教院ノ如キハ建築術ニ關メハ希代ノ摸本ト稱セラル其他高

等學校專門學校等ノ該教ノ管理ヲ受クル者亦少ナカラス又傳教社ト稱スル者アリ是レ宣教師ノ中央本部ニシテ世界中凡ソ加持力教信者アルノ國ハ皆之ト通信往來シテ氣脈ヲ通セサル者ナシ同教ノ規模此ノ如ク盛大ナリト雖ヒ其定時刊行ノ誌類ハ勢力甚タ微弱ニシテ其數モ亦甚少ナシ之ニ反シテ教校ハ其數頗ル多ク嘗テ教ヲ茲ニ受ケシ者ニメ卓識雄辨ノ名アル者モ亦少ナカラズト云フ

佛國將來如何

今ニシテ佛國將來ノ盛衰ヲト知スルハ人智ノ及ハサル所ナリト雖ヒ王政論者ハ稍ク其勢ヲ失ヒ泰平ノ年一年ヲ經ル毎ニ國民共和政体ヲ喜フノ情ハ次第ニ深キヲ加フルモノニ似タリ然リ而シテ佛國ノ將來ニ猶ホ二三ノ大ニ憂フベキ者アリ今ニシテ之カ計ヲ爲サ、レハ他日臍ヲ嚙ムノ悔アラソ元來當國ノ民多クハ無智無學ニシテ就中其都會ノ

地ニ住スル者ノ如キハ急噪ニメ定見ナク且ツ殺伐ノ氣常ニ胸中ニ充溢シテ往年日耳曼ニ恣ハレタル北部ノ二州ヲ回復セント欲スルノ志望甚盛ナレハ他日或ハ昔日ニ倍スルノ修羅場ヲ演出スルノ不幸アルモ知ル可カラス此際專ラ教育ヲ盛ニシテ無智淺謀ヲ啓キ宗教ノ方便ヲ籍リテ浮噪危激ノ弊ヲ矯メ以テ其民ニ平和ノ幸福ヲ覺ラシムルニ非レハ佛國後來ノ成敗未タ測ルベカラサル者アリ蓋シ安全ノ計ハ國ノ平和ヲ期スルニアリ國平和ニシテ富強ナラサル者ハ未タ是アラハルナリサレバ昔年ノ暴政ト革命トニヨリテ毀傷シタル佛國ノ人情ハ單ニ宗教ト教育トヲ以テ緩カニ之ヲ救治スルノ外又道ナキナリ

卷之四

英吉利

英 吉 利

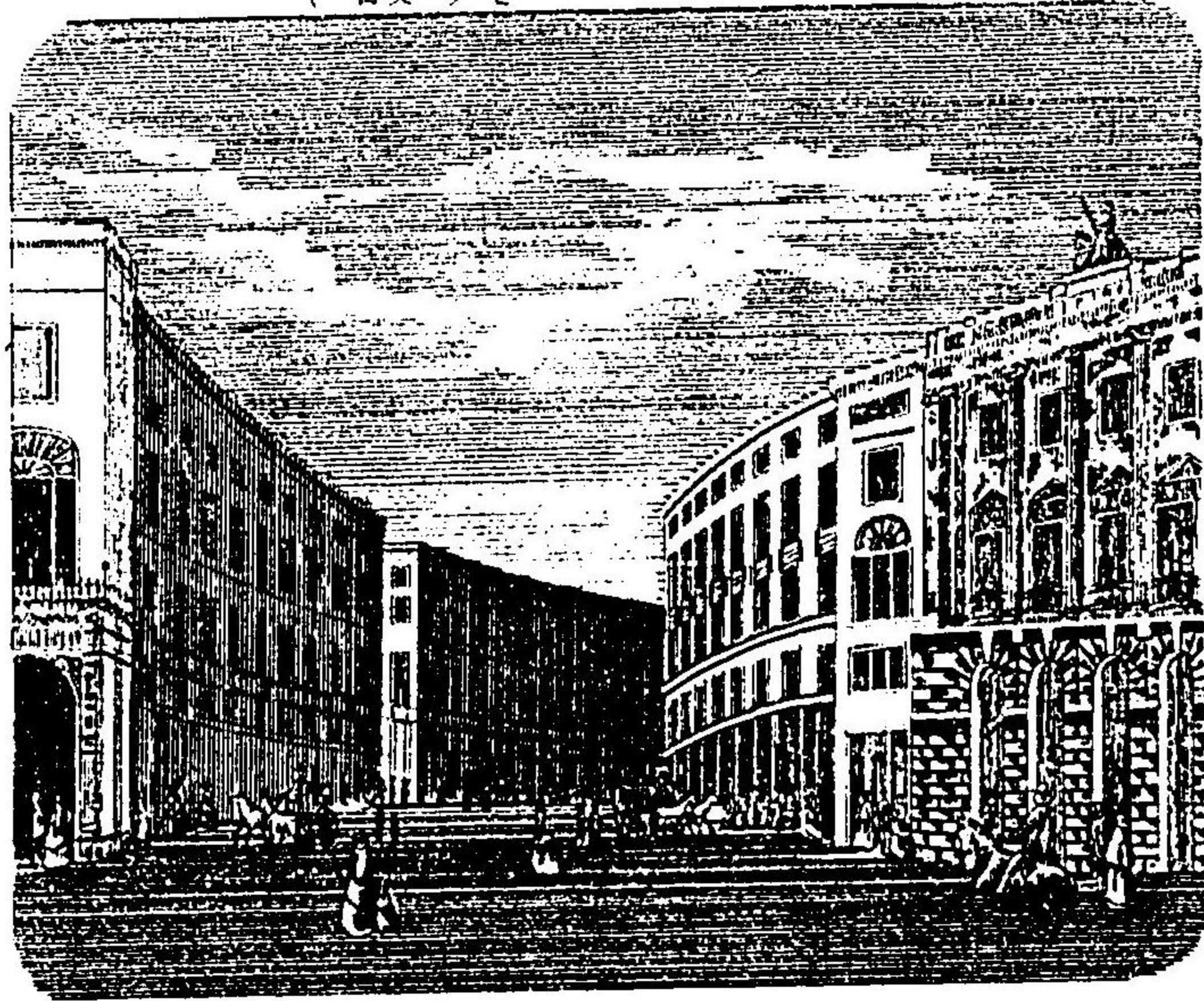
瀛船烟波ヲ排シ來リテ碇ヲまゝに河ロニ泊シ小所其ノりば一  
る府ニ着セルヲ報ス直チニ大西會社鐵道ノ英京倫頓ニ赴クモノニ乘  
ル可シ道スガヲ閑佳愛ス可キノ故府ちすたニ遊ビすれらとふる  
府ニ詩人トクすびわ氏ノ古墳ヲ吊ヒおくすふる府ニ諸大學校ヲ  
觀覽スルヲ得可シ各々一日ヲ費セハ則チ足レリ既ニシテ瀛笛一聲即  
チ倫頓ニ着ス

倫頓

倫頓ハ英國ノ首府世界市場ノ第一ニシテて一むす河ノ兩岸ニアリ其  
或ハ觸レ或ハ感スル所ノ事々物々ハ皆異客ノ耳目ヲ驚カサマルナシ

世界財貨ノ中心ハ倫敦ナリ大英國政務ノ要樞ト商業ノ燒點ハ倫敦ナリ而シテ廣大無邊世界ヲ繞レル殖民地ノ中央モ亦此倫敦ナリ其人口ハ前五十年間ニ倍蓰シ其家屋ノ過半ハ皆新タニ前世紀ノ建築ニ係レリ廣袤ハ一百二十二方英里市街七千四百個家屋五十三万人口四百万ト稱ス蓋シ純粹ノ英人ノミ住スルニアラス他國ノ者相幅濶シテ業ニ茲ニ就クサレハ蘇格蘭土人ノ倫敦ニアル者其首府スルニアル者ヨリ多ク愛蘭土人ハ其首府ダブリンニアル者ヨリ多ク猶太人ハ其生國ばれすたいんニアル者ヨリ多シト云フ大凡遊歷者ニ適スルノ好期ハ花弄スヘキノ三月ニ始マリ涼占ムヘキノ七月ニ終ル片時ヲ愛シ車馬ヲ籍ルノ客ハ三週間ヲ費セバ略々市中ノ名勝舊蹟ヲ探ルニ足ル可シト雖モ土産ヲ求メ見世物ヲ一見スル等ニ至リテハ更ニ數週間ヲ要ス可シラズトミにすたり寺院ヤ及ヒ其四傍ヲ周レル學士豪傑ノ墳

（一）倫敦（英） トーレストンゼーレ



門カバノ橋ルテスニミトスウ



墓倫頓塔ヤ英南きんぶすとん二博物館聖ぼゝる伽藍ヤ國會議事堂及  
 ビ官立美術館ノ如キハ市内ニアリテ概メ米客及ヒ其他外客ノ爲ニハ  
 最大ノ奇觀タルヘシ又タ郭外ニハはんぶとん宮水晶宮さ。一公園等ア  
 リ二十英里ヲ距リテ遠クういぞる城ヲ尋ヌルハ是レ英國無數ノ城堡  
 中多ク其比ヲ見サレバナリ蓋シ倫頓ハ其市街ヲ分チテ二トナス可シ  
 一ハ府人常ニ呼ヒテ中市トナス者金銀ヲ產出スルノ地是ナリ一ハ又  
 西區トナス者金銀ヲ支消スルノ地是ナリ中市ニハ銀行アリ兩替處ア  
 リ稅館アリ宏大無數ノ停船所ハ各國ノ船舶ヲ繫キ停メテ一モ空虛ア  
 ルナシ去リテ西區ニ行ケバ宮殿アリ貴族豪商ノ別邸アリ所々ニ散見  
 スヘキ公園地ハ皆自然ノ趣致ヲ存シ人工ノ妙ヲ具ヘサルナク樹木鬱  
 蒼トシ諸鳥枝頭ニ囀シ池水渺々トシ魚鼈波間ニ躍ル一ハ即チ雜沓繁  
 熱一ハ即チ閑佳幽濠一市中ニ二様ノ天地ヲ見ル可シ嗚呼倫頓ハ英國

ノ事情ヲ講究スルノ最良地ナル哉

歴史

羅馬時代

自紀元前五十五年  
至四百四十五年

太古ノ事ハ漠トシテ考フ可ラス紀元前五十五年塞撒遠ク羅馬ヨリ來  
リテ英ノ海岸ヲ襲ヒ一戰シテ之ヲ破リ進ンテ内地ニ入ル是ヨリ先キ  
已ニ英國ニ在るハ不稱スル一種族アリ僧侶教師及ヒ判官ノ三職ヲ  
兼テ以テ人民ヲ支配スル者ナリ塞撒ノ來襲スルニ及ヒテ始メテ世ノ  
知ル所トナル之ヲ英國正史ノ始トス福將くらゝゝわす留リテ之ヲ征服  
シ遂ニ全ク羅馬ノ版圖ニ歸ス後チ羅馬其成ヲ徹スルニ及ヒテ乃チ獨  
立ス今ヤ漫遊ノ序ニ古代ノ道路墳墓及ヒ籀細工ノ敷石等ヲ穿鑿スル  
カ若クハ十二月ノ名稱婚禮葬式五月祭及ヒ風俗習慣等ヲ考フルル  
ハ吾人其大ニ羅馬ノ遺風アルヲ見

わんぐろさくそん時代

自紀元四百四十五年  
至千六百十六年

紀元四百四十五年羅馬其成ヲ徹スルニ至リ蘇格蘭ノびくと族其勢猖  
獗ニソふりどん人之ヲ防クノ術ヲ知ラズ遠ク救ヲさくそん人ニ乞フ  
既ニシテさくそん人英ニ入ルヤわんぐろ族及ヒ其他北夷又タ相尋テ  
侵入ス是ニ於テ世ノ英人ヲ稱スル者わんぐろさくそんノ名ヲ以テセ  
リ此諸種族ハ皆稼穡ヲ以テ事トシ一旦事アルニ際シテハ則チ村會ヲ  
開キ之ヲ整理セリ又タ資性頗ル慍悍ニソ苟モ鬪爭ニアラサレハ以テ  
快トセス怒濤ヲ航スルニ非サレハ以テ慰トセズ常ニ燕樂獵狩ヲ以テ  
僅カニ無聊ヲ遣ル然リト雖其婦人ヲ遇スルヤ深切ニソ又タ能ク宗  
教上ノ儀式ヲモ踐行セリ

既ニソ諸種族次第ニ内地ニ侵入シテ遂ニふりとん人ヲ服從シ英國ヲ  
分チテ七小王國トナセリ蓋シ此時代ハ六百年間ニ當リ特ニ吾人ノ注

意ヲ喚起ス可キ者ハ獨リあるふれど大王アルノミ(八百七十一年即位  
 九百一年崩ス)慄悍無前ノ海賊噠馬人ヲ塵ニセシ者ハ則チ大王ナリ軍  
 艦ヲ造リテ海防ヲ固メ又タ法律ヲ改正ノ且ツ善ク其執行ヲ務メシ者  
 ハ則チ大王ナリ其他をくすふるとニ大學校ヲ設立シ羅旬書ヲ翻譯セ  
 シメタル等能ク民人ノ福利ヲ増進スルヲ努メタルノ成績アルハ人民  
 後世ニ至ル迄春々トシテ大王ヲ慕フ點ヨリ視ルモ太々明カナリ又タ  
 此時代ニ常リ聖<sup>セント</sup>がすちんナル者アリ基督教ヲ信スルコト篤ク其  
 王<sup>セント</sup>をせるば<sup>セント</sup>トノ保護ヲ得テかた<sup>セント</sup>ト<sup>セント</sup>ニ寺院ヲ築キ教堂ヲ設  
 ケ以テ基督教ノ普及ノ種子ヲ播ケリ  
 以上ノ陳述ニ由リ之ヲ考フルニ吾人ハ英國現時ノ文明ヲ致セルニ太  
 原因ヲ當時ニ求ムルヲ得曰ク基督教ノ普及曰ク諸種族敵愾ノ消滅是  
 ナリ

えどわるとせ、こんふつそる王ハ倫頓ニ城キテ以テ英國ノ首府ヲ創立  
 シ又ラ<sup>セント</sup>とミ<sup>セント</sup>たすた<sup>セント</sup>！寺院ヲ建立セリはるる<sup>セント</sup>王位ヲ繼クニ及ヒテ  
 へすちんぐノ戦争アリ王其性命ヲ墜シ其國土ヲ失ヘリ悲哉  
 のるまん時代自千六百十五年  
 へすちんぐノ戦ハ世界大戦争ノ一ニ居ルはるると王ノ命ヲ戰陣ニ失  
 フヤ殘兵善ク禦ガズ<sup>セント</sup>のるまんで<sup>セント</sup>公<sup>セント</sup>う<sup>セント</sup>り<sup>セント</sup>や<sup>セント</sup>む<sup>セント</sup>勝<sup>セント</sup>ニ<sup>セント</sup>乘<sup>セント</sup>メ<sup>セント</sup>倫<sup>セント</sup>頓<sup>セント</sup>ニ<sup>セント</sup>入<sup>セント</sup>リ  
 テ王位ニ<sup>セント</sup>う<sup>セント</sup>す<sup>セント</sup>と<sup>セント</sup>ミ<sup>セント</sup>に<sup>セント</sup>す<sup>セント</sup>た<sup>セント</sup>！寺院ニ即ク之<sup>セント</sup>のるまん時代ノ始トス初  
 メ王ノ英王はるる<sup>セント</sup>と相戰フヤ其率ユル者ハ皆佛國ノ兵士ナリ故ニ  
 即位ノ後之ニ分與スルニ土地ヲ以テシテ其戰功ヲ勞ラヒ側ヲ英人ヲ  
 使役スル<sup>セント</sup>甚<sup>セント</sup>タ<sup>セント</sup>暴<sup>セント</sup>戻<sup>セント</sup>ニ<sup>セント</sup>殆<sup>セント</sup>ント<sup>セント</sup>奴<sup>セント</sup>視<sup>セント</sup>スルニ<sup>セント</sup>異<sup>セント</sup>ナ<sup>セント</sup>ラス<sup>セント</sup>其<sup>セント</sup>或<sup>セント</sup>ハ<sup>セント</sup>反<sup>セント</sup>セ<sup>セント</sup>ン<sup>セント</sup>ト  
 ナ<sup>セント</sup>恐<sup>セント</sup>レ<sup>セント</sup>倫<sup>セント</sup>頓<sup>セント</sup>塔<sup>セント</sup>獄<sup>セント</sup>屋<sup>セント</sup>ヲ<sup>セント</sup>建<sup>セント</sup>立<sup>セント</sup>シ<sup>セント</sup>テ<sup>セント</sup>王<sup>セント</sup>命<sup>セント</sup>ノ<sup>セント</sup>背<sup>セント</sup>ク<sup>セント</sup>可<sup>セント</sup>ラ<sup>セント</sup>サ<sup>セント</sup>ル<sup>セント</sup>ヲ<sup>セント</sup>示<sup>セント</sup>シ<sup>セント</sup>又<sup>セント</sup>タ<sup>セント</sup>普<sup>セント</sup>ク<sup>セント</sup>國  
 内<sup>セント</sup>ヲ<sup>セント</sup>廻<sup>セント</sup>覽<sup>セント</sup>シ<sup>セント</sup>テ<sup>セント</sup>回<sup>セント</sup>覽<sup>セント</sup>實<sup>セント</sup>記<sup>セント</sup>ヲ<sup>セント</sup>編<sup>セント</sup>纂<sup>セント</sup>セ<sup>セント</sup>リ<sup>セント</sup>世<sup>セント</sup>人<sup>セント</sup>之<sup>セント</sup>ヲ<sup>セント</sup>頌<sup>セント</sup>シ<sup>セント</sup>テ<sup>セント</sup>ド<sup>セント</sup>ーム<sup>セント</sup>ス<sup>セント</sup>、<sup>セント</sup>デ<sup>セント</sup>ート<sup>セント</sup>題



スドームス、デイトハ天地ト滅セサルノ義ナリ又々此代ニ當リ上等社會ハ齋ニ佛語ヲ使用シ佛ノ風俗習慣ヲ摸擬スルノミナラス百般ノ事物皆摸擬ヲ佛ニ採リ殆ント佛國ノ奴隸タルカ如キ觀アリシカトよん王其性慈愚其措置宜シキヲ得ザリシカ爲メ却リテ別ニ一種ノ國体ヲ造リ以テ佛國ノ殖民地タルヲ免レタルハ大僥倖ト云フ可シ其失政ノ一二ヲ舉レハ海外ノ版圖タルのるまんで一チ奪ハレ羅馬法王ト爭端ヲ開キテ國內僧侶ノ敬愛ヲ失シ苛稅ヲ賦課シテ貴族ノ怨望ヲ買ヒシ等一々枚舉ス可カラズ是ニ至リテカ貴族兵士相連合シテ王命ニ抗シ既ニノ又タ王ヲらんぬにゐざいせに要シテ万古不易ノ大憲章ニ記名セシメ政治ノ諸權ヲ恢復スルヲ得タリヒよん王失政シテ佛ノ奴隸タルヲ免レ別ニ一種ノ國体ヲ造出セリト論セシ者蓋シ經言ニアラサル可シ今大憲章中重大ナル者ヲ舉クレハ王ハ一切宗教ニ關セサルヲ王ハ

民會ノ一致ナキ限リハ毫厘ノ租稅ヲモ徵集スルヲ得ストノ事等ナリ蓋シ此金錢徵集ノ多寡ヲ定ムルノ權ハ吾人ノ熟知スル如ク常ニ國會ノ掌握スル所ニシテ寔ニ當時貴族ノ賜ト云フ可シ國會議事堂ノ壁間ニ此貴族ノ肖像ヲ彫刻セシ者良ニ以アル哉

自大憲章發布之時至宗教改革時代自千二百九十五年

此時代ハぶらんだせねつと王朝自千三百五十四年らんかすたー王朝自千三百九十九年及ヒよーく王朝自千四百八十五年代ル々相繼キテ王位千四百九十一年ニ即カレシヲ以テ英史中吾人ノ注意ヲ要スル事甚タ尠カラズ蓋シ大憲章ノ批准ヲ得タルノ秋ハ正ニ是レ英民眞存ノ曉ニシテ是ヨリ先ハ貴族獨リ權ヲ恣マ、ニシ平民ハ單ニ奴僕タルニ過キサリキ然レモ歲月漸ク經ルニ從ヒ言語相混化シ元ト貴族ハ佛語ヲ用ヒ人民ハさくそん語ヲ用ヒタリ婚姻モ亦兩族ノ間ニ行ハレ一國危險ノヲアレハ協同合

力以テ二者ノ自由ヲ完フスル等苟モ利害ノ相關スル者次第ニ多ク第  
 十四世紀ノ始ニ於テ全ク主従ノ姿ヲ絶スルコトハナリヌ是ニ於テカ  
 國人始メテ一ニ歸シ國語亦一ニ定ルハ英國無數ノ名譽中万古不朽ニ  
 ノ且ツ最モ華美ナル文學ノ如キモ其胚胎スル處蓋シ全ク茲ニアリト  
 ス降リテ顯理第二世ノ代ニ當リ羅馬教ノ勢甚々熾シニ政治上下ノ事  
 多ク亦其手ニ存セリ例令ハ王虐行ヲ恣ニシ民人塗炭ニ苦ム如キハ  
 寺院ノ威權ヲ以テ王命ニ抗シ以テ其急ヲ救ヘリ當時人民ノかんたふ  
 り一ノ大僧正トイマスべけどチ尊愛シタル者ハ一ニ是カ爲ナリ然レ  
 大僧正ノ王ヲ待ツヤ高慢無禮殆ント見ルニ忍ヒザル者アリ遂ニ士  
 官ノ殺ス所トナル是ヨリ帝室寺院間ノ軋轢漸ク激烈ヲ加ヘ其爭擾延  
 キテ數百年ノ久シキニ亘レリ  
 次ニ略々記ス可キ者ハ十字軍ニノりちやると王武威ヲ歐洲ニ輝カシ

テ虎奮ノ稱ヲ得タルカ如キハ方ニ此時ニアリ蓋シ十字軍ノ目的タル  
 纒カニ邪教徒ヲ放逐シテ以テ聖地せるされむヲ保護センガ爲メナル  
 ニ其無數ノ人命ヲ異域ニ墜サシメシ一慘ハ則チ慘ナリト雖ヒ還タ其  
 社會ニ利益ヲ與ヘタル者尠少ニ非ルナリ而シテ旅行通信ノ便茲ニ開ケ  
 テ各國ノ交際親密ヲ加ヘタルガ如キ其最モ著明ナル者トス王已ニ崩  
 ノぶらんとせぬつと王統尙ホ世ニ立ツコト二百年其間力ヲ用ウル所皆  
 歐洲ヲ蠶食セント欲スルニ非サルナシ然レヒ唯性命ヲ墜シ財貨ヲ費  
 スニ止マリ敢テ版圖ヲ歐洲ニ得ルナク悄然兵ヲ孤島ニ退クル者比々  
 皆是ナリ一目スレハ此事英民ノ爲メニ大ニ吊セサル可ラサルニ似レ  
 其其實却リテ英國ノ至福ト斷言ス可シ蓋シ英ノ聲名ヲ天下ニ得タル  
 ヤ慘憺タル戰伐ニアラスノ平和ノ美術ニ存スレハナリ  
 又當時代中薔薇軍蘇格蘭戰爭ノ如キ諸皇族ノ爭權ヨリ一大修羅ヲ惹

起セシ者少ナカラサレ此單簡ナル記行中ニ斯ル軍情ヲ細記スルハ却ツテ倦厭ノ嫌ナキニアラサレハ余ハ斷ノ之ヲナサバラン蓋シ吾人現時ノ社會日々ニ大ニ進歩セリ而シテ此進歩ノ情況ヲ記スルハ腥風慘雨ノ説話ニ勝ルナラン

宗教改革

宗教改革ハちうどる王朝時代ノ最大事件ニシテ英史中吾人ノ最モ留意ス可キ者トス初王顯理七世位ニ即キ婚媾宜ヲ得テ諸皇族平和ニ歸シ蕪薇軍始メテ叔ル太子顯理八世弱冠ニシテ位ヲ襲フ明主ト稱ス政蹟見ル可キ者アリ是レ世人山ハニ其面貌ノ腫張ナルト其身体ノ肥滿ナルヲ記スル所以ナリ王志望極メテ堅固措置亦拙ナラズ宰相うるせ一至尊ヲ冀如スルノ嫌ナキニ非ザレハ稟質英敏政務ニ與リテ力アリ故ニ王名益々高ク羅馬法王亦タ王ニ授ルニ宗教保護者ノ尊名ヲ以テセリ

後チ法王王ノ婚姻ヲ阻ミ王從ハズ却リテ法王ノ羈扼ヲ解キテ英國寺院ヲ獨立セシム

是ヨリ先キ英ニうくりふナル者アリ宗教上ノ一書ヲ著ハシテ以テ法王ノ所爲ヲ諷刺ス其書普ク人ノ誦スル所ナリ故ニ今ヤ二王相敵視スルニ及ヒテ多ク顯理ニ歸ス王大ニ寺院ヲ蹂躪シくらんま一氏亦起リテ國教ノ設立ヲ唱フゑととるト王位ヲ襲クニ及ヒ遺志ヲ奉シテ新教ノ普弘ヲ務ムめれ一女王登祚シテ舊教一時復タ振フ當時一皇女アリぐれ一ト稱セラル王位ヲ覬覦ス女王之ヲ殺シテ後患ヲ除キ後チびりぶチ西班牙ニ迎ヘ大ニ新教徒ヲ殺戮シテ以テ舊教ヲ恢復セシムヲ務ム然レニ其事成ラズ遂ニ狂ヲ以テ崩ズゑりさべす女王位ニ即キ執政四十五年成蹟天地ト與ニ滅セザル者アリ新宗ヲ興シテ國教トナシ世界ノ名士ヲ聘シテ以テ文學ノ盛隆ヲ圖リ西班牙ノ軍艦わーまだヲ破

リテ瀕海ヲ淨メシカ如キ其最モ大ナル者ニソ吾人ノ特ニ記スル所ナ  
 リ女王終身夫ナシ獨リ自ラ政ヲ執リ給フバ一レ公ノ顧問ニ依ルト云  
 フ蓋シ當代ハ名士碩儒ノ輩出シタル時ニシテ英史中復タ之レアルナシ  
 今其一ニテ舉クレハ侍從セクレタリーハ氏ハ世界ヲ一周セル者ラレ一氏ハ  
 文武ニ長シ詩賦ヲ善クセリ野ニハ則チ詩人すべんペンサー一一ル一一くすび  
 一一わノ二氏アリ學士ベ一一んアリ史家ノ所謂英國文學ノ黄金時トハ  
 則チ此時代ヲ謂フナリ

帝室國會間ノ爭權

自千六百八十三年至千六百八十八年

此爭權ハすちとると王朝ノ初王セ一一むす第一世(自千六百二十五年至)ニ始  
 リリやむむ千六百八十八年ニ至リテ止ム一ニ王室ノ專横ニシテ下民ヲ  
 虐スルノ甚シキニ出ツト云フ可シセ一一むす一世已ニ崩シ其子ちれす  
 一世位ヲ襲フニ及ヒテ苛法ヲ布キ重稅ヲ課シ施政毫モ父セ一一むすニ

異ナラス上下盡ク怨ム遂ニ國會ヲシテ國民ニ許スニ諸權利ヲ以テスル  
 ニ非サレハ需メニ應セサル可シト揚言セシムルニ至レリ王之ヲ聽カス却リ  
 テ國會ノ首領ヲ拘引セリ專横茲ニ至テ極マレリト云フ可シ民乃チくろ  
 むうあるヲ推メ將トシ公然王命ヲ阻ム全國皆風靡シ反旗四モニ起ル  
 三軍支フル一能ハスシテちれす王遂ニ首足所ヲ異ニセリ噫う歎ズ  
 可キ哉尋テくるむうある自ラ代リテ政ヲ攝ス治蹟見ル可キ者ナキニ  
 非ス其人ト爲リノ如キハ當時ノ大儒みるとん及ヒちりる二氏ノ評  
 ニ任シテ可ナリ之レヲ喋々スルハ此小冊子ノ本旨ニ非ズ既ニソ國民  
 復タ王政ヲ望ムちや一一れす第二世位ニ即キテ民万歳ヲ唱フ然レモ虐  
 行先王ニ異ナラス政蹟汚黷多シ弟セ一一むす二世不徳兄ニ倍ス新教  
 チ壓シ又毫モ民力ヲ惜ハス衆遂ニうわりやむむチ迎フ民始メテ堵ニ安  
 ンス尋テセ一一むす二世ノ末女わん位ニ即クまるぼる一一ノ戰勝アリ

又タば一ふあはそん二氏ノ著書當代ヲ以テ世ニ出ツ  
 爆裂黨陰謀ハ又タすちむると朝ノ一大事件ニシテ舊教信徒ノ企ツル所  
 ナリ其目的ハ國會議事堂ヲ破壊シ新教ヲ奉セラルルハ帝王ヲ弑シ及  
 ヒ其官吏ヲ殺害シテ以テ舊教ヲ恢復セントスルニ在リシガ其事成ラ  
 ス却リテ新教徒ノ怨ヲ買ヒ其衰頹ヲ速ケリ  
 史ノ記スル所ノ倫頓大火大凶歎ト稱スル者及ヒ聖ぼーる寺院ノ再築  
 ハ亦皆當朝ノ大事件ト稱ス可シ  
 又タ當朝ニ在リテハ有名ノ學士甚タ乏カラス就中理學者ルック氏天文  
 學者トにトん氏ノ如キハ其最モ著名ナル者トズ  
 是のば一朝自千七百十四年玉現時  
 トよーヒ四世ノ代ハ英史中特ニ多事ノ時ニシテ讀者大ニ注意スヘキ者  
 アリトよーヒ二世位ニ在ル一三十三年年宰相ちやさむ侯ノ力ニ依リ

テ版圖ヲ亞米利加及ヒ印土ニ得タリちやさむ侯ハ元來忠實敢爲ノ政  
 治家タルノミナラス能辨ノ演說家ナルヲ以テ威望甚タ高ク將ニ其全  
 カヲ舉ケテ國事ニ致シントス偶々米國ニ於テ佛英兩殖民ノ間ニ爭鬪  
 起ル英人おはいを州ニ入ラントシ佛國陣營ノ線路ヲ過リ佛之ヲ阻ミ  
 シニ由ル是ニ於テ英佛共ニ讓ルノ色ナク遂ニ大ニ相戰フ佛兵利アラ  
 ス英將うるふノ名歐洲ニ鳴ル顧フニ米國ノ國語ヲ英ト同フシ又タ文明  
 ノ性質チ一ニスル者ハ主トシテ此一舉ニ歸スルト云フ可キ乎何トナ  
 レハ此時ヨリ以後英人獨リ勢ヲ米國ニ得タレハナリ  
 印土ノ爭亂ハ又タ當代ニ起リシ者ニシテ其原因ヲ釋ヌレハ略々其米國  
 ニ生シタルモノト相類スル者アリ而シテ其結果亦大ニ異ナラスシテ  
 英ノ勝利トナリシハ奇ト云フ可キナリ蓋シ印土ハ世界商業ノ寶山ナ  
 リ英之ヲ覬覦シテ其爪牙ヲ磨スル一茲ニ年アリシガ千六百十六年ニ

至リ始メテ一商社ヲ茲土ニ設立シ以テ大ニ商業ノ取引ヲナセリ所謂  
 ル東印土會社はナリ此時ニ當リ印土ニ別ニ一商社アリ佛人ノ設置ニ  
 係ル者ナリ佛商猥リニ英ノ商社ヲ逐斥シテ以テ已レ獨リ巨利ヲ壟斷  
 セントス英商乃チ之ヲ視ルテ敵ノ如ク遂ニ延キテ兩國ノ不和ヲ惹キ  
 起シ于戈ヲ以テ相見ユルニ至レリくらゐハ英商社ノ一支配人ナ  
 リ才幹ニ長シ敢爲ノ氣ニ富ム兩國相戰フニ及ヒテ大ニ佛兵ヲ破リ英  
 國ノ疆土ヲ擴ム其軍機ニ長スル天下多ク比ナカラン尋イテヘすちん  
 ぐす氏及ヒ其他ノ政治家代ル々々其路ニ當リテくらゐハ氏ノ遺業ヲ  
 踐行シ印土全地ヲシテ能ク英ノ掌中ニ歸セシメタリ佛商社聲モナク  
 臭モナク遂ニ其之ク所ヲ知ラズ今ヤ蘇土運河ノ開鑿其功ヲ竣ヘテ船  
 舶喜望峯ヲ迂回スルノ要ナク鐵道電信ノ架設普ク行ハレテ印土ノ事  
 情雲時ニシテ英ニ達ス可シ英深ク印土ヲ處トスルニ足ラサルナリ

トよート第二世崩スルニ及ヒテ第三世其後ヲ襲ク位ニ在ル一六十年  
 ノ久シキニ亘リ英史中曾テ見サル所ナリ此時ニ當リ米國次第ニ文明  
 ノ域ニ進ミ殖産工業ノ途開ケ自主自由ノ精神亦タ大ニ起ル英王ノ徵  
 稅ノ重キニ堪ヘス揚言シテ曰ク代議士ヲ出サスシテ租稅ヲ課スレハ  
 之ヲ上納スルノ義務ナシト英國政府兵ヲ以テ意ヲ果サントシ却リテ  
 米人ノ逆撃スル所トナリ合衆國獨立乃チ成ル  
 次ニ記ス可キチ歐州大戰爭トナス奈破烈翁孤島ニ起リ累遷シテ佛ノ  
 兵事ヲ綜ズ是ニ於テ一舉シテ歐州全土ヲ蹂躪セントス諸國駭然衡ヲ  
 連テテ之ニ抗ス蓋シ局外中立ノ說ハ概チ當時政治家ノ採ラサル所故  
 ニ英相びつと亦タ諸國ト合從シ兵ヲ起シテ佛國ノ猛虎ヲ擒ニセンコ  
 チ謀ル劇戰年ヲ亘リテ止マズ勝敗互ニ相半バス徒ラニ人生ヲ損シ財  
 貨ヲ費セシノミ後チねるそん將軍佛ノ水軍ヲどうふるがるニ破リラ

るりんぐどん凱歌ヲラをたるるーニ唱スルニ至リテ戦争茲ニ止ミ歐州  
始メテ譴然タリ實ニ千八百十五年ナリキ  
らりやむ第四世ノ代ニ至リ奴隸廢止ノ令印土ニ行ハレ改革議案又タ  
批附セラル

今上ハ女王ナリグのくとりやト稱セラル千八百十九年ヲ以テ生レ千  
八百三十七年ニ至リテ即位シ後チ三年ヲ經テ婚ヲ從兄皇子あるべる  
トニ結バル皇子九人長女グのくとりや日耳曼ノ皇子ニ嫁セラレ嫡子  
を産むると今東宮ノ位ニ在リ噠馬國ノ皇女ヲ娶ル

英人ノ特性

現時ノ英人ハ上古ノあんぐる人種ノ子孫タルヲ證明スル者ナリ例ヘ  
ハあんぐる族ハ勞役ヲ屬ミ又タ好ンテ冒險ノ業ヲ取リシカ現時ノ英  
人モ亦タ能ク此性質ヲ有セリ又タ法律ヲ遵奉シ宗旨ヲ信仰スル事等

二者毫モ異ナルナシ○教育ヲ受ケサル英人ハ誠意實直ナレト極メテ  
粗魯ノ風アリ○英人ハ皆甚タ航海ヲ好ムサレバ英國希代ノ豪傑ト稱  
スル者ハ兵士ヨリ出テタルラるるりんぐどん將軍ニアラズ却リテ水  
夫ヨリ現レタルぬるそん都督ナリトス○英人ハ諸國ヲ漫遊シテ新奇  
ノ事物ニ觸レ異様ノ思想ニ交接スルモ更ニ爲メニ故郷ノ風俗習慣ヲ  
脱却スルコトナシ○英人ノ遊戯トスル者ハ極メテ腕力ト忍耐ヲ要スル  
者ニシテ婦女子ニ類スル遊嬉ハ更ニ之ヲ顧ミス○競馬ハ一國普通ノ  
遊戯ニシテ又タ慈善ノ舉アレハ則チ必ス饗宴ヲ張リテ親戚舊故ヲ招ク  
○英人ハ概テ工夫ヲ善クシ構造ノ力甚タ大ナリ故ニ事業獎勵ノ會社  
學術ニ關スル協會及ヒ百般ノ改革ニ屬スル會社甚タ多シ○英人ハ良  
心ノ觸ル、所必ス慈善施濟ノ義行ヲナス○然リト雖ヒ吾人ノ大ニ英  
人ヲ賞揚スヘキハ其勞役ヲ屬ムノ事ニアラス自由獨立ノ氣象ニ富メ

ルニアラス饗宴ヲ張り來客ヲ待遇スルノ厚キニアラス却リテ其  
 宗教ヲ信スル篤キニアリ是故ニ英人ノ敵ト相戰フヤ皆ナ大聲ヲ放  
 ッテ義務ナリ義務ナリト呼ビ彈丸雨飛チ冒シ白刃電光ヲ蹈ミテ毫モ  
 怖色ナシ將軍ねるそん氏佛ノ奈破烈翁ト戰フニ當リ士卒ヲ勵マスノ  
 言ニ曰ク英國ハ諸君ニ其義務ヲ盡サンコト望ムナリト而シテ英人ハ皆  
 ナ此言ヲ以テ寔ニ英人タル眞誠ノ感情ヲ述ヘタル者ナリトセリ  
 英人ノ美術ヲ愛玩スルコトハ古ヨリ他國多ク其比ナシト雖ヒサリトテ  
 自ラ其技ニ長シ其術ニ巧ナリト云フヲ得ス例ヘハ壁間掛ル所ノ畫幅  
 及ヒ窓裡裝フ所ノ扁額ノ如キハ多ク皆以太利人ノ手ニ成ル者ニアラ  
 サレハ則チ必ス日耳曼人ノ筆ニ出ツルカ如シ然レニ最近ニ至リ美術  
 思想漸ク其地歩ヲ進メ殊ニ三十年前ニ於テ第一内國博覽會ノ開設ア  
 リ又タ南きんぐすどん博物館ノ設置等アリテ人心大ニ美術ノ研究ニ

歸嚮スルコトハナリヌ

英國今日ノ富饒ナルハ職トシテ英人ノ製造心ニ富ムニ由ル創造ニ巧ミ  
 ナレハ新奇ノ品物ヲ製作スルコト甚タ難カラス新奇ノ品物ヲ製作スル  
 コト多クレハコノ英人海毎ニ渡リテ其商業ヲ擴メ陸毎ニ上リテ殖民地  
 チ招キタルナレ然リ而シテ大英國ノ名聲ハ大英國アルノ故ニアラス印  
 土英領亞米利加及ヒ濠州ノ如キ大殖民地アルノ故ニ甚タ香シトナス  
 ヘシ

國語

歐洲ノ國語ハ其源皆梵語ヨリ出ツ今夫レちうどん族ノ言語ハ歐洲國  
 語ノ一ナレハ其ノ亦梵語ヨリ轉訛シ來リシ者タルハ理論ニ於テ甚タ  
 明カニ之ヲ事實ニ徵スルモ亦極メテ確カナリ然リ而シテちうどん族ノ  
 英國ニ入リシヨリ以還年ヲ經ルニ從ヒ不識不知ノ英人ハ概チ此語ヲ



用ユルコトハナリヌ世ノ所謂ルあんぐろさくそん語是ナリ現今字典  
 載スル所ノ國語半バあんぐろ族ノ當時ニ使用シタモノニシテ吾人ノ常  
 ニ談話上ニ用ユル俗語其六七ハ亦タ當時人民ノ慣用シタル者ナリト  
 云フ就中現今用フル所ノ冠詞代名詞副詞ノ如キハ大凡皆此族ニ出ツ  
 唯名詞ニ至リテハ今日多ク其同字ヲ見スト雖ヒ人、木、家、幸福等ノ如  
 キハ上古使用ノ儘ニシテ毫モ變化ナシト雖ヒ其外國語ヨリ輸入セシ  
 モノ及ヒ其輸入セル外國語ノ轉訛セシ者亦甚タ少カラズ而シテ其多ク  
 ハ羅甸語ノ小變セシ者ニシテ宗教上ニ用フル者ノ如キハ直チニ羅甸語  
 ナ使用スル者少カラズ又タ英語ハ希臘語ヨリ進化セシモノナキニア  
 ラサレヒ其數甚タ多カラズ其ノ猶太、土耳其及ヒあらびやノ諸國語ヨ  
 リ訛シ來リシ者ノ如キ其數殊ニ鮮シトス  
 現時英語ノ發音ハ之ヲ歐洲南國ノ音調ニ比スレハ急促ニシテ耳ニ美ナ  
 ラズト雖ヒ其意義ノ剴切ニシテ且ツ其富贍ナルハ唯希臘語ヲ除クノ外  
 更ニ他ニ比ナカル可シ是レ天下億兆ノ人之ヲ學ビ世界到ル處之ヲ解  
 シ商業若クハ漫遊ノ爲メ諸國ヲ通行セントスル者ノ豫シメ之ヲ學ブ  
 所以ナリ

文學

英國ノ文學ハ其起原何レノ邊ニアルヤト尋ヌルニ上古草昧ノ時ハ明  
 カニ之ヲ知ルニ由ナケレヒ兎モ角モ古代ニ在リテ流行シタル俗歌ノ  
 如キ者ハ文學思想發達ノ萌芽トモ云フ可キ乎然レヒ此等ハ所謂ル音  
 調甚タ不整ニシテ曲節亦野卑ナル者ナレハ直チニ之ヲ稱シテ英國ノ文  
 學ナリト云フ可カラズ

乙ーサー氏ハ實ニ英國詩作ノ鼻祖ナリ千三百四年ヲ以テ生ル其著出  
 カンターブリー、テール、ト題スル者ハ能ク當時ノ人情風俗ヲ描書セル

者ニシテ氏カ一世ノ絶作、史家亦之ヲ希寶トナセリ後千五百五十二年  
 ニソすべんさー氏アリ詩書十二部ヲ著セリ語ヲ用ユル極メテ温雅ニ  
 シテ構意亦甚タ微妙ナリ蓋シ初學詩ヲ學ブノ詩書ニアラス詩人詩ヲ  
 習フノ詩書ト云フ可キ也若シ夫レ英國語ニ永ク世ニ滅セサラン手  
 此詩モ亦タ詩人ノ手裡ヲ離ル、トアラサル可シ  
 戯曲ニ關スル詩作ハ十五世紀ニ至ル迄人ノ注意セサリシ所ナリシカ  
 一くすびーあ著作一タビ世ニ出ツルニ至リテ大ニ其好尙スル所トナ  
 レリ但シ一くすびーあ氏世ニ出テタルノ當時ハ人智尙ホ未タ進マ  
 ズ化育ノ程度低カリシトナレハ氏カ著述中ニモ往々當時固有ノ思想  
 ナ其儘ニ描キ出セル者アルヲ以テ間々現時ノ情勢ニ適セサル者ナキ  
 ニ非サレトモ兎モ角モ曲サニ情思ヲ穿チテ人事ノ万態ヲ述ヘタルノ文  
 藻葩麗ハ永ク天地ト滅セサラン後チ千六百八年迄とん氏アリ有名

ノ著書パラダイス、ロストト題スル者チ公ケニセリ此書ハ戰詩中ノ精  
 ナル者ナリパラダイス、ロストトハ失樂園ト譯ス可シ然レトモ氏ハ實ニ  
 詩人ニアラス學術モ亦タ當代ノ巨擘ト稱セラル其著ハス所ノ書少ナ  
 カラス皆ナ正論讜議自由保護ノ爲ニ述作セシ者ニノ現時ニ在リテ仍  
 ホ人ノ稱スル者ナリ  
 以上陳述シタル四氏ハ詩人中ノ詩人ニノ今日ニ至ル迄尙ホ多ク其數  
 ナカルヘク而シテ纔カニ之ト比スヘキ者ハとらいでんてにそん二氏ア  
 ルノミ近代ニ至リテばいゝるんば一と二氏アリテ其詩作ハ當代人民ノ  
 賞揚スル所ナレドモ蓋シ前四者ト同等ノ位地ニ立ツト難カラシ  
 論文ハ諸文体中人ノ最モ愛玩スル所ナリ而シテベールとんノ文体ハ極メ  
 テ簡ニシ且ツ明カニあはそん氏ハ温雅ノ文ヲ善クシマていれい、がいら  
 いる二氏ニ至リテハ則チ其文流暢人多ク之ヲ誦ス然レトモ歴史体ノ文

章ハ英文學中ノ最多部ヲ占ムル者ナリ就中ぎぼん氏ノ羅馬頌履史ローマの歴史マ  
 乙一れ一卿ノ英國史ノ如キハ無數書生ノ愛讀スル所ナリ  
 小説ハ極メテ多シ古代ノ著者ヘロドトスりんぐすもれど及ヒすたん三氏ノ  
 著書ハ趣旨甚タ粗ニシテ現時ノ世ニ行ハレズヒけんす氏ヘンリーたカれ一氏  
 ノ著書ハ世人普ク之ヲ愛讀スル所ナレヒ其萬古ニ亘リテ滅セサルヤ  
 否ヤハ余之レヲ今日ニ於テ豫シメ明言シ難シすスコットと氏ノ著作ハ多ク  
 今世ニ存セズ唯々イバンホート題スル一書ハ讀者ノ臆ヲ解クノ妙ア  
 ルヲ以テ稍々之ヲ稱スル者アルノミ而シテトよんそん氏ノ傳ハ則チ傳  
 文体ノ精ニシテ巡禮記ハ則チ喻文体ノ大ナル者ナリ

美術及發明

英國ノ人種ハ生來美術ニ巧ミナル性質ヲ具ヘズト雖ヒサリトテ亦タ  
 之レニ長セシ者ナキニ非ズ此等ノ徒ハ多クハ皆ナ遠ク以太利ニ至リ

テ其術ヲ研磨セシ者ナリト云フ蓋シれん氏ハ英國ニ在リテ最巧ノ美  
 術家ナリ曾テすちわると王ノ代ニ當リテ倫頓府ニ大火アリ氏ハ之レ  
 ガ爲ニ大ニ其技倆ヲ表ハスノ好機ヲ得タリ彼ノ有名ナル聖セントばーる寺  
 院ノ再築ハ三十五年ノ久シキニ亘リテ始メテ落成シ世界建築ノ第三  
 ニ位スル者ナルガ其構造皆れん氏ノ意匠ニ成ル者ナリト云フ亦タ畫  
 工ノ有名ナル者英國ニ多カラサルニアラサレヒ其出生ノ地ヲ尋ヌレ  
 ハ多クハ皆外國ニ生レ後チ英國ニ移住セル者ニシテ純粹ノ英人ニテア  
 リナガラ其技ニ巧ミナル者更ニ之レアルヲ見ズ後チラウリやむほがー  
 す氏世ニ出ツルニ至リテ名工始メテ英國ニ現出セルト云フテ可ナラ  
 ノカ其畫ハ則チ英國當代ノ情態ヲ描出セル者ニシテ其彫刻ハ亦氏ノ手  
 ニ成ル今仍ホ普ク世ニ行ハル、ヲ以テ見ルモ其名手タリシチ知ル可  
 シ後チ又れ一のるど氏アリ繪畫ニ關スル講談ヲナシ以テ大ニ英國ノ

美術ニ好果ヲ與ヘリた<sup>レ</sup>ねる氏亦名畫手ト稱セラル今日其筆意ヲ擬  
 スル者少カラス又タらんぞミ<sup>レ</sup>る氏ハ鳥獸ヲ畫クノ妙ヲ以テ當時ニ  
 名アリ然レ<sup>レ</sup>貴トナク賤トナク共ニ<sup>レ</sup>だ<sup>レ</sup>び<sup>レ</sup>せ<sup>レ</sup>らる<sup>レ</sup>き<sup>レ</sup>一氏ヲ目シテ名手  
 ト頌スルヲ客マサルヲ以テ見レハ氏ハ空前絶後ノ美術家タルニ論ナ  
 カラン其ノ盲人彈琴ノ圖ト盲人跨牛ノ圖ニ至リテハ歐洲大陸ノ人モ  
 尙ホ能ク之ヲ知ル故ニ予ハ之ヲ喋々辨セサル可シ  
 彫刻ノ技ハ則チふらんくすまん氏ヲ第一ニ推ス可シ其刀痕ハ皆ナ希  
 臘美術ノ精良ナル者ニ異ナラスちやんとれ<sup>レ</sup>一氏及ビベ<sup>レ</sup>ー<sup>レ</sup>こん<sup>レ</sup>氏ハう<sup>レ</sup>  
 する<sup>レ</sup>ミ<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>た<sup>レ</sup>一寺院及ヒ<sup>レ</sup>聖<sup>レ</sup>ぼ<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>る寺院ノ彫刻アルヲ以テ其名普ク世  
 ニ知ラル  
 英國ノ富饒ニシ且ツ商業ノ盛大ナルヤ世界ノ珍器重寶招カス<sup>レ</sup>皆倫  
 頓ニ來リ集マル故ニ内國美術館ハ以太利人西班牙人等ノ手ニ成レル

美術ノ精品多ク博物館ニハ上古あせん府ノ諸彫刻品アリ皆世人ノ目  
 ナシ希臘美術ノ雛形トナス者ナリ又タ南きんぐすとん博物館ニハ畫  
 祖らべ<sup>レ</sup>る氏描ケル大畫ヲ藏ス英國ノ美術品ニ富ム<sup>レ</sup>斯ノ如シ英人  
 ノ美術ヲ愛玩スルノ念次第ニ深キヲ加フル者蓋シ以ナキニアラス  
 音樂ノ進歩ハ世界中英國ヲ以テ第一トス琅々トメ神歌ヲ唱フルノ音  
 諸都府到ル處口之ヲ聞カサルナシ亦タ大ニ旅愁ヲ散スルナル可シ  
 世界ノ大發明ト稱スル者ニシ英人ノ手ニ成ル者多ケレハ英國ノ年代  
 記ハ爲メニ大ニ其材料ヲ増セリト云フ千七百六十二年英人掘割ヲ開  
 鑿シテ舟楫ヲ便ニセリ後チ各國亦皆此舉アリテ運輸行通ノ便大ニ開  
 ケ貨物產出ノ道遠カニ進ミシ者豈英人ノ賜ニアラスヤ千七百六十七  
 年紡績器械ノ發明アリ八十七年ニ至リテ織機ノ工夫アリ其他英人ノ  
 發明ニ係リテ人カヲ節約スルノ器械甚タ多ク勞役之カ爲メ俄カニ數

百倍ノ效驗ヲ顯ハセリ其後うとと氏蒸氣ノ作用ヨリ瀛鐘ヲ發明シす  
 てふん氏之ヲ瀛車ニ應用スルノ理ヲ講セシニ至リテ人工ノ妙茲ニ極  
 マルト云フ可シ蓋シ瀛車ノ利徳ハ三尺ノ童兒猶能ク之ヲ知ルコナレ  
 ハ予ハ特ニ此小冊誌中ニ之ヲ喋々スルヲ欲セサレハ英國ノ力爲ニ其  
 工業ヲ振作シ財貨ヲ増殖セシ者果ノ如何ソヤ故ニ英國ノ製造品ハ世  
 界何レノ市場ニモ現ハレ英國ノ商業ハ單ニ其製造品ヲ以テ盛大ナ極  
 ムルニ至レリ

宗教

英國ノ國教ハ基督教ナリ是レ今ヲ距ルコト千四百年前羅馬隆盛ノ當時  
 ニアリテ普教ノ爲メ僧侶遠ク來リテ教會ヲ茲土ニ開キシニ由ル後  
 チあるふれと大王ノ代ニ至リ施政宜シキヲ得テ人民ノ宗教ニ歸依ス  
 ル者亦甚タ多ク僧徒漸ク勢ヲ恃ミ財貨ヲ貪リ權柄ヲ縱ニセリ是ニ於

テ乎教道始メテ純ナラス人心離反ノ色アリうぐりふてんたるノ徒亦  
 起リテ宗教改良ノ急ナルヲ説ケリ顯利八世ノ代ニ及ヒテ新教勢ヲ得  
 テ漸ク舊教ヲ壓スルニ至レリ而メ方今新教ヲ以テ國教トナセシモノ  
 其ノ多數人民ノ信仰スル所タレハナリ蓋シ英人信仰ノ篤キ他國ノ比  
 ニアラサレハ其寺院教堂ノ壯麗ナルハ勿論英國有名ノ大學校及ヒ其  
 他高等ノ學校ニモ寺院ノ管理ニ屬スル者甚タ少ナカラズト云フ  
 千七百八十一年ニ當リぐろせすた一府ニるばるとれ一くす氏ナル者  
 アリ家貧ニシテ衣食ニ急ナル者ノ兒童ヲ召集シテ日曜日毎ニ之ニ授ク  
 ルニ道德教理ヲ以テセリ是レ實ニ今日世上ニ行ハルノ日曜學校ノ濫  
 態ナリトス

英國現時ノ基督教會ハ十八世紀ノ末ヲ以テ起レリ千七百九十三年う  
 りやむけり一氏教會ノ撰ム所トナリ印土ニ航シテ茲ニ普教ノ任ニ就

ク印土人民邪教ニ迷惑シテ敢テ改宗ノ色ナク却リテ暴ヲ腕力ニ籍リテ以テ基督教ヲ逐斥センコト事トセリ後チ教會ノ英ニ興ル者日又一日ヨリ多ク義捐ノ金額益々多キヲ加ヘシヲ以テ僧正もりそん氏セバ一氏ノ徒一命ヲ異域ニ損シテ以テ稍々印土ノ邪民ヲ文明ノ域ニ導ケリ

基督教ノ世ノ文明ニ影響ヲ與ヘタル唯々是レノミナラストよんほじると氏獄屋ヲ巡覽シテ囚人ヲ待遇スルノ苛刻ナルヲ論シ以テ監獄規則ヲ更正セシメうるふあー氏ハ卒先シテ奴隸廢止ヲ主張シ遂ニ國會ヲメ其條令ヲ公布セシメタル如キ其最モ著大ナル者ナリ而今ヤ世ノ最大惡即チ過飲ノ減少セシ者豈ニ亦教化ノ力ニ由ルナキヲ得ンヤ

英國之現狀

英國ノ繁榮ハ數百年ノ久シキニ亘リ而モ今日ニ至リテ毫モ萎靡衰頽ノ兆アルナシ然ルニ國內ニ近眼輕躁ノ徒アリ衰ンテ曰ク我カ英國ノ衰頽ハ眼前咫尺ノ間ニアリト然レモ是レ基礎ナキノ恐怖ニシテ毫モ信認スルニ足ラサル其ナリ試ミニ思ヘ國家事アラソカ國債ヲ募集スルコト甚タ容易ナリ之レ英人富饒ノ徵ニアラスヤ石炭山ハ之ヲ採掘スルコト久シケレモ曾テ盡クルコトナシ之レ英國工業ノ後來益々進歩スヘキノ徵ニアラスヤ英國ノ衰頽眼前ニアリトハ眞ニ荒唐無稽ノ言タルノミ且ツ夫レ英國ハ千七百六十年以來今日ニ至ル迄僅々一百二十年間ニ於テ長足ノ進歩ヲナシ社會ノ局面ヲ改新シタル殆ント量リ知ル可カラズ運河四モニ開ケテ舟楫ノ便ヲ増シ鐵道各地ヲ連絡シテ貨物貿易ノ利多キヲ加ヘタルガ加キ其他限リナキ製造場ノ各府ニ興起シテ器械發明ノ日々ニ増加スルカ如キ皆是レ貨財繁殖ノ本源ニシテ商

業隆盛ヲ致ス所以ナリ以上ハ皆ナ此百二十年ノ間ニ現出セル事件ニ  
 ノ決シテ英國古來ノ遺物ニアラスサレハ現時ノ英國ハ富財ノ饒カナ  
 ル舊時ノ英國ノ比ニアラスソ今日ノ英人ハ昔時ノ英人ヨリ良政ノ下  
 ニ棲息シ多量ノ幸福ヲ享有スル者ト云フ可シ且ツ夫レ英人今日ニ享  
 クル幸福ハ獨リ形而下ノミニ止マラス救濟法起リテ貧人怨マス善良  
 ノ法律發布セラレテ民堵ニ安スルカ如キ其他惰民ヲ獎勵スルノ法又  
 ハ勞役社會ノ生計ヲ改良スル會社ノ如キ皆是レ形而上ノ幸福ヲ目的  
 トスル者ニソ亦タ英國ノ方向微進ニアラサルヲ証ス可シ嗚呼英國ハ  
 ヒョーヒ第三世後今日ニ至ルノ開進ハ其駿速ナル已ニ此ノ如シ若シ  
 夫レ米人ニシテ英國ノ文明ヲ承認シ而メ其ノ己レノ本國タルヲ回想  
 セハ米人モ亦タ世界ニ對シテ得々然タルヲ得ヘキナリ

卷之五

合衆國

大西洋ノ航海モコトニ其終リヲ告ケ瀛船今ヤ方ニ紐育港頭烟波穩カ  
 ナルノ間ニ碇泊セリ蓋シ瀛船ニ乗ル者ハ彼ノ帆船ノ必ズ期ス可カラ  
 サル順風靜波ニ依頼シ而シ不幸ニメ一タヒ颶風逆浪ニ遭遇スルアレ  
 ハ輾チ一命ヲ魚腹ニ葬ラサル可ラサルカ如キ危險アルナシト雖ヒ一  
 周余日ノ久シキ萬里ノ怒濤ヲ一葉浮沈ノ間ニ經過シ來リシ歐洲ノ旅  
 客ハ忽チ山河ヲ翠綠ノ間ニ認メテ無上ノ愉快ヲ感スルコトナラシ殊更  
 此地ハみらん府コらん府トハ其趣キヲ異ニシ壯麗ノ寺院モナク又タ  
 巴里ふるれんす二府博物館ノ如キ彫刻繪畫ニ關スル希品モアルナシ  
 ト雖ヒ自然ノ景色甚タ佳ニシテ恰モ天其妙工ヲ玆土ニ施スカ如ク且

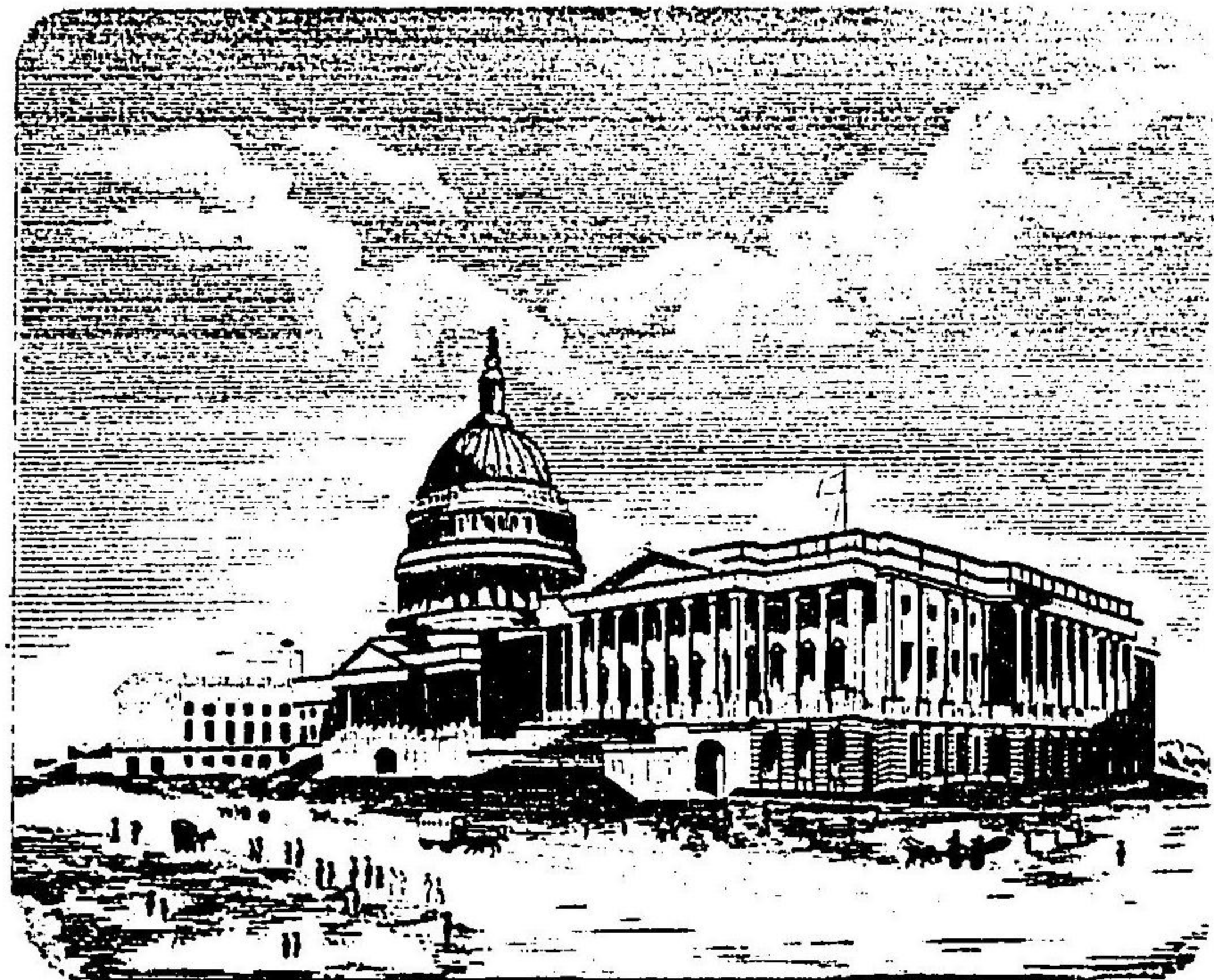
ッ地廣ク民衆ク將カニ新タニ一大國運チ創造セシテカムルノ秋ナ  
レハ旅客ノ耳目ニ觸ル、所ノ事物モ新奇ナル者少ナカラサル可シ  
都府

紐育府ハ紀元千六百十四年初メテ荷蘭土人民ノ移住スル所ニ係ル然  
レモ其進歩甚ク駿速ニシテ今ヤ倫頓巴里ノ二首府ヲ省ケバ世界都府ノ  
多キモ更ニ其右ニ出ツル者ナキニ至リ其商業ノ範圍甚ク宏大ニシテ  
尙ホ日々ニ進歩ノ勢アリ而シテ大街巨衢ノ稱アル者ハ皆商社旅店櫛比  
シ相連ル就中ウおゝる街トテ府ノ中央ニアル者ヲ最トス財貨ノ中心  
ト稱セラルルちりにてノ寺院ハ屹然天外ニ聳ヘテ此街ト相對ス僅カニ  
迂回スレハ時様ノ一大門アリ中央公園ニ至ルノ入口ト知ル可シ此公  
園ハ紐育府ノ最大奇觀ニシテ府人ノ特ニ外客ニ向ツテ誇稱スル所トス  
ト云フ

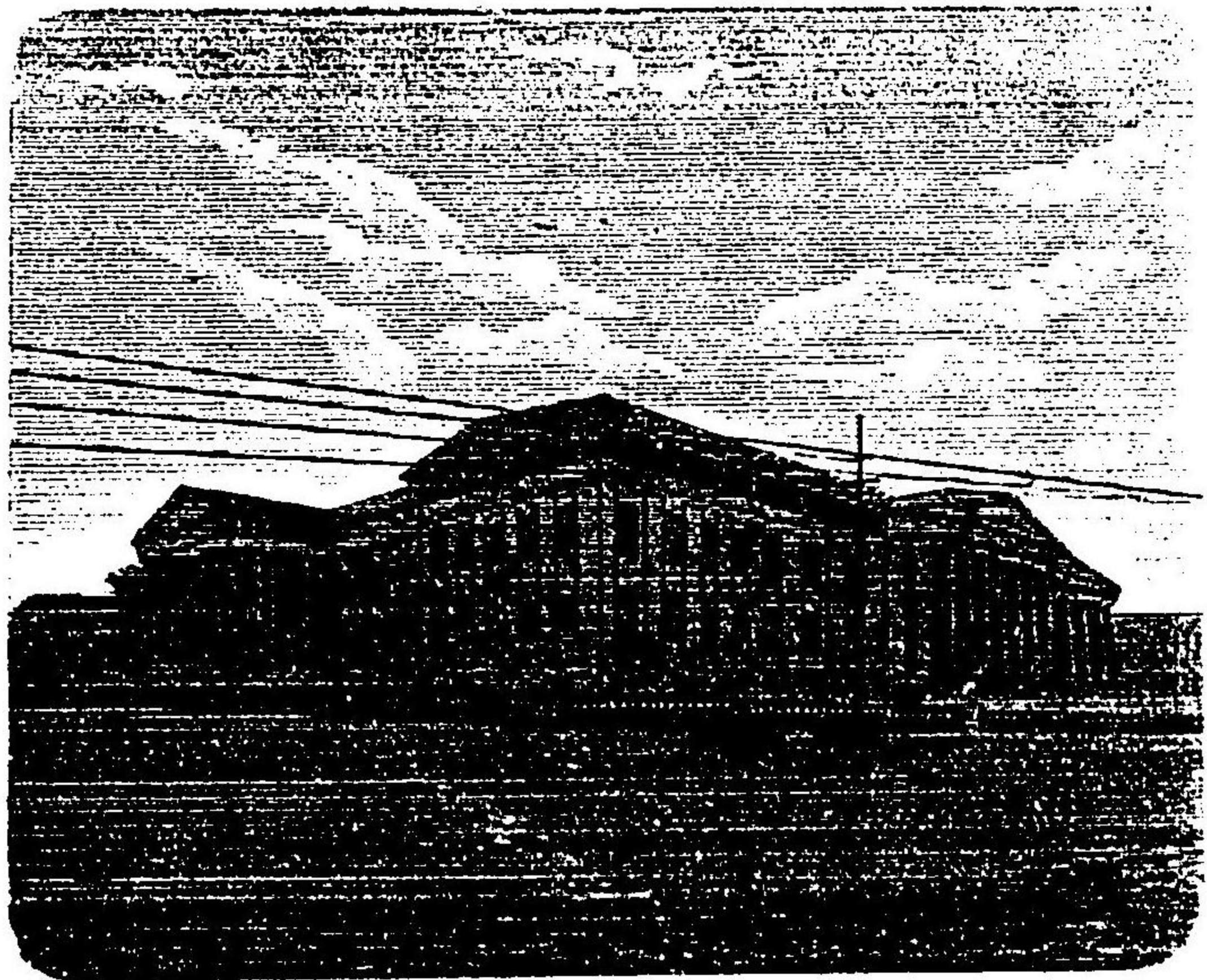
ぼすとん府ハ合衆國北部諸州中ノ最大ノ都府ニシテ其文物ノ燦然タル  
ヲ以テ世人之ヲ呼テ米國ノ雅典ト稱セリぼんかー丘ト云ヒに在ル堂ハ  
共ニ米國獨立戰爭ニ關スル者ニシテ丘上ニ紀念碑アリはーばーど大學  
校及ビ公立書籍館ハ規模廣大ニシテ又タ其公園ハ人工ヲ致セル者共  
ニ一見ノ價格アリトス  
費府ハ紐育ヲ距ルコト九十英里瀛車ニ乗スルハ僅カニ二時間ヲ以テ  
達ス可シ此府元來專ラ製造ヲ業トスル一大都會ニシテ小ハ則チ針ノ制  
作ヨリ大ハ蒸氣罐ニ至ル迄テ苟モ内國ノ需要ニ供スル者多ク此地ニ  
産ス舊政堂ハちすとん街ニアリ其結構ハ全ク煉火石ヲ以テ造レル  
者ニシテ階下ニ二大室アリ多ク肖像及ヒ古代ノ器物ヲ安置セリ其一室  
ハ夫ノ有名ナル米國獨立ヲ公布セル時ノ集會ニ供セル者ニシテ室隅ニ  
一大古鐘ヲ見ル是レ十三州ノ名代人獨立檄文ニ連署セル時ニ用ヒシ



堂治政國衆合加利米亞



局許特賣專國衆合加利米亞



遊漫國大五 (二五一)

者ナリト云フ千八百七十六年ニ於テ每百年博覽會ノ開場タリシ公園地及ヒきらると大學校ノ如キハ亦當府ノ一偉觀ト稱ス可シ  
ばるちもあ府ハ世人ノ石碑府ト稱スル者有名ノ記念碑多キヲ以テノ故ナリ就中華盛頓氏ノ記念碑ハ府人ノ常ニ異客ニ誇稱スル所ニ又其招魂碑ハ千八百十四年當市人ノ英兵ノ爲メニ死セシ者ノ記念ニ建立セシ者ナリ

華盛頓府ハ合衆國ノ首府ニシテ其官舎公堂ノ結構極メテ壯大ナリ異客若シ之ヲ一見スルニ於テハ共和國政務ノ情況ニ付キ多少ノ感慨ヲ惹起スルヲナラン特ニ專賣免許局ニハ千種万態ノ雛形ヲ陳列シ其麗宮ニ億ノミナラス以テ米人ノ勦造心ニ富ムヲ知ル可シ中央政務局ハ構造ノ精且ツ妙ナル世界第一ト稱セラル其長サ七百五十一英尺面積四千四百坪建築費三百萬弗ヲ要セリト云フ其室ノ大ナル者ヲ元老代議

合衆國

ノ二院トス米國古來名士ノ肖像ノ安置スルヲ見ルハ之レヲ漢土ノ驥  
 麟閣ニ比ス可キ乎其他書籍室ノ如キ皆大理石及ヒ其他ノ寶物ヲ羅列  
 シ裝置極メテ美麗ナリ蓋シ米國ノ最大偉觀タルニ背カサラン乎  
 其他せんどのいす府ーんーなち府にゆーおるれんす府桑港ノ如キハ  
 地圖ニ依リテ明カナレバ特ニ余ノ辨テ要セサルナリ願フニ以上諸都  
 府ノ長足ノ進歩ヲナシ以テ今日ノ繁榮アルハ吾人豫想ノ外ニソ世界  
 亦更ニ其比ナカラシ若シ夫レ合衆國ノ情勢ヲ審カニセント欲セハ先  
 ツ諸都府ノ事情ニ通スルコト太タ肝要ナリ

地勢

亞米利加州合衆國ハ温帶中ニ位シ北亞米利加大陸ノ最良地ナリ東西  
 ハ共ニ大洋ニ濱シ北ハ一連ノ湖水トせんどのれんす河トテ以テ英  
 領亞米利加チ境シ南方ハめさー乙灣ニ臨ム東西凡ソ二千八百英里ニ

ノ南北平均千二百英里アリ二大山脈國ノ南北ニ蟠マル但シみろらど  
 山中ニハ二万四千英里ニ達スルノ高峯アリ又江河甚タ多ク其長大ナ  
 ルハ亦少カラス東部ノ諸山ニハ鐵鑛石炭ヲ産シ北部ハ則チ銅ニ富ミ  
 西部ニ至リテハ金銀多シみすーびー河沿岸ノ原野ハ廣袤幾万里且ツ  
 地味肥沃ニシテ埃及國ないる河畔ノ平原ニ異ナラス目今合衆國ノ人口  
 ハ已ニ五千万以上ニ達セリト雖ヒ豐饒ノ地方ニシテ未タ開拓セサル  
 者甚タ多シ

合衆國ハ又タ名勝ノ地ニ富ム就中ハミシシソノ河トヒよるち湖トチ以テ  
 最佳トス歐洲ノらいん河トせねふ湖トニ比ス可キナリ又タ自然ノ大  
 奇觀ニハないやがら深まむもす崖及ヒあるろーすとん、ようすまいと  
 二公園アリ共ニ天下無比ト稱ス  
 古代人文未タ開ケサルニ當リテハ如此キ廣大ナル邦國ヲ統御センコ

實ニ容易ナラサルヘシト雖ヒ近世諸種ノ利器ヲ發明セシヨリ運輸交  
 通ノ便大ニ進歩シ實際ノ上ニハ土地ノ面積ヲ縮少セシ一甚タ明カナ  
 リろばるとはるとん氏カ千八百七年ニ於テ始メテ蒸氣船ヲ構造ノ儘  
 カニ三十六時間ニシテ紐育府ヨリあるばにーニ到達スルヲ得タルカ如  
 キ博士もゝるす氏ノ千八百四十四年始メテ電氣ヲ以テ音信ヲ通スル  
 ヲ發明セルカ如シ將タ國內ノ諸都府ニシテ船車ノ往來セサル者ナク  
 特ニ桑港ヨリおはいよ州ニ達スル道ノ如キハ皆是縮地ノ新工夫文明  
 ノ利器ニアラサルナシサレハ廣キ無邊ノ合衆國ニノ一統ノ治下ニ接  
 息スル者他ニ幾多ノ方法アリテ存スルニ依ルト雖ヒ其國語チ一ニス  
 ルト以上縮地ノ諸方法トハ寔ニ其主因ト稱ス可シ

歴史

合衆國ノ歴史ハ之ヲ分チテ、殖民時代、革命時代及ヒ合衆時代ノ三期ト



ニ走り後チ又タ米國ニ遁レテ飽迄其信スル處ヲ奉セントスル者ナリ  
 此年又タ一船獨逸ヨリ來リセ<sup>1</sup>むす河ヲ溯リテば<sup>1</sup>ヒにや州ニ上陸  
 セリ蓋シ此二船ハ歐洲文明國ニ様ノ種子ヲ米國ニ播布セル者ト云フ  
 可シ  
 蓋シ生存競争ハ概テ斯ル時代ニアリテ決メ免レサル事ナレハ此國殖  
 民諸族ノ間ニモ鬭争ノ止マサリシハ曾テ怪ムニ足ラス已ニ其鬭争  
 止ミ幾モナラス又<sup>1</sup>層ノ激論ヲ現出セリ今其次第ヲ釋ヌルニ<sup>1</sup>まれ  
<sup>1</sup>らん<sup>1</sup>地方ニアリテハ殖民新教ヲ奉スル者多ク北部ニ在リテハ又  
 タ舊教ヲ信仰スル者多キヲ以テ二者互ニ相容レズ各々其異教人ヲ虐  
 待ノ動モスレハ輾チ干戈ヲ其間ニ動カサントスルノ勢アリシガ既ニ  
 シテ又タ殖民地境界ノ事アリテ遂ニ一大争鬭ヲ英佛二殖民ノ間ニ惹  
 起セリ元來佛ハ<sup>1</sup>にゆ<sup>1</sup>、<sup>1</sup>おるれんす州ヨリ<sup>1</sup>ゑらい湖ニ達スルノ間ニ國

標ヲ建立セルニ英ハ其海上ノ土地ヲ占有セルヲ以テ勢佛ノ領地ヲ過  
 ラサルヲ得ズ而<sup>1</sup>佛之ヲ許サス争鬭久シキニ亘リシガ遂ニ其影響ヲ  
 二本國ニ及ボシ勝敗一時決セズ此地ノ誰ガ手ニ落ルヲ知ラザリキ  
 已ニ<sup>1</sup>う<sup>1</sup>る<sup>1</sup>ふ將軍凱歌ヲ<sup>1</sup>べ<sup>1</sup>く山頭ニ唱フルニ及ヒテ復タ腥風慘雨  
 ヲ見ズ

革命時代 至千七百六十一年至千七百八十九年

一千七百六十一年英王ト<sup>1</sup>よ<sup>1</sup>ト三世位ニ即キ既ニ其財政大ニ紊  
 亂シテ支出相償ハサルヲ以テ米國ノ殖民ニ公布スルニ印紙條令ヲ以  
 テセリ是ニ於テ乎米人稍々本國政府ヲ厭忌スルノ意アリ英王飽ク所  
 ナ知ラズ更ニ之ニ課スルニ茶稅ヲ以テセリ其歩合甚タ高キニ非リシ  
 ト雖<sup>1</sup>米人之ヲ納ルヲ拒ミ揚言シテ曰ク殖民全体ノ承諾ナキ租稅ハ  
 之ヲ納ルヲ要セス抑モ英國々會ハ米人ヲ代表セル者ニアラス代議士

ナキノ徴税ハ豈之レニ應スルノ義務アリヤト固ク正理ニ據リテ毫  
 セ動カス且ツ英國ノ二大政治家ちやさむ氏バークノ如キモ亦同様  
 ノ説ヲ抱持セシヲ以テ米人益々其説ノ正當ナルヲ固信シ千七百七十  
 四年諸部ノ殖民地ノ各代人費府ニ相會シテ今後本國ニ對スルノ策ヲ  
 議セリ米州第一集會ナル者即是ナリ其議員中ニハ名士頗ル多ク今仍  
 ホ吾人家内ノ茶話ニ入ル者亦少カラス已ニ議一決シ初テ大ニ英兵  
 トばんかー丘ニ相戰フ是ニ於テ敵愾心已ニ成リル米人皆其英國ニ臣  
 僕タルノ正理ナルヤ否ヲ問フニ違ナク奮テ獨立不羈ノ國民タラシ  
 ヲ望メリ千七百七十六年六月代議士れー氏州會ニ於テ揚言シテ曰ク  
 合衆國殖民地ハ古ヘヨリ一個ノ獨立國ナリ今ヨリ後ト雖モ亦自由不  
 羈ノ邦土タラザル可カラズト後チ一閱月ニシテ米國ノ獨立國タル可  
 キノ理ヲ詳明セルノ一文ヲ草シ總議員之ニ連署セリ世ノ所謂ル米國

檄文ナル者はナリ但シヒヒューせん氏トよんあだむす氏ふらんくりん  
 氏ーやーまん氏ノ五名ハ其草案委員タリト云フ若シ夫レ此檄文ノ議  
 場ノ認可ヲ得タルノ日ハ即チ合衆國ノ誕生日ト云フ可キナリ  
 已ニノ戰爭次第ニ激烈ヲ加ヘ殖民地諸兵ハ武器兵糧ノ乏キニ苦ミ又  
 タあるのるを將軍ノ反問ニ由リ一時大ニ其鋒ヲ挫キシガ大將華盛頓  
 ノ智謀ナル兵士ノ驍勇ナル國民ノ不撓ナル遂ニ米國ヲ塗炭ノ間ニ救  
 フヲ得タリこんうるすノ一戰復タ英ヲシテ非望ヲ逞フセシメザル也  
 即チ千七百八十三年巴里條約ヲ訂ブニ及ヒテ合衆國ハ南ハふろりだ  
 ヨリ北ハせんどろれんす河ニ至リ東ハ大西洋ヨリ西ハみすーびー  
 河ニ至ルノ一大獨立國トナル此時ニ當リ英雄豪傑ノ米國ニ輩出セル  
 者少カラス而シテ華盛頓ヲ推シテ第一トス可シ氏ハ千七百三十二年ヲ  
 以テばートにや州ニ生レ千七百七十五年使令長長トナル性極メテ温

良智勇兼子備ル其士卒ヲ使フヤ秋毫モ之レヲ虐待セス軍中ニ在リテモ常ニ士卒ニ德義ノ守ルヘキヲ丁寧訓誡セリ後チ氏カ大頭領ニ撰舉セラル、ヤ己レ一個ノ利害ニヨリ政權ヲ掌握シタル者ニアラス國民一般ノ利害ニヨリ然カセル者ニ尋常政治家ノ叨リニ政權ヲ弄メ自家ノ欲望ヲ逞フスル者ト同日ノ論ニアラス故ニ其千七百九十九年病ヲ以テ卒セルヤ之レカ爲ニ哀慟スル者皆ニ米國人民ニ止マラス遠ク歐洲諸國ニ及ヘリ其墳墓ハ故郷バ<sup>ー</sup>のん山先塋ノ傍ニ在リ

じふ<sup>そん</sup>氏ハ米國獨立檄文ノ主草者ニ華盛頓職ヲ辭スルノ後チ撰ハレテ大統領トナル在職八年其位ニ在ルヤ歐洲諸王ノ如ク徒ラニ外形ヲ脩メ邊幅ヲ裝フテ以テ威嚴ヲ示ス事トセス而シテ氏ノ執ル所ノ政略ノ主義ハ前大統領華盛頓ノ主義ト相反スル者アリ即チ氏ハ可成政權ヲ直接ニ人民ニ委テテ政務ヲ省略センコトヲ主張セリ

ふらんくりん氏ハ千七百六六年ヲ以テぼすとん府ニ生ル幼ニ印刷ノ業ヲ習ヒ已ニ成ノ出版人トナリ後チ又タ學者トナリ外交官トナル然レト之ヲ以テ氏ヲ稱スレハ正當ノ判斷ニ非ラス何トナレハ氏ハ著名ノ道義家タレハナリ其出世ノ進路ハ大ニ吾人ノ留意ヲ要スル所ノ者アリ年少ノ輩之ヲ學ヒ之ヲ倣ハ、爲メニ益スル所蓋シ尠少ニアラサル可シ氏千七百九十年ヲ以テ死ス享年八十五其万古ニ亘リ朽チル者ハ氏カ英政ノ羈絆ヲ脱スルニ盡瘁シ電氣ノ作用ヲ發明セル之ナリ

「上天ノ電ヲ掠メ又タ能ク暴君ノ笏ヲ奪フ」トハ氏ノ贊辭ニシテ諸書ニ散見スル所ナレハ讀者モ亦之レヲ熟知スルナラン

さみ<sup>る</sup>、あだむす氏ハ學士ト稱ス可ク又タ演說家ト云フ可シ其千七百七十六年八月ノ演說中英人徒ラニ財利心多キヲ卑シテ曰ク「英ハ商買ノ國ナリ」ト是ヨリ後二十年ニシテ佛帝奈破烈翁亦復タ此語アリ

蓋シ奈翁、あたむす氏ニ倣ヒシニアラス氏又奈翁ニ籍ルノ理ナシ識者ノ英國ヲ見ル概テ一ナリト云フ可シ

ばどりく、へんれー氏ハ革命時代ニアリテ第一位ノ演説家ナリ其辨論ノ法極メテ微妙、懦夫モ亦興起ス可シ殊ニ氏カ千七百六十五年ニ於ケル演説ノ如キハ其人心ヲ感動セルト最モ大ナル者ニソトふあーそん氏此演説ヲ評シテ革命ノ彈丸ニ初動ヲ與ヘタル者ナリト云ヘリ其演説中云ヘルトアリ曰ク「塞撒ニハふるたす氏アリちやいれす第一世ニハくろむらる氏アリヒよーヒ三世ノ代ニ於テモ言未タ終ラス謀反」ノ聲四方ニ起ル豈其人ナカラシヤ吾人若シ果ノ謀反ヲナストセンカ寧ロ謀反中ノ最大ナル者ヲナセト又タ千七百七十五年米國人民ニ愛國ノ念ヲ喚起セント欲シテナセル演説中ニ曰ク「吾人若シ獨立ヲ欲セハ戰ハサルヘカラス吾人ノ爲スベキ者ハ唯々干戈ニ訴ヘルト上帝

ニ祈ルノニアルノミト

ヒよんわだむ氏ハ當時政治家中ノ卓越ナル者ニソ且ツ其學術ニ精ナルハ其著書ノ今日ニ存スル者ヲ以テ推知スルニ足ル氏年甫メテ十有九歳遠ク革命ノ前ニ在リテ米國後來ノ氣運ヲトシ不智ノ殖民ヲ訓戒シテ曰ク「吾人若シ一成國ヲ造出セント欲セハ勉メテ結合一致ノ策ヲ講セサル可カラス」ト

革命戰爭ノ間ハ聯合規約ナル者アリテ能ク米人ヲシテ一致協同セシメタルモ元來此規約ハ兵馬勿々ノ間ニ成リシ者ナレハ完全無欠ヲ以テ稱ス可キニアラズレバ諸殖民地ノ間ニ各々其利害得失ヲ異ニシテ鬭爭ヲ惹起セシトモ間々之レアリキ故ニ千七百八十七年州會ヲ費府ニ開設シテ條令ノ改正ヲナセリニ時甲論乙駁徒ラニ空論ニ走り容易ニ其局ヲ結フノ勢ナカリシガふらんくりん氏ノ智アル遂ニ能ク一憲



法ヲ組織スルニ至レリ後チ之レテ各州ニ回送シ其承諾ヲ得テ始メテ  
共和國ノ不朽ナル憲法トナル實ニ千七百八十九年ナリ是ニ於テカ殖  
民聯合シテ一國民トナリ而シテ國歩次第ニ文明ノ進路ヲ取ルコトハナ  
リヌ

合衆時代 自千七百八十九年至現時

紀元一千七百八十九年華聖頓氏大統領ニトヨムワダむス氏副大統領  
ニ撰マル華聖頓既ニ職ニ在ルコト二期即チ八年任滿ツルニ及ヒテ三ヒ  
其撰ニ當ル氏固ク辭ソ受ケス同九十六年留別ノ辭ヲ刊行シテ自ラ退  
隱ノ意ヲ示セリ其職スル所ノ言極メテ精確万古ニ亘リテ滅セサル者  
ナリ是ヨリ先キ六年國民華聖頓府ヲ建テ、永ク氏ノ偉勳ヲ旌表シタ  
リシガ其後僅カニ十年ニシテ遂ニ合衆國ノ首府トナル以テ國人舉ケテ  
氏ヲ慕フノ情ヲ見ルニ足ル可シ是ヨリ後チ現世紀ニ亘リテ國運ノ振

興セルコト實ニ著シク歐洲移住ノ人民漸ク多キチ加ヘ耕作俄カニれカ  
り山脈ノ南ニ及ベリ一千八百二年ハハ州亦加リテ聯邦ノ一トナ  
リ翌三年るイトヤナ州ヲ佛國ヨリ同六年ふろり州ヲ西班牙ヨリ購  
買シ又六十七年ニ至リわらすカ大半島ヲ魯西亞ヨリ購求セリ當時恰  
モ汽船汽車ノ發明アリテ交通極メテ便ナルノ時ナレハ移住ノ民益々  
増加ノみすーびー沿岸ノ荒原モ今ハ麥穗浪ヲ漲ラスノ良田トハナリ  
又殊ニ又タ千八百四十九年大平洋沿岸ニ一大金礦ヲ發見シテかりふ  
るにや亦一大州トナリシ等全國到ル處平和ノ技術其偉功ヲ奏セサル  
ナシ

此一世紀ノ間ニ産業ヲ振作シテ其局而チ改良シタルコト斯ノ如ク著シ  
キ者アリト雖モ苟モ建國日尙ホ淺キチ以テ其間亦タ幾許カ戰亂ノ禍  
アルチ免ル、能ハス就中大ニ米國ノ作業ヲ防遏セル者三アリ英國政

府ガ米國船舶ヲ検査スルノ權利アリト聲言セシテ拒ミテ遂ニ是非ヲ干戈ニ訴ヘ相戰フコト二年千八百十四年ニ至リテ始メ局ヲ結ヒタル者是其一ナリ米國ノてきさす州ヲ聯邦ニ加ヘタルカ爲ニ隣國めきート不和ヲ生シすことにてゐるノ二將軍戰ニ勝ツニ及ヒテ風雨始メテ収マル者是其二ナリ(千八百四十八年)但シ米國此戰爭ニ由リ更ニにめきー乙及ヒかりふおにやノ二州ヲ得タリ而シテ第三ノ戰亂ハ最モ久シキニ亘リ且ツ最モ危激ナル者ニシテ一時世人ヲシテ合衆國ノ命脈モ是迄ナランカト思ハシメタリ是ヨリ前數年南部諸州ハ奴隸使役ヲ利アリトシ大ニ之ヲ賣買シ猶ホ北部諸州ヲシテ亦此例ニ倣ハシメントセシカ北部諸州ハ却テ大ニ其不利ヲ鳴シテ之ニ抵抗シタリ此ノ如ク南北其利害ヲ異ニシ國內ニ派ニ分レ其間漸ク釁隙ヲ生シ遂ニ相見ルコト吳越ノ如ク一州新タニ聯邦ニ加フルアル毎ニ互ニ其黨ヲ引カントシテ

其相嫉ムノ情一層甚タシキヲ加ヘタリキ千八百五十年かりふおるにや州自由勞役主義ノ一州トシテ新タニ聯邦ノ一ニ加ハランコト望ミ南北ノ間ニ一場ノ紛爭ヲ醸セリヘんれいくれい氏ナル者アリ一個ノ調停條款ヲ制定シかりふおるにや州ハ自由勞役ノ一州タルヲ得ヘシト雖モ此後尙シ奴隸ノ南部諸州ヲ通レテ北方自由諸州ニ入ル者アラハ自由勞役ヲ可トスル諸州ハ之ヲ其所有主ニ引渡スノ義務アル者トナシ一時其局ヲ結ヒシカ北部諸州ハくれい氏ガ此所謂脱走奴隸引渡條例ナル者ノ非ヲ鳴ラシ亦將ニ南部ト相隔テントセリ後チ千八百五十六年新盟州かんさすノ自由勞役州タルヘキカ將タ奴隸勞役州タル可カニ就キ一大葛藤ヲ生ゼシカ既ニ共和國ノ自由勞役州タルヲ得タリ是ニ至テ南北二部ノ間ニ敵愾ノ勢已ニ成レリ此ノ如ク二者相嫉視スルコト日ニ益々甚シク禍亂ノ機ハ毛髮ノ間ニ伏セシガ千八百六十年りん

こるん大統領ニ揚ラレ奴隸擴張禁止令ヲ發スルニ及ヒテ南部諸州斷  
 ノ之ニ違フコト肯セス合衆國ノ同盟ヲ脱シテ別ニ一聯邦ヲ成シ俄カ  
 ニさんたる城ヲ襲撃セリ是ニ於テカ南北二部互ニ干戈ヲ動カシ米國  
 數十万ノ生靈ヲ空シク修羅場裡不祀ノ鬼ヲラシムルノ慘狀ヲ演出セ  
 リ是レ所謂ル南北戰爭ノ起因ニシテ妖雲慘慄トシテ北米大陸ヲ蔽ヒ四  
 年ノ久シキ國人ヲシテ天日ヲ仰ク能ハサラシメタル所以ナリ既ニ  
 南部諸州ハ早ク其海港ヲ封鎖シ敵ノ來襲ニ備フルコト甚タ嚴重ナリシ  
 チ以テ初メ北軍常ニ利少ク成敗ノ數一時測ル可ラサリシガ已ニ北  
 軍みすー<sup>ッ</sup>ピ<sup>ー</sup>河氷解ノ利ヲ得尋イテ<sup>ー</sup>しるまん將軍ノトよるヒヤ州  
 チ陥ルアリ後チ又ぐらん<sup>ど</sup>將軍りちもん<sup>ど</sup>ヲ陥レ敵將り<sup>ー</sup>ノ軍ヲ降  
 スニ至リテ始メテ其軍ヲ戡ムルヲ得タリ然レヒ幾ナクシテ大統領り  
 ん<sup>こ</sup>るん兇手ノ爲ニ磔レタリトノ報ニ接シ國民平和ノ祝杯ヲ舉クル

ノ違ナク正サニ開キタル愁眉ヲシテ再ヒ翠マシムルニ至レリ實ニ千  
 八百六十五年四月十五日ナリ

是ヨリ後國民始テ大統領ぐらん<sup>ど</sup>へ<sup>ー</sup>す等ノ施政ノ下ニ泰平ノ治ヲ  
 樂ムヲ得タリシカ一千八百八十一年ニ至リ一時全國ヲ震動シタル一  
 凶事ヲ生セリ是レ他ナシ夫ノ前大統領故が<sup>ー</sup>ム<sup>ー</sup>る<sup>ど</sup>氏カ一朝狂人  
 ノ暴殺スル所トナリシコトニシテ幸ニ國家ノ安寧ト光榮トヲ損フニ及  
 ハサリシト雖ヒ國民ハ狂者ノ兇行ヲ嫉ミ天晴レ有爲ノ大統領ヲ惜ム  
 ノ聲ハ局外ノ人ヲシテ猶冀然タラシメタリ爾來諸州ノ間善ク調和シ  
 國勢益々盛ニシテ鼓腹擊壤ノ澤ニ浴セサルナク永ク其國ノ幸福ヲ天  
 ニ祈ラサルナシ

以上述フル所ハ是レ合衆國創建以來沿革ノ大要ナリト雖ヒ尙ホ此他  
 記スヘキ者ナキニアラズ則チ千七百九十五年擬麥酒(ウヰスキ)釀造者

一致團結シテ酒稅ヲ納ルチ拒ミ利ハ竹槍席旗ノ暴動ヲ逞フシ一時大ニ人心ヲ恐怖セシメタルカ幾モナクシテ鎮定セリ是所謂史家ノ擬麥酒ノ亂ナリ又一千八百四年ニハはみるどん氏ふる氏ノ決闘アリふる氏遂ニはみるどんヲ殺シテ軍隊ヲ召集シてきさす州ヲ陷レント欲セシモ事成ラスノ敗死セリ爾來國人ハふる氏ヲ以テ合衆國チ一分セント欲シタル謀叛者ナリト思料スル者多シト雖モ未タ之ヲ証スルニ足ル痕跡ヲ見サルナリ又千八百二十四年ニハ獨立戰爭ノ際專ラカチ米人ノ爲ニ致セル有名ノ佛人らふつと此國ニ來遊セルヲ以テ國人ノ歡喜大方ナラズ百方之ヲ懇待セリ翌一千八百二十五年之れ運河ノ功事成ル長サ三百六十英里是レ即チゑれ湖トはゑそん河トヲ連絡スル者ニシテ爾來運輸上一層利ノ便ヲ得タリ

一千八百二十八年内國ノ工業ヲ振作シ其商業ヲ興起センガ爲ニ政府

ハ保護稅則ノ制ヲ履行セリ然レモ計畫其宜シキヲ得ザリシノミナラス却リテ豫想外ノ變事ヲ惹起セリ何トナレハ千八百三十二年ニ至リ南カろりな州ハ此稅則ヲ非ナリトナシ合衆國同盟ヲ辭スルニ至リタレハナリ然レモ大統領ヒやくそん氏ノ剛毅ナルハ夫ノくれ氏ノ調停條款トニヨリ僅カニ之ヲ彌縫スルヲ得タリ當時トやくそん氏自ラ執ル所ノ施政ノ主義ヲ揚言シテ曰ク余ハ正當ノ事ニアラサレハ之ヲ爲サズ不正ノ業ハ之ヲ行ハスト云ヘル原則ヲ遵奉スル者ナリト

又千八百二十六年七月四日即チ獨立公布ノ後正サニ五十年ニ獨立檄文ノ起草者トイはずトふそん及ヒヒよんおだむすノ二氏ヲ失ヘリ二氏ハ共ニ米國有名ノ政治家タルハ勿論其副大統領ヲ經テ大統領ニ昇レルノ一事ニ至リテハ陰然符ヲ合スル者アリ然リ而シテ獨立公布五十年紀ノ當日ニ俄然トノ共ニ其終ヲ遂ケシガ如キハ吾人殊ニ多少